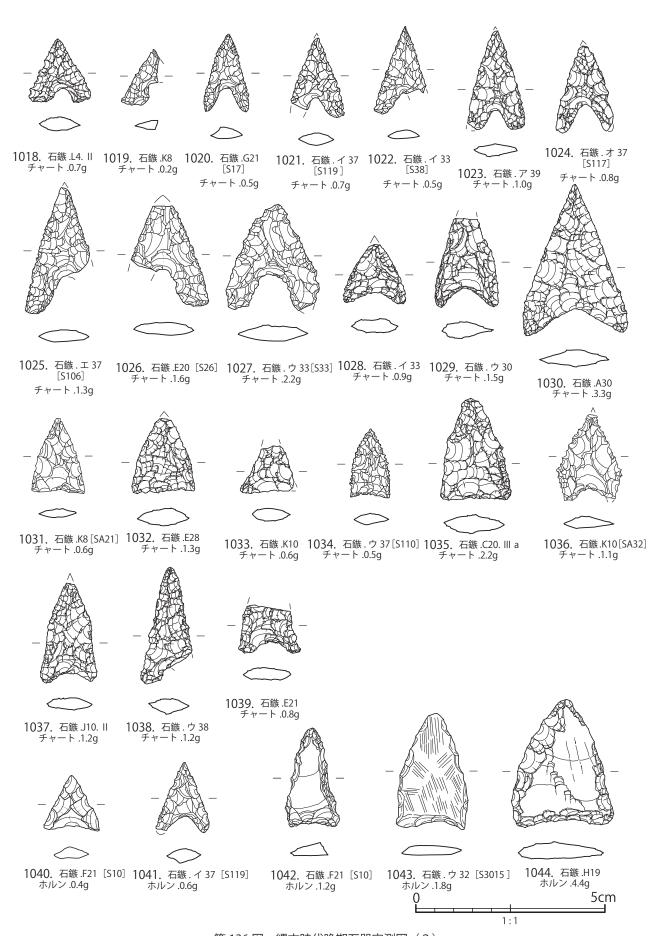
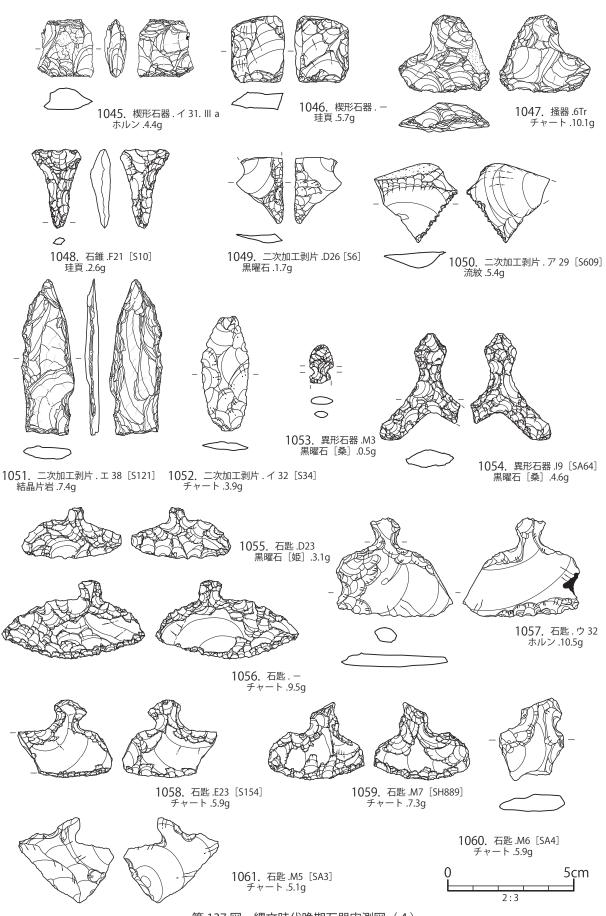


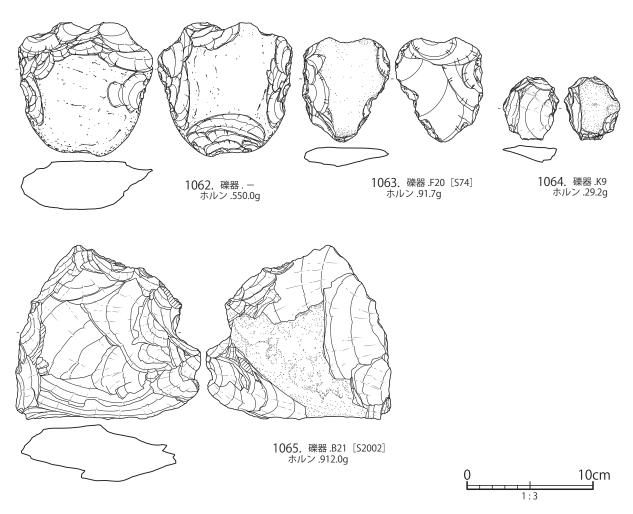
第 135 図 縄文時代晩期石器実測図(2)



第136図 縄文時代晩期石器実測図(3)



第137図 縄文時代晩期石器実測図(4)

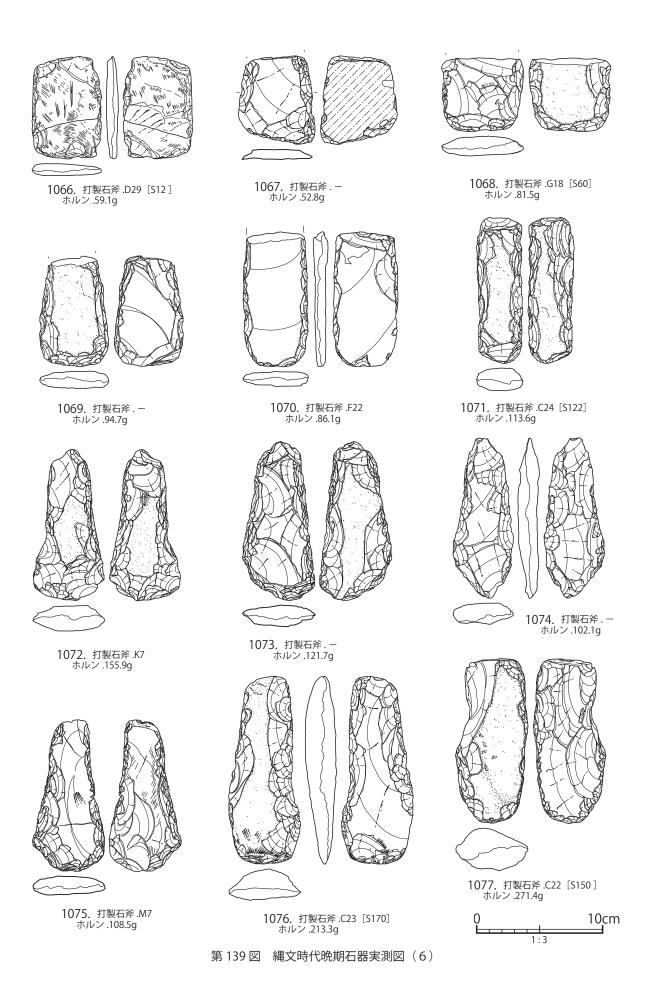


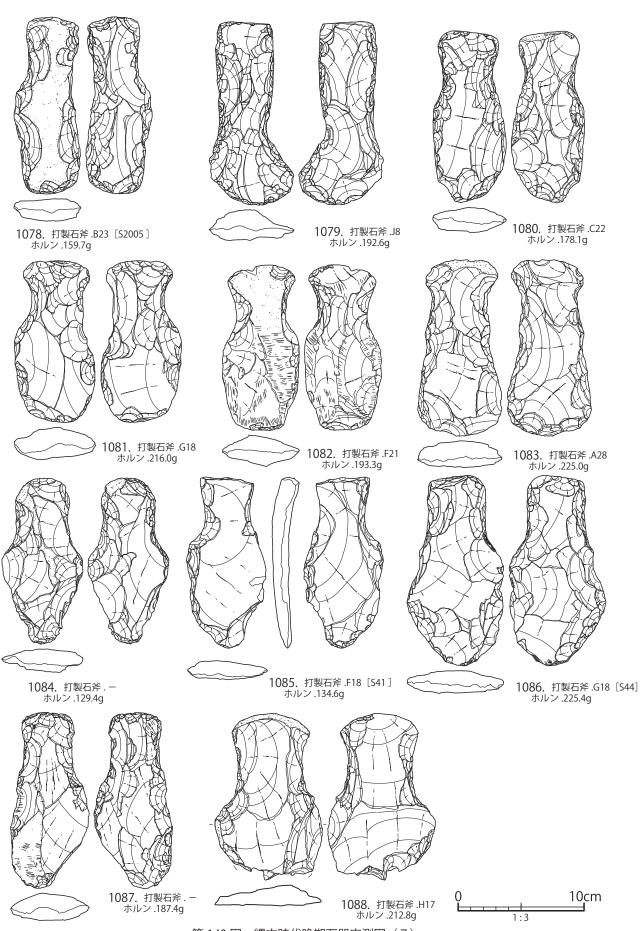
第138 図 縄文時代晩期石器実測図 (5)

第8表 縄文時代晚期石器器種組成表

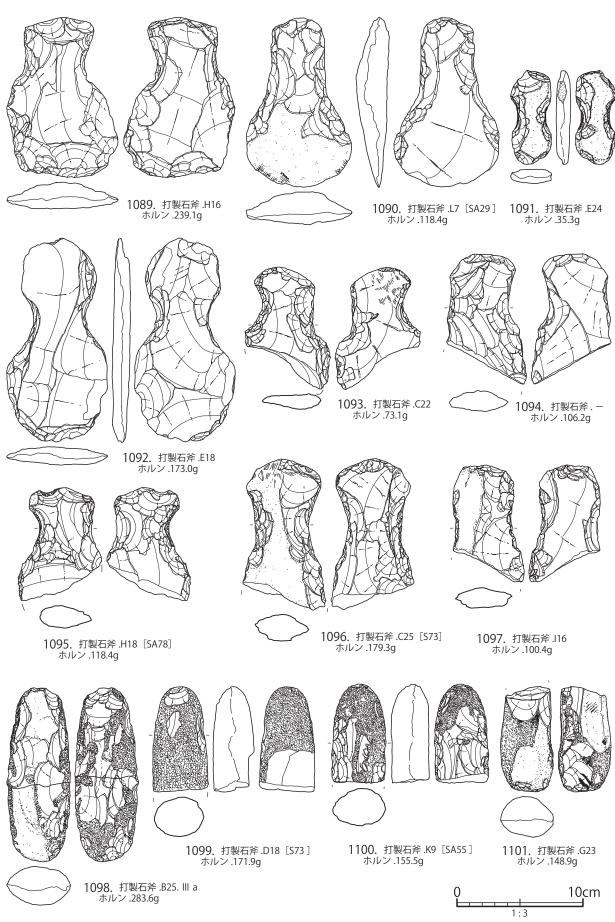
		黒曜石		チャート	安山岩	井唇百岩	結晶片岩	流紋岩	蛇紋岩	ホルン	砂岩	尾鈴	計
	桑ノ木津留	姫島	その他	7 7	女四石		心明八 石	川以石	邓水石	ハハレン	117/41	/七如	РΙ
石 鏃	8	45	9	56	32					9			159
楔形石器						1				1			2
石 錐						1							1
掻 器				1									1
工 次 剥 万 匙			1	1			1	1		21		1	26
石 匙		1		5						1			7
異形石器	2												2
打製石斧										498		3	501
磨製石斧								2	5	49			56
礫 器										16			16
石 錘										87	124	17	228
砥 石										4	2		6
棒状石器										2			2
敲石唇石類台石										24	233	206	463
台 石										11	76	7	94
岩偶										1	3		4
計	10	46	10	63	32	2	1	3	5	724	438	234	1568

[※] 第8表内の器種点数は包含層出土のものと、遺構内出土のものを加算したものである。

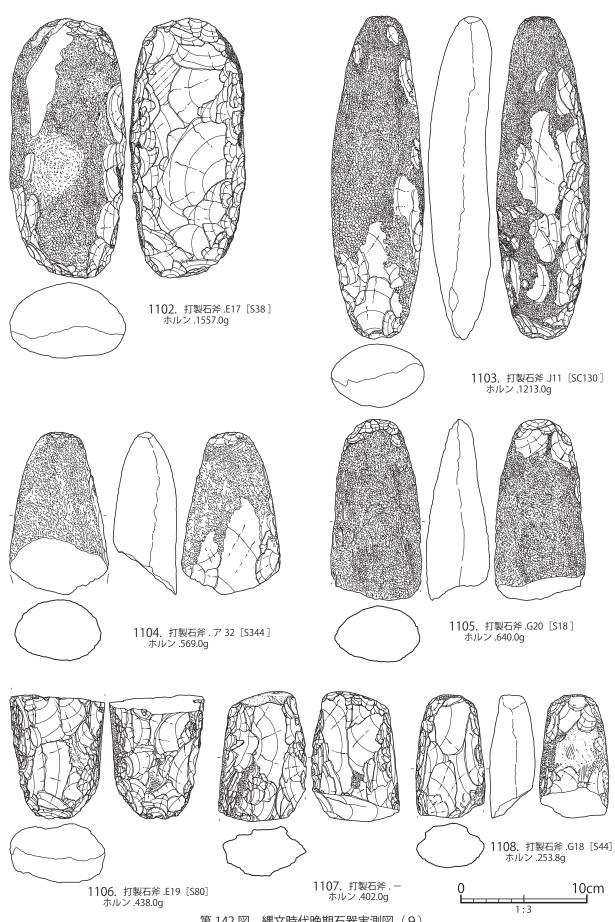




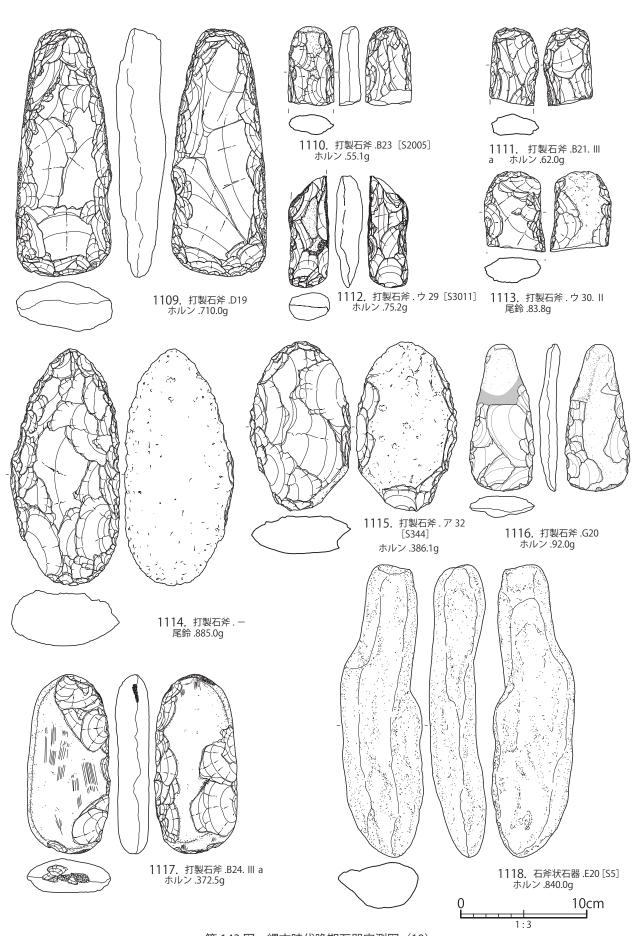
第 140 図 縄文時代晩期石器実測図 (7)



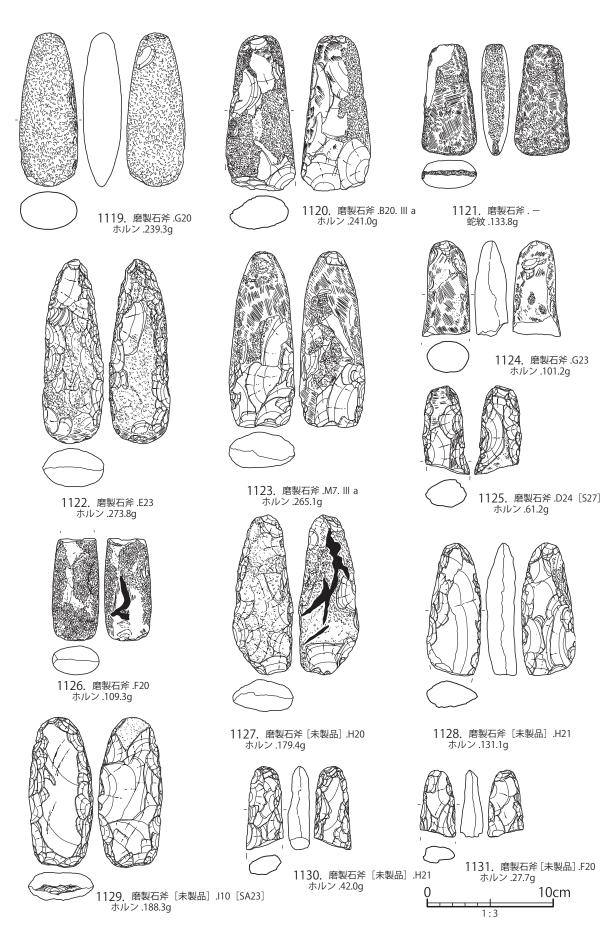
第141 図 縄文時代晩期石器実測図(8)



第142図 縄文時代晚期石器実測図(9)



第 143 図 縄文時代晩期石器実測図(10)



第 144 図 縄文時代晩期石器実測図 (11)









1132. 磨製石斧 .B21 1133. 磨製石斧 .B20 [S2528] 1134. 磨製石斧 .一蛇紋 .20.8g 蛇紋 .44.0g ホルン 53.2g

ホルン .53.2g

1135. 磨製石斧 J10 ホルン .50.9g

1136. 磨製石斧.-流紋.96.6g



1137. 磨製石斧 .G21 ホルン .33.9g



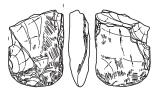
1138. 磨製石斧 .B24 [S17] ホルン .22.5g



1139. 磨製石斧 .D24 [S27] ホルン .40.2g



1140. 磨製石斧 .G18 ホルン .53.8g



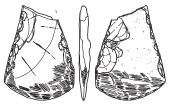
1141. 磨製石斧 .D17 ホルン .54.6g



1142. 磨製石斧 .F17 [S39] ホルン .26.1g



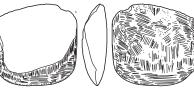
1143. 磨製石斧 .D20 [S210] ホルン .47.8g



1144. 磨製石斧 .B20 [S2009] ホルン .37.5g



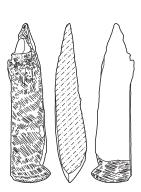
1145. 打製石斧.エ37 [S109/S108] ホルン.89.1g



1146. 磨製石斧. ホルン.119.8g



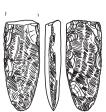
1147. 磨製石斧 .A32 ホルン .65.6g



1148. 磨製石斧 .B21 ホルン .110.6g



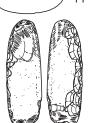
1149. 磨製石斧. E20 [S5] ホルン.58.7g



1150. 磨製石斧 .E23 [S154] 流紋 .40.7g



1151. 磨製石斧 .E17 [S38] ホルン .37.5g



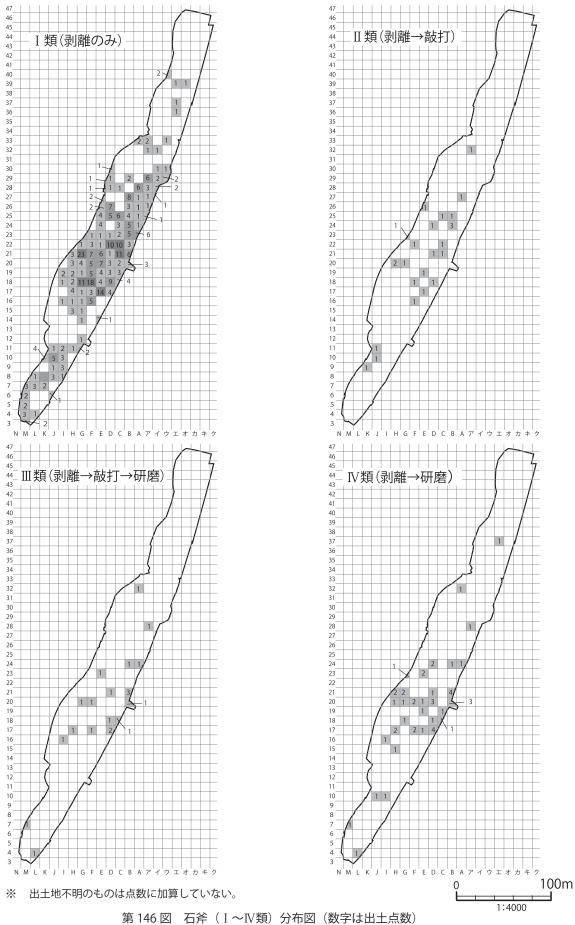
1152. 磨製石斧 .F17 [S39] ホルン .34.0g

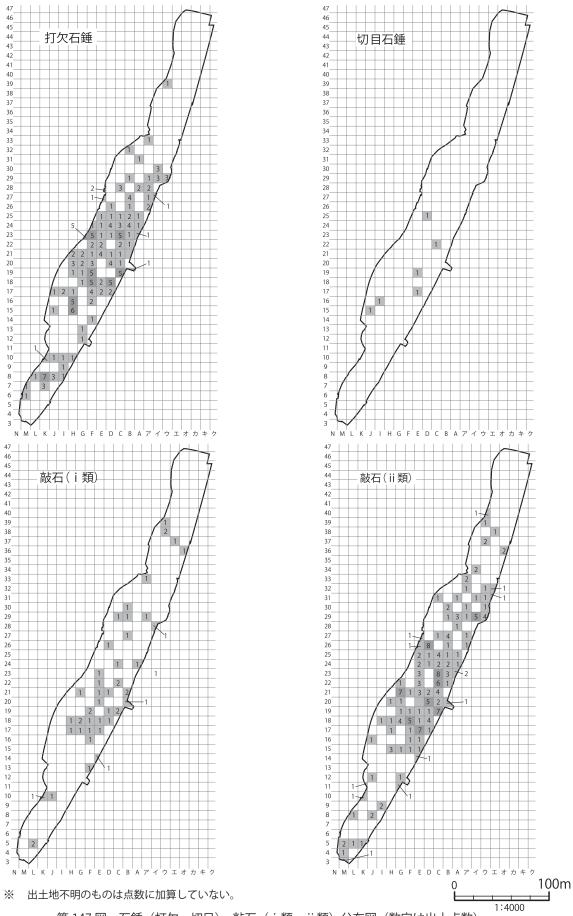


1153. 磨製石斧 .H17 ホルン .38.8g

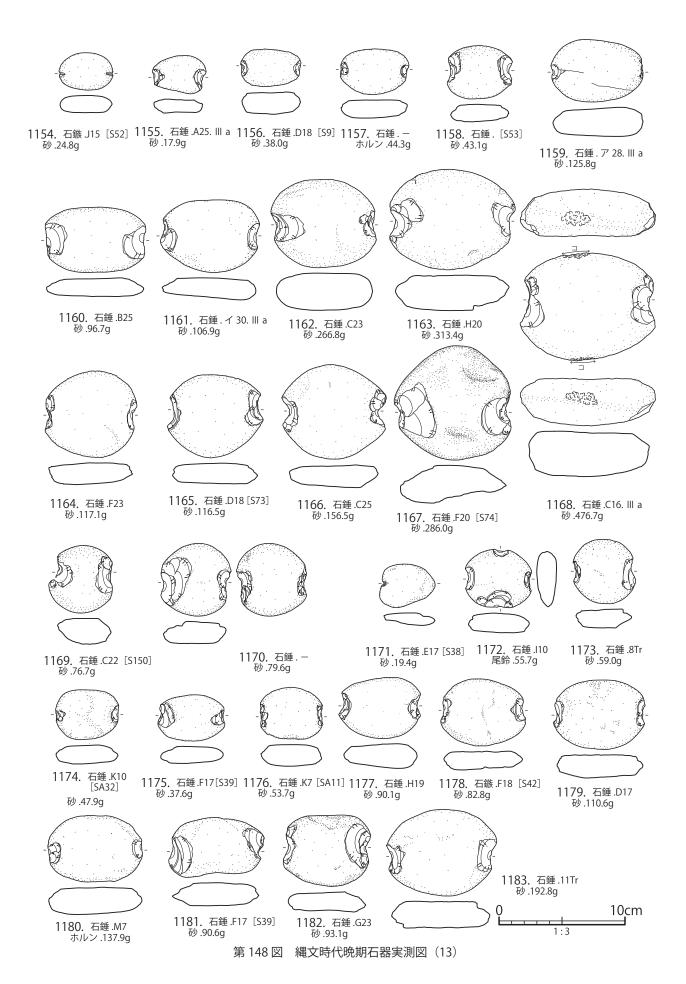
10cm

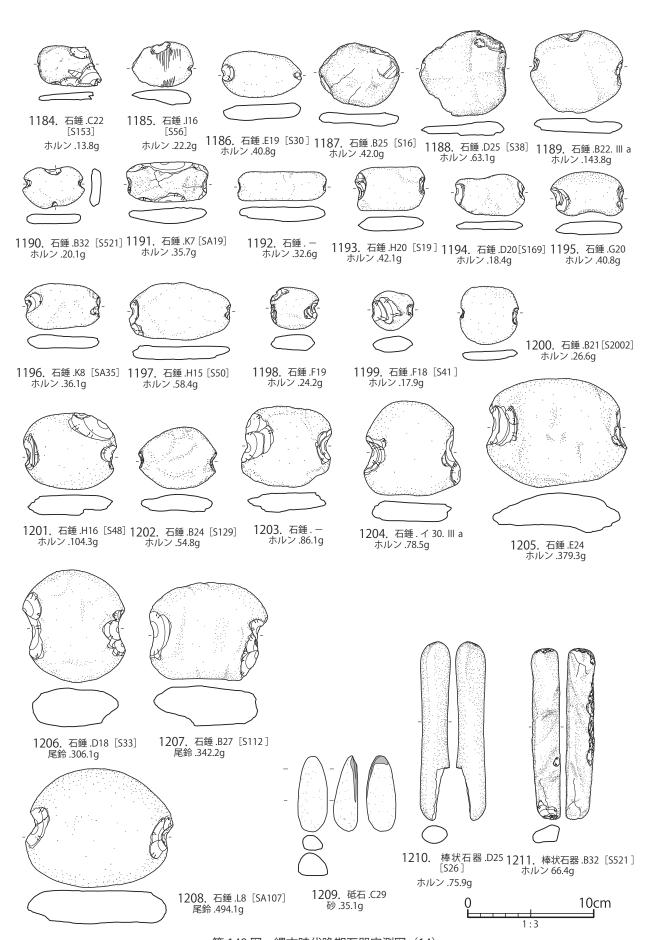
第 145 図 縄文時代晩期石器実測図 (12)



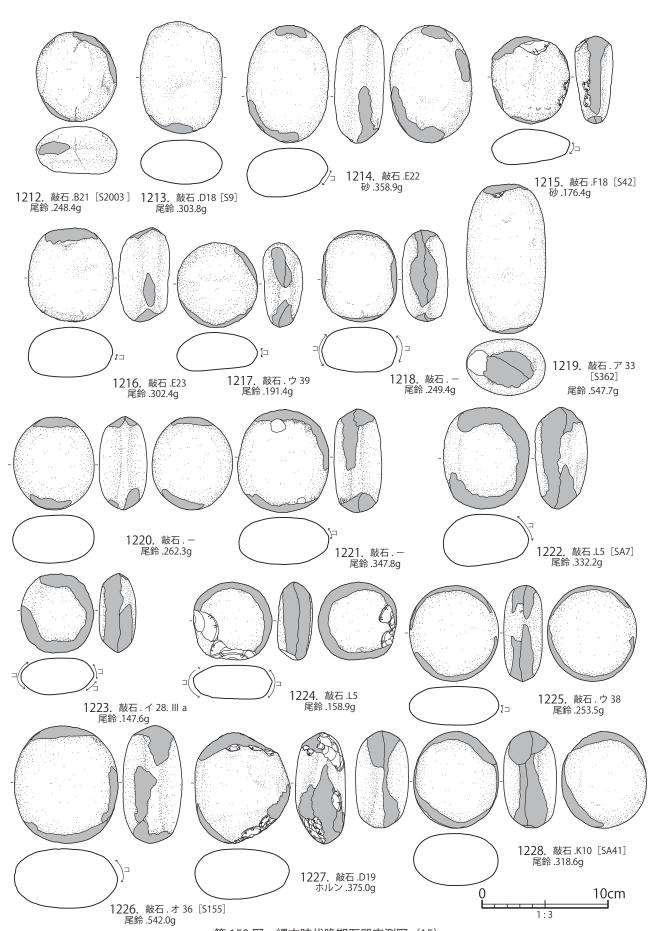


第 147 図 石錘(打欠・切目)・敲石(i類・ii類)分布図(数字は出土点数)

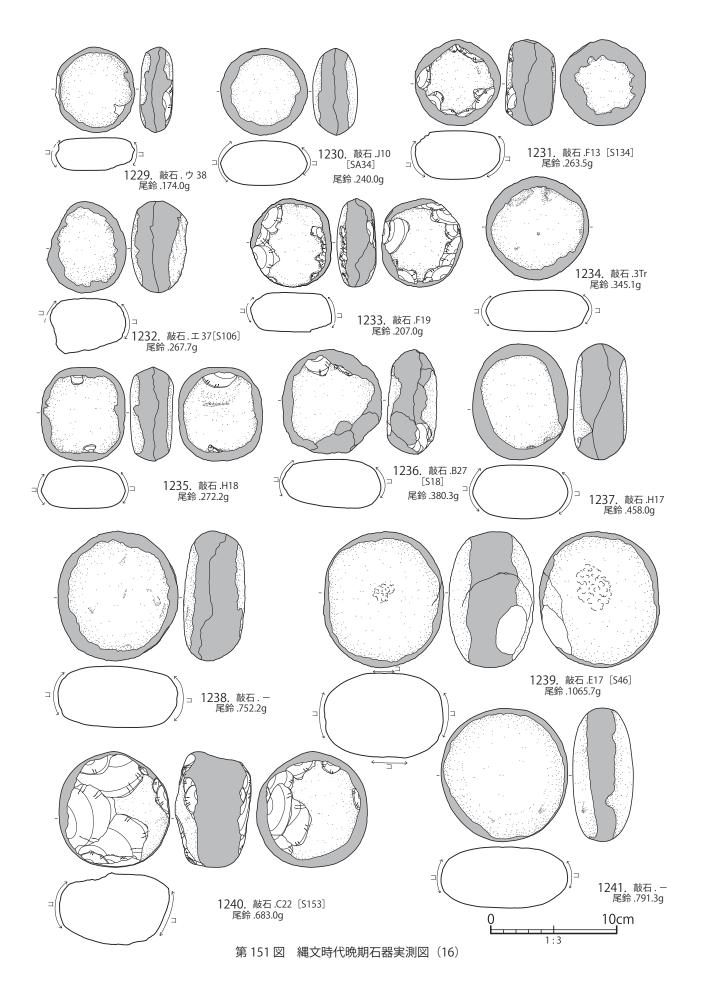


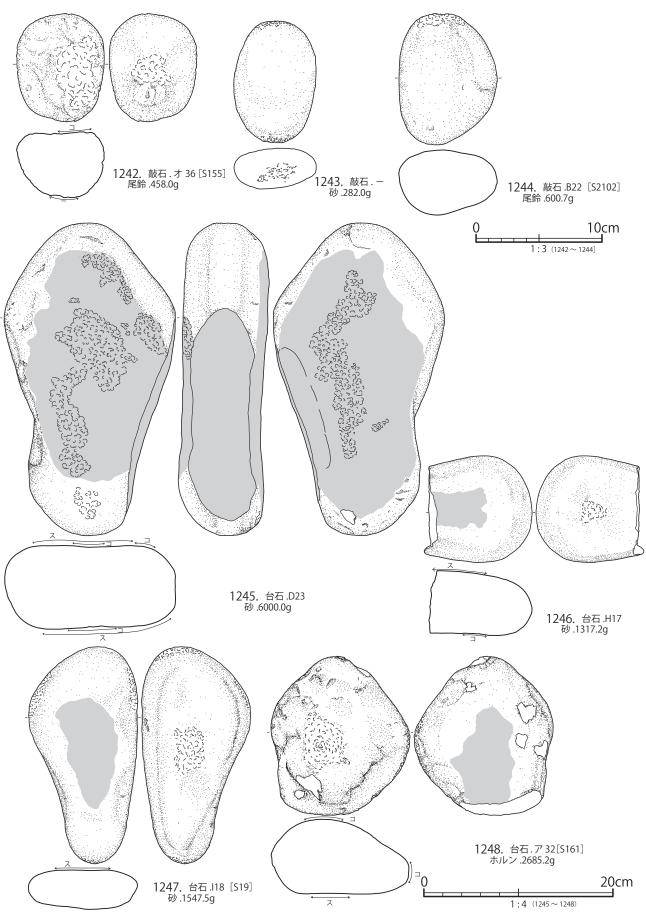


第 149 図 縄文時代晚期石器実測図(14)

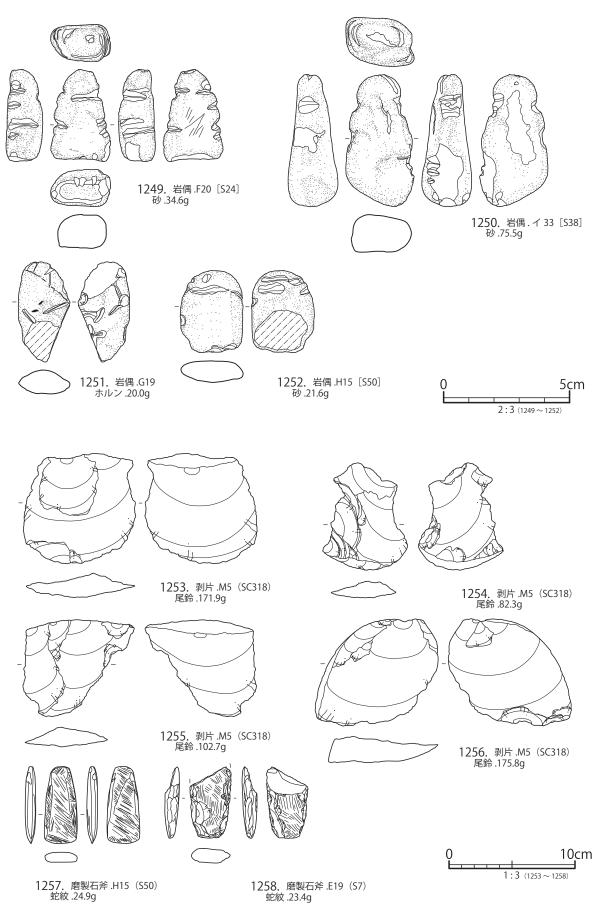


第 150 図 縄文時代晩期石器実測図(15)





第 152 図 縄文時代晚期石器実測図(17)



第 153 図 縄文時代晚期石器実測図 (18)

第V章 まとめと考察

本遺跡は、旧石器時代から近世まで、多くの時期 の遺構・遺物が確認される複合遺跡であるが、本書 では、旧石器時代〜縄文時代草創期、早期、前〜後期、 晩期に位置づけられる遺構・遺物について報告を行っ た。以下、時代ごとにまとめと考察を行う。

第1節 旧石器時代

旧石器時代の遺構・遺物は、複雑に重複する弥生 時代・古墳時代の竪穴住居跡等による改変により、 遺物包含層は大きな撹乱を受けている。さらに、包 含層より出土した遺物に関しても、同一層内に旧石 器時代の遺物と縄文時代草創期、早期の遺物が混在 している。

このような制約はあるが、本遺跡の特徴を示すものとして18点のナイフ形石器の出土がある(第8図1~18)。ナイフ形石器は、調査区北端に位置するカ43Gr. 周辺と調査区南端にあたるM5Gr. 周辺でその分布は集中し、その分布域は大きく異なっているが、出土したナイフ形石器からは共通した形態的・技術的特徴を垣間見ることができる。

ナイフ形石器の特徴には以下の4つが挙げられる。

- ①小形縦長剥片素材の比率が圧倒的に高い。
- ②インバースリタッチが施されたものが多い。
- ③剥離面に縦長剥片素材石核のポジ面を残すもの が多い。

④石刃技法を用いたものが多い。

これらの特徴から相対的に判断すると、本遺跡の ナイフ形石器は、宮崎 10 段階編年(宮崎県旧石器文 化談話会 2005) の第7段階に位置づけられる。

(文責:岸田)

《参考文献》

·宮崎県旧石器文化談話会 2005「宮崎県下の旧石器時代遺跡機関」『旧石器考古学』 66号 旧石器文化談話会

第2節 縄文時代草創期

縄文時代草創期では、竪穴状遺構が1基検出され、 遺構内から土器や石器などが出土した。このうち、 竪穴状遺構とした縄文時代草創期と断定できる遺構 (第 15 図 A1 SC256) は県内でもごく僅かであり意義 は大きい。

県内の類例は、清武町上猪ノ原遺跡第5地区の竪穴住居跡のみであろう。同遺跡の例では、遺構内に焼土や石組炉があり、周囲には柱穴と見られるピットが巡る状況である。また、遺構内からは多量の土器とともに石鏃、槍先形尖頭器、台石、敲石、磨石、剥片等の石器も出土している(秋成2007)。

本遺跡の竪穴状遺構にはピットや焼土が伴わず、 石器も台石、敲石、剥片に限られている。したがって、 竪穴住居跡と判断する根拠には乏しい。しかし、出 土遺物やこの遺構を中心に隆帯文土器の分布が広が る状況から、何らかの活動の痕跡であることは間違 いないと思われる。竪穴住居跡とすると、規模も他 遺跡の事例に比べてやや小振りであるが、住居跡の 認定としてその規模は範囲内ではあろう。現時点で は、竪穴状遺構とせざるを得ないが、住居跡である 可能性は指摘しておきたい。

竪穴状遺構内の土器群も重要な資料である。遺物の垂直分布がやや散漫であるため、厳密な意味での一括資料とは言えないが、比較的短い期間に使用された土器の形態を示す資料といえる。確認された3点の口縁部(第15図72、73、74)は異なった特徴を示しており、同一時期のバリエーションを示す資料として理解できよう。

また、竪穴状遺構内出土の底部については、底径が比較的大きなもの(第15図81、83)と小さなもの(第15図82、84)がある。鹿児島県三角山遺跡では縄文時代草創期において土器が大中小に分化しており、それらがセット関係にあった可能性が指摘されている(鹿児島県埋蔵文化財センター2006)。

(文責:福田)

- ・ 秋成雅博 2007「宮崎県上猪ノ原遺納における縄文時代草創期」「平成 19 年度國學院大 學特別推進研究「先史日本における土器出現の歴史的・社会的意義」研究報告会資料集」 國際院大學者古学研究室
- ・鹿児島県埋蔵文化財センター 2006 『三角山遺跡群 (3) (三角山 I 遺跡)』 鹿児島県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第96集

第3節 縄文時代早期

1 集石遺構について

本遺跡では、243 基の集石遺構が検出された。しかし、これまで幾度も触れているように、III b層 (K-Ah) 下位まで掘り込まれる弥生時代以降の遺構等により、集石遺構は削平や二次的な移動が想定される。

また、個体別の集石遺構の検討についても、本書でB類とした掘り込み・配石を持たない集石遺構は、まさに「礫の絨毯」とも呼べるような散礫が検出されている本遺跡では、その遺構認識の差異といった問題から客観性に欠ける。

そのため、ここでは、掘り込みを伴う集石遺構に 限り、以下の3つの点を中心に検討を行う。

- a. 炭素 14 年代測定の結果と集石遺構について
- b.配石を有する集石遺構について
- c.集石遺構の分布について

上記のa、b、cは、以下に示す本遺跡の特徴に着目したものである。

- a:自然科学分析結果の援用により、客観的に集石 遺構を検討できる
- b:上部削平の資料が多い中で、集石遺構の平面形態や残深、内部礫の石材、大きさ、重量の分析は検討に向いていない。しかし、配石は人が意図して「配置」したものと考えられ、傾向が見出せる可能性がある。
- c: 広範囲にわたり調査が行われた本遺跡において、 台地上の中での集石遺構の分布の傾向を見ることができる。

a. 炭素 14 年代測定の結果と集石遺構について

炭素 14年代測定の結果によって、集石遺構の特徴に言及している遺跡に清武町船引台地上の遺跡群がある。このうち、滑川第1遺跡では炭素 14年代測定の結果を受け、早期の集石遺構について以下の時期大別を行っている。(清武町教育委員会 2006)。

- 1) 9350年 BP 頃:"ボウル状の大型の掘り込みを持ち、かなり磨耗した礫が掘り込み中央に集中するタイプ"
- 2) 8500年BP~8200年BP頃: "掘り込みを持つタイプ"
- 3) 7500 年 BP 頃: "礫が平面的 (円形) に集中するタイプ"
- 4) 6800 年 BP 頃: "円形の掘り込みを持ち礫がギッシリと詰まった小型の集石遺構"

滑川第1遺跡は、宮崎平野部南端に位置し、標高 80~85mの台地上に立地する。遺跡の近隣に清武 川が流れ、遺跡周辺には湧水地点も確認されている。 本遺跡と立地する地域こそ違うが、地形条件は同じ と思われる。

本遺跡では、19基の集石遺構に対して炭素 14年 代測定を行った。各分析結果については、文中に示 したが、それをまとめたものが第 9 表である。

第9表をみると、時期的な差はBC8,500年~BC8,000年、BC7,500年~BC7,000年、BC6,500年前後の3つの範囲を見出せる。このうち、9400±50BPと分析値が示したA5 SI31はボウル状の掘り込みを持ち、礫が遺構上部付近に集中する。

7500年BP~7700年BP頃の分析結果が得られた A1 SI59、A4 SI6、A3 SI103、A5 SI17は、全て配石を 有さず、浅い掘り込みを持つものである。

第9表 集石遺構炭素 14年代測定結果一覧表

測定番号	遺構名	補正 ℃ 年代	試料採取位置	B.C. 9,000	B.C. 8,500	B.C. 8,000	B.C. 7,500	B.C. 7,000	B.C. 6,500
Beta-226346	A1 SI2	8760 ± 40BP	内部礫中				·	·	-
Beta-226347	A1 SI23	8230 ± 40BP	配石内						
Beta-226348	A1 SI46	8280 ± 60BP	配石上部						
Beta-226349	A1 SI59	7770 ± 50BP	内部礫中						
Beta-226350	A1 SI65	8390 ± 40BP	配石上面						
Beta-226351	A1 SI70	8480 ± 60BP	配石上面						
Beta-226352	A1 SI76	8360 ± 50BP	内部礫中						
Beta-226353	A1 SI8	3860 ± 40BP	配石周辺			(BC2470-BC2	2200) サンプリングエラ-	ーか	
PED-8494	A1 SI18	8155 ± 30BP	遺構底部付近						
PED-8495	A1 SI46	8345 ± 30BP	遺構底部						
PED-8496	A1 SI95	8130 ± 30BP	遺構底部						
Beta-226345	A3 SI25	8350 ± 50BP	遺構底部						
Beta-226324	A4 SI6	7560 ± 80BP	遺構底部						
PED-8535	A3 SI103	7780 ± 30BP	遺構内出土炭化種子						
PED-8536	A3 SI141	9090 ± 35BP	遺構内出土炭化種子						
PED-8537	A3 SI150	8865 ± 35BP	遺構底部						
PED-8538	A3 SI151	7815 ± 30BP	遺構底部						
Beta-226368	A5 SI17	7530 ± 40BP	遺構底部付近						
Beta-226369	A5 SI31	9400 ± 50BP	遺構底部付近						

は 1 σ (Bate: 68%確率、PED: 68.2%確率)

は 2 σ (Bate:95%確率、PED:95.4%確率)

8500年BP~8000年BPを示す11基の集石遺構(A1 SI8 は除く) は、全て掘り込みを持ち、さらに配石を有している。

このように、炭素 14 年代による分析結果は、船引 台地上の遺跡群の炭素 14 年代による集石遺構の時期 大別を追認する結果となった。

小丸川を挟んで対岸する野首第2遺跡でも、集石 遺構が189基検出されている。炭素14年代測定に よれば8500年BP頃と結果が得られた集石遺構は、 そのほとんどが掘り込み・配石を有している。さらに、 集石遺構の特徴が、調査区により異なるといった調 査成果も報告されている。

こうしたことから、小丸川周辺においても、集石 遺構の持つ属性により時期の大別を行うことは可能 と思われる。

b 配石を有する集石遺構について

配石を有する集石遺構(A I 類)は44 基検出され、その内32 基が調査区南より検出されている。ここで調査区南において、各類型別に分布をみると、傾向としては弱いもののA I 類周辺に規模の小さなA II 類が分布している。

また、AI類はAII類に比べ、掘り込みが深い傾向が強く、さらに第3表 (P38)で示したように、AI類どうしが切り合いを持つものはなく、多くは、AI類との切り合いであった。これは、AI類とAII類の基数の寡多を勘案しても明確な差である。

このうち A I 類を A II 類が切る A1 SI76、77(第36 図)や A1 SI51、52(第47 図)のように、一方の土坑壁面には、配石が敷き詰められているのに対し、 A II 類の集石遺構が掘り込まれることにより、土坑壁面に敷き詰められた配石は除去されたことが確認されるものもある。

勿論、AI類とAI類との切り合いについては、これまで幾度か指摘される「準備礫・廃棄礫」(宮崎県教育委員会 1985、清武町教育委員会 2004)といった、同時期に存在した異なる機能をもつ施設であった可能性も想定しなければならない。しかし、AI類同士の切り合いが確認されないこと、AI類をAII類が切る傾向が強いこと、前述した自然科学分析

の結果から、本遺跡においてAI類は、台地上に人々が住み始めた初期段階の遺構であり、AI類はAI類に付属する同時期の施設あるいはAI類に後続する集石遺構である。

これまでAI類とした集石遺構が本遺跡においては初期段階に位置づけられる可能性を示したが、各集石遺構の配石の「配置」の特徴は一定ではない。

ここでその傾向を大まかに示すと、以下の5つの傾向を見出すことできる。

- ①: 土坑とは別に配石を意識した掘り込みを持ち、配石が配置されるもの (A3SI14、A1SI46)
- ②: 土坑下部に配石が面を持って配置されるもの (A1 SI40、A1 SI77)
- ③: 土坑下部に配石がボウル状に配置されるもの (A1 SI70、A1 SI95)
- ④: 土坑上端まで配石が壁面を沿うように配置されるもの (A1SI8)
- ⑤:内部礫に比べ大きな礫が散在するもの

(A4SI2, A1SI16)

①~⑤とした配石の「配置」は人が機能差等による意図が働いたために起こると思われるが、上記の分類のうち、②、③が多くを占め、①、④としたものは図化したもの以外には存在していない。また、⑤に関しては、内部礫に比べ明らかに大きな礫が含まれるが、これが配石を意図し「配置」したものとは限らず、配石が抜き取られた可能性や、内部礫の可能性もある。

c. 集石遺構の分布について

本遺跡は台地上に、調査範囲が設定され、集石遺構は台地縁辺に集中するといった傾向がみられた。

調査区の中でも、台地南西縁辺に位置する調査区 南端では、集石遺構群ともいえるような集石遺構の 密集地帯であり、礫が存在しない範囲はなく、調理 施設と推測されている炉穴についてもほとんど確認 されなかった。

集石遺構のセトルメントパターンについて考察した、八木澤一郎氏の分類によれば、「竪穴住居は存在しておらず、集石遺構群に広場状の空間構成は見られないものの、施設構造の発達した集石3類[本書



第154図 尾花A遺跡と尾花坂上遺跡位置関係図

分類 A Ⅱ類 、集石 4類 [本書分類 A Ⅰ類] が検出される場合」とし、長い年月にわたる恒常的な「食生活の場」としての確立を指摘する(八木澤 2007 [] 内は文責者追加)。

本遺跡の調査区南端は、指摘のとおり、まさに恒常的な「食生活の場」といえるだろう。

本遺跡の周辺に立地する遺跡に目を向けてみると、 本遺跡からおよそ500m東には、本書の分類でAI類、AI類に該当する集石遺構が380㎡から34基検出された尾花坂上遺跡が立地する(第154図:巻頭写真3)。

尾花坂上遺跡は、現地形では、両遺跡を挟む谷から派生する台地南西縁辺に位置し、集石遺構の密集 規模は、本遺跡調査区南端と同じか、それよりも高密度となっている。

尾花坂上遺跡では、貝殻文系土器(中原Ⅱ式)や押型文土器(下菅生B式)等が出土しており、本遺跡と同時期の遺跡と思われる。両遺跡をつなぐ範囲の状況は不明確なため推測ではあるが、恒常的な「食生活の場」の範囲は台地崖縁辺に派生し、かなり広い面積を持って存在していた可能性もある。

d. 本遺跡の集石遺構について

これまで、a、b、cの視点で本遺跡より検出された 集石遺構を検討してきた。類型別の相違でみると大 枠では、A I 類が A II 類に先行する可能性があるが、 その時間差が長期的なものかは分からない。

本遺跡のような集石遺構群が形成されるには、人々が礫を採取しやすい地点であることが第一の条件であろう。礫層内の構成礫と集石遺構の内部礫・配石の石材構成が似ることがこれを示している。次に、複数時期に渡る利用であるが、それがどの程度の長さであるのかは判断が難しい。

前述したa、bとの矛盾は理解しているが、個別の 集石遺構に関して、形態的分類により時間差を見出 すことに疑問も感じている。仮に、集石遺構の利用 可能な回数が1基につき数回で、2~30年間に渡っ てその地が連続的に使用されていったとすると、本 遺跡のような集石遺構群や「礫の絨毯」が広がるの は案外容易なことであり、これまで言われてきたよ りもかなり短いスパンで礫が広がっていったのでは ないかとも思う。 また、A I 類どうしの切り合いは確認されていないが、A I 類がA II 類に先行する例もあれば、その逆となる例、また、A II 類どうしが切り合う例等類型別にみても傾向は見出しがたい。

上記の例から考えると形態的分類や切り合い関係 から時期差を推定することは、実に困難な作業なの かもしれない。集石遺構をより理解するためには、分布の詳細を検討することに可能性を見出せると文 責者は考える。

地域を別にする遺跡間ごとの遺構の形態的な比較等の検討より、むしろ遺跡が立地する空間内で集石遺構が少しずつ使用の場をずらしていったと推測し、集石遺構あるいは礫の範囲について、よりミクロな視点で検討することが、集石遺構を理解する上で、一つの有効な手段となるのかもしれない。(文責:岸田)

《参考文献》

- ・宮崎県教育委員会1985「田上遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第3集
- ・清武町教育委員会2004『須田木遺跡』清武町埋蔵文化財調査報告書 第12集
- ・清武町教育委員会 2006『滑川第 1 遺跡』清武町埋蔵文化財調査報告書 第 21 集
- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2005 『尾花坂上遺跡』 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査 報告書第 101 集
- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2007 『野首第 2 遺跡 第一分冊:後期旧石器時代〜縄文時 代早期編』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 158 集
- ・八木澤一郎 1994「南九州の集石遺構」『南九州縄文通信』No.8 南九州縄文研究会
- ・八木澤一郎 2007「集石遺構とその機能 九州島の状況から 」 『縄文時代の考古学 5 なりわい 食料生産の技術』 同成社
- ・柳田裕三・日髙広人 2003「宮崎県の集石遺構と炉穴」『九州縄文時代の集石遺構と炉穴』 九州縄文明究会・宮崎考古学会

2 土器埋設遺構について

県内における縄文時代早期の土器埋設遺構については、清武町船ら地区の事例が紹介されている(井田・秋成 2004)。土器の出土は全て正位であり、上猪ノ原遺跡の下剥峯式の例を除いて塞ノ神式の深鉢である。また、都城市伊勢谷第1遺跡では、塞ノ神式の深鉢が口縁部を下にして検出されている。底部が欠失して土坑内につぶれたような状態で出土しており、祭祀的な用途の可能性が指摘されている(都城市史編さん委員会 2007)。

また、土坑内からの出土ではないが、宮崎市椎屋 形第2遺跡では炉穴の煙道部分の床面近くに中原式 にあたる土器が検出されている。土器は口縁部を下にし、やや斜めになっている状態で出土し、報告者によると底部は打ち欠かれている(宮崎市教育委員会 1996)。

上に挙げた例は、上猪ノ原第4遺跡の下剥峯式の 例を除いて全て縄文時代早期後葉に属するものであ る。明瞭な被熱の痕跡がある場合が多く、土器埋設 遺構は同時期の遺物集中区から少し外れた地点に存 在することが共通点として指摘される(清武町教育 委員会2005)。また、機能ははっきりしないものの、 祭祀的な遺構として関連付けられることも多い。

本遺跡の土器埋設遺構(A1 SC210)は、その土器の特徴から縄文時代早期中葉に属すると考えられる。該期の土器埋設遺構として現在のところ最北の事例である。逆位の例としては2例目であり、伊勢谷第1遺跡の埋設土器と同様に、底部はその欠損面から打ち欠かれたと考えられる。他にも被熱の痕跡や、遺物分布域の縁辺に位置する点ではこれまでの類例に共通している。しかし、土坑内、土器内の焼礫の存在やユリ科植物の鱗茎が出土した点は新たな特徴である。

ここでは、本遺跡出土の土器埋設遺構について、

- ①熱を加えられていること
- ②焼礫が混入すること
- ③ユリ科植物の鱗茎という植物の可食部が出土したことの3点の特徴から植物を調理した可能性を指摘したい。土器内部を密閉空間として利用した石蒸し調理施設が考えられる。

どのような場面での調理であるかは不明であるが、 祭祀等の非日常的な場面であったことは考えられ、 使用される土器と同タイプのものが、遺跡内では他 に出土していないことも示唆的である。(文責:福田)

- 井田篤・秋成雅博 2004「船子地区遺跡群調查報告」宮崎縄文研究会第14回例会資料 宮崎縄文研究会
- ・都城市史編さん委員会 2007『都城市史 資料編考古』都城市
- ・宮崎市教育委員会 1996 『椎屋形第1遺跡・椎屋形第2遺跡』 県営農地保全整備事業時屋地区に伴う埋蔵文化財調査報告書
- ・清武町教育委員会 2005『上猪ノ原 4 ・下猪ノ原 2 』 清武町埋蔵文化財調査報告書 第17集

3 早期土器について

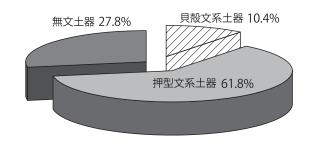
本遺跡から出土した早期土器について、これまでの編年研究の成果も踏まえながら、各分類別に若干の説明をしていきたい。なお、本遺跡から出土した早期土器の割合については、第155図の通りである。

a. I類 貝殼文系土器

I A類のうちの228~230は直口した口縁端部外面に貝殻腹縁による刺突文あるいは押引文を施し、口縁部下位には貝殻条痕を施しているので、前平式土器に相当する。これは鹿児島系の貝殻文円筒形土器の古い型式で、縄文時代早期前葉の時期に比定されている。この土器の特徴を引き継ぎ、宮崎で独自に作られた土器である231は口縁部に貝殻腹縁による短沈線文列、口縁部下位に斜めの貝殻条痕を施しているので、金丸武司氏分類の「別府原2式土器」に相当する(金丸2007)。238~243の胴部及び246の底部は、上記に述べた貝殻文円筒形土器の一部である。なおA3SP4から出土した204は口縁端部外面にヘラ状工具による斜位の刺突文列を施しているので、金丸氏分類の「別府原3式土器」に相当する。

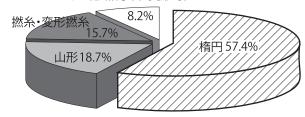
I C類の 237 は内面の口縁端部に粘土紐を貼付して肥厚させ、口縁部下位は横位の貝殻腹縁刺突文を縦方向に二列施しているので、下剥峯式土器に相当する。胎土に 4mm以下の白色粒や 3mm以下の淡黄色、灰白色粒が入り、他の土器には見られない特色を有する。また、内面の調整も強いナデ調整が施され、光沢もある。244 は別個体の同型式の胴部であるが、全体としてその個体数は少なく、客体として持ち込まれた可能性が考えられる。なお 236 は口縁部が直口し、口唇部を平らにして条痕を施す。外面は縦位の貝殻腹縁刺突文を施し、その外端部には短沈線文を施す。別府原式土器と下剥峯式土器の両方の特徴が見られることから、両者をつなぐ土器と思われる。

IB類の232、233は口縁部が外反し、口縁部に短沈線を施すことから、別府原式土器に後続する土器と考えられる。234は口縁端部に条痕文列を施し、その下位に櫛状の工具による条痕文を施しているので、桑ノ丸式土器に相当する。235も櫛状の工具で、外面に斜方向の条痕文が施され、口縁部も内傾することから上記の土器に近い時期のものと思われる。



第 155 図 早期土器重量割合図





第 156 図 押型文系土器重量割合図

b. II類 押型文系土器

本遺跡から出土した早期土器の約6割が押型文系 土器であった。また、その施文様も第156図から分 かるように楕円押型文が全体の約6割を占める。本 遺跡の楕円押型文土器の口縁部は、その器形や粒の 大きさ、施文方向など非常にバリエーションに富ん でいるので、そこに着目して、「北・東九州地域編年」 (水ノ江1998)の土器型式を基準にして述べたい。

まず、II A類のうち 247~250 は最も古い時期に位置する川原田式に近い土器である(鹿児島県埋蔵文化財センター:八木澤一郎氏・黒川忠広氏のご教授による)。特に 247 は外面に横位の非常に細かい楕円押型文(穀粒文)を施し、ベルト状施文をもつ。内面の口縁端部にも同様の文様を施し、非常に丁寧に作られている。次に II A類のうち 251~255 は上記の土器に後続するもので、251、252 は粒径が小さく横走して施文されていることにより、稲荷山式土器の範疇に入るものかと思われる。また、押型文土器の底部は一般的に尖底であるが、254、255 は平底の底部であるので、岩永哲夫氏が指摘したように南九州では早い時期に平底の押型文土器が存在したことが分かる(岩永 2008)。

II B類 (ア) の 260、261、314 は早水台式土器に 比定される。直立した口縁で、丁寧な小形の押型文 を外面に横走し、内面には原体条痕と横位の押型文 を施す。特に 260、261 は、外面の口縁端部に無文 帯を施す特徴をもつ。

「北・東九州地域編年」によれば、早水台式土器の次には、外面の施文が横位から縦位方向に変化する下菅生B式土器、粗大な楕円押型文を特徴とする田村式土器の順になる。本遺跡において、下菅生B式土器に比定できるのはII C類(ア)の316である。その後にII C類(ウ)の318や319のような原体条痕を施さず、外面には縦位の、内面と口唇部に横位の山形押型文を施文したものに変遷し、さらに口縁部が大きく外反したII C類(ウ)の320や322のような山形押型文に変遷していったと推測される。

そこで、上記の変遷をもとに楕円押型文を施す口 縁部を見てみると、ⅡB類(ア)の256は外面に小 粒の縦位の楕円押型文を施し、内面にも口縁端部に 同文様を横位に施す。また、同じ施文様が外反する Ⅱ B類(イ)の265にも見られる。これらの十器は 原体条痕を施さないが、下菅生B式土器の範疇に入 ると考えられ、さらに粒を大きくした II B類(イ) の 263 や 264 のような楕円押型文土器や口縁部を大 きく外反させたⅡB類(ウ)の279~281、284や 285のような土器に変遷すると推測できる。しかし、 その一方でⅡB類(ア)の259のように外面に横位 の楕円押型文を、内面に原体条痕を施したものがあ る。これは内面に押型文を施文しない、ⅡB類(イ) の 266 や 267 のような内面に沈線を施すものや II B 類(イ)の268~270やIIB類(ウ)の282、283 のような田村式土器の範疇に属する土器に変遷した と推測される。以上のように楕円押型文の施文様の 変遷には、二つの流れを見ることができる。

本遺跡で一番多く出土した土器は、外面に大粒の 楕円押型文を縦・斜位方向に施し、内面は無文でナ デ調整をしたII B類 (イ)の 272~277、II B類 (ウ) の 278の口縁部を有するものである。これは沈目式 土器と言われ、宮崎県域や熊本県域において主体的 に出土する土器で、下菅生 B 式土器が分布域を拡大 する中で、本来の型式情報を拡散させた土器と理解 されており、大分編年の田村・ヤトコロ式並行期に あたる。本遺跡においては、この時期が縄文時代早期において一番の最盛期で、地域色の豊かな文化を もった時期と思われる。そして、この時期の楕円押型文土器の底部は313にように平底の底部があった。 しかし、上記の時期以後には楕円押型文を施す土器 はほとんど作られなくなった。

最後に沈目式土器から手向山式土器への変遷について述べたい。まず、今回の調査では手向山式土器は出土していないが、手向山式土器の前段階と思われるII E類(ウ)の372~375の変形撚糸文を施した土器が出土している(八木澤氏・黒川氏のご教授による)。この土器は胎土に金色の雲母を多く含んでおり、外面に繊細な変形撚糸文を施し、口唇部にはミガキ調整を、内面は丁寧にナデ調整され、非常に精緻に作られている。そして、II E類(ウ)の376~378も同様である。

C. Ⅲ類 無文土器

無文土器は、早期土器の4分の1を占めており、口縁部がわずかに開きながらも、そのほとんどは直口する器形であり、尖底の深鉢である。器壁の厚さにわずかな違いを指摘することはできるが、明確に区別する判断基準はもてなかった。しかし、SC205から出土した208や209、同じ器形のⅢ類(ア)の408や409の少ない資料からではあるが、本遺跡におけるに早期の無文土器の具体的な器形や調整法について知ることができた。

以上のように、本遺跡では縄文時代早期前葉~中葉の土器群が断絶なく出土し、その中でも押型文系土器の沈目式土器段階にピークがある。しかし、その後の早期土器の出土量は急激に減少しておりこの現象については、今後の課題としたい。(文責:出山)《参考文献》

- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2007 『野首第2 遺跡 第一分冊:後期旧石器時代〜縄文時 代早期編』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第158集
- ・金丸武司 2007「宮崎における縄文時代早期前半の土器群」『宮崎考古』 19号 宮崎考古学会
- ・水ノ江和同 1998「九州における押型文土器の地域性」『九州の押型文土器 論放集 』 九州縄文研究会
- ・岩永哲夫 2008「南九州の押型文土器」『宮崎考古』 20号 宮崎考古学会

4 早期石器について

早期の石器は、打製石鏃、打製石斧、礫器、敲石・磨石類、台石等が出土した。出土石器の数量は第7表 (P105) に示すとおりであり、早期石器の中で敲石・磨石類は大きな比重を占めている。

敲石・磨石類としたものには、凹みを持つもの、 敲打痕を持つもの、磨面を持つものが存在し、これ らは1つの個体中に複数の使用痕が観察される場合 が多い。そこで、敲石・磨石類を、樹形図で示した ものが第157図である(hは明瞭な磨面等が観察さ れないが、滑らかな面をもち、何らかの使用に関係 すると考えたため礫とは区別した)。

第157 図に示すように、凹みを有するものや凹みは確認されないが敲打痕を持つものは砂岩を利用し、磨面を持つものは、尾鈴山酸性岩類が利用されている。砂岩は軟質で、使用の痕跡が残りやすい石材であるのに対して、尾鈴山酸性岩類は硬質で、使用の痕跡が残りづらい石材と思われる。

さらに、24点確認された凹石についても触れたい。 凹石は砂岩が石材として多く利用されている。砂岩 は断面形が扁平なものと肉厚なものに区別され、凹 みが確認される箇所は礫の中で平たい面である。

凹みは、一つの面に2つ以上が存在するものや正面から180°回転した方向に凹みが施されるもの、凹み同士が切り合いをもつもの(第85・86図543、544、551等)もある。また、凹みを持つ面に破損やひび割れは確認されない。

凹石は、これまで植物加工具や石器の製作具等とその用途が推測され、野村一寿氏により研究史がまとめられているが(野村 1987)、その用途について説明できる資料は残念ながら本遺跡では確認されていない。さらにいえば、凹石が集中して出土した調査区南端は集石遺構が集中する場所でもあり、凹石は不用品として廃棄された後、集石遺構に混入し、焼礫としての役割を負わされたため、一定量が出土したとも推測される。実際、集石遺構から出土した凹石もあり、凹み内にも比熱を受けたかのような赤化が観察されるものも出土している。

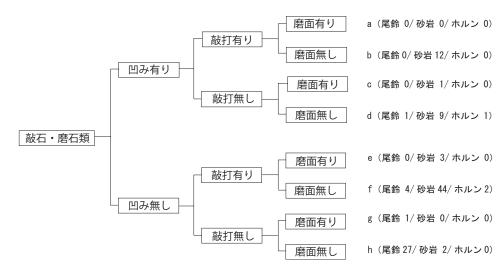
このような二次的な移動が考えられる資料に対し、 細かな時期を検討することは困難である。

そこで、一つの可能性として凹石の凹みの深さが、 どの深さまで進むと廃棄されるのかについて検討を 行った(第 158 図)。計測の仕方は第 158 図に示す 通りであるが、ミリ単位での計測のため、この結果 に意味を見出せるかは疑問も残る。

しかし、計測結果として凹みの最深部は $1 \sim 2$ mm間と、3mm ~ 4 mm間に集中し、最短径が大きいものは最深部が深くなっている。また、重量と凹みの深さに関連は見出せなかった。

本遺跡から出土した凹石についてまとめるならば 次の3点となる。

- ・凹石は8cm大のものが多く、手に持ち振りかざせる
- ・面に対して凹みが存在し、礫の破損例は僅かしかない
- ・重量に関係なく、凹みの深さは一定である



第 157 図 敲石·磨石類樹形図

さらに、重視したいのが、第85図543の凹石である。 543は断面形が三角形となり3面それぞれに凹みが存在する。また、1つの面には2つの凹みが存在する。 各面の凹みを断面図に示すと、第159図のように浅い凹みと深い凹みが確認される。

この浅い凹みと深い凹みが共存する理由について 明確な答えを見出せないが、3つの面全てで浅い凹 みと深い凹みが確認されることは注目される。

なお、国分直一氏は台湾・紅頭嶼の民族例から「ヤミ族はこの石槌を用いてパンタナスの種実を潰して、これを食し(中略)石器は、使用していた面にある程度凹みができてしまうと新しい面を使用して、四面の全てに凹みができてしまうと、これを廃棄してしまう」と記述している(国分 1957)。また、米沢容一氏は、上記の石槌を凹石の一種と考え、凹みの深さの相違から石槌と凹石の使用法、もしくは対象となるものの相違を指摘している(米沢 1986)。

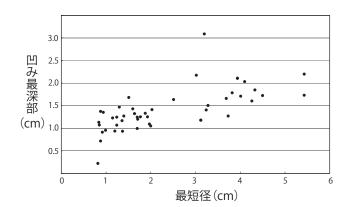
これらの記述は、本遺跡出土の543と同じような特徴を見て取ることができ、凹石の利用の一つ使用のあり方とも思われる。 (文責:岸田・日高)

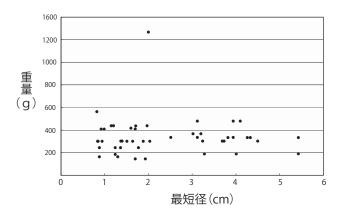
* Pandanus tectorius (タコノキ科タコノキ属)

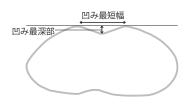
: 南西諸島の海岸にふつうにみられる。果実は真夏に橙色に 熟し、良い香りがする。果実は甘みがあり、食べられる。

《参考文献》

- ・野村一寿 1987「凹石研究のために (1) 学史 」『長野県埋蔵文化財センター紀要 1』 長野県埋蔵文化財センター
- ・国分直 1957「紅頭嶼発見の石器及び土俗民俗資料」『水産講習研究所研究報告人文科学』第2篇 農林省水産講習所
- ・米沢各一 1986「台湾・蘭嶼出土の石皿・凹石・敲石」『えとのす 古代日向人の生活空 間 - 1』 31 新日本教育図書株式会社
- ・『山渓ハンディ図鑑5 樹に咲く花』2001 山と渓谷社

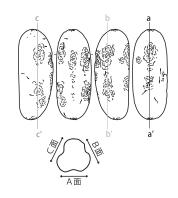






※ 凹み最深部の測定は、凹みの中に粘土により型取りを行い、 その最深部から上端面までの長さを計測した。

第158図 凹み計測図





※ 断面図の作成は、a.b.cを始点とし、A~C面を水平にした状態で行った。

第 159 図 凹石 (543) 断面図

第4節 縄文時代前期~後期

1 遺構について

縄文時代前期土坑は調査区中央の西側谷寄りに、 縄文時代後期土坑は調査区中央に分布するが、いずれも当該期土器分布との重なりは見られない。炭化物の炭素14年代測定は、試料のサンプリングから整理に至るまでにおいて様々なコンタミネーションの可能性を含むため、遺構出土遺物が無い限り、遺構の帰属年代を実証することは困難で、推測の域を超えることはできない。しかし、ひとつの推測として、A4S83の北東に位置する C31Gr. に位置する土坑A1S778(弥生時代以降)の埋土から5,358±30BP(BC4,340~4,220)の年代値を示す炭化種実が出ていることも含め、この周辺に前期の営みの場があった可能性がある。

また、A4S83 は埋土が非常に硬く、他のIII b層(KAh) 上の遺構埋土と比べ異質なものであった。出土遺物 もなく、特に特徴がある訳でもないので土坑としか 言いようのない遺構ではあるが、谷地形に至る丘陵 縁辺近くに立地することから、陥し穴状遺構の可能 性も推測できる。 (文責:髙橋)

2 前期~後期土器について

出土数は少ないが、様々な型式の土器が出土している。土器編年に沿って若干の説明を行う。

597は特徴から轟B式土器と思われる。

598~614 は曾畑式土器である。土器全体の形状を把握することは出来ないので、部分的な特徴を見てみる。口縁部は外反するものが多く、波状口縁も確認できる。口唇部刻みと口縁部に連続刺突文を持つものや器壁の薄いものが滑石粉末を多く含み、比較的丁寧な作りが成されている。胴部は文様に折帯文や四角組合文が目立つ。今回出土した曾畑式土器片149 点中胎土に滑石粉末を含む土器片の割合は約30%である。

615~617は器面に条痕地を残すもので、文様から曾畑式土器に近い特徴が見られる。

- 618 は深浦式土器に類する。
- 619は中期前葉頃の船元Ⅱ式土器と思われる。
- 620は器形から春日式土器の可能性がある。

やや太めの凹線を持つ 621 ~ 623 や沈線や貝殻文 を持つ 624、625、627、629 は中期後葉から後期前 葉に位置する土器である。

621~623は阿高式系土器である。

624 と 627 は後期前葉頃に比定される土器で、前者は綾式土器、後者は指宿式土器と思われる。

629は後期中葉頃の市来式系土器と思われる。

632~634は後期後半から晩期前半の黒色磨研土器の祖形をなす鉢形土器と思われ、632は太郎迫式土器より新しい段階のもので、633、634は三万田式土器と思われる。

これらの前期から後期の土器は、これまでに本遺 跡周辺の小丸川左岸台地縁辺部で確認された例がな く、今回、当該期の遺物散布地が確認されたことは 評価できる。

また、残念ながら住居跡等は確認されなかったが、前期土器は比較的まとまった分布状況が見られ、近くに遺構が包蔵される可能性が考えられる。縄文時代の遺構については弥生時代以降の遺構等あらゆる要因によって検出が難しいことが多い。当時の環境復原を念頭に置きながら、当時の人々の土地の選択、土地の利用を考える必要がある。今後の調査成果に期待したい。
(文責:髙橋)

《参考文献》

- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2006『市納上第1遺跡・市納上第4遺跡』宮崎県埋蔵文化 財センター発掘調査報告書第121集
- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2008 『野首第2遺跡 第二分冊:縄文時代後期・晩期、弥 生時代、古墳時代、古代北路編』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第172集

第5節 縄文時代晚期

- 1 晩期土器について
- a. 遺構内出土の土器について

縄文時代晩期の土器は、精製浅鉢・鉢、壺、粗製浅鉢・ 鉢、粗製深鉢等が出土している。また、晩期の土器 のみが出土する土坑も検出されている。

これら出土した土器の大半は南九州で晩期前半~ 後半に位置づけられる黒川式土器の範疇に含まれる。

黒川式土器については、堂込秀人氏により、古段階・ 中段階・新段階と細分されている(堂込 1997)。 本遺跡出土の土器と、前述の編年を対比すると、 I①類、I③類は、入佐式新段階と黒川式古~中段 階を含み、I②類は黒川式中~新段階、I④類は黒 川式新段階に比定される。

また、近年、黒川式土器の新段階の資料の増加により黒川式土器との区別を見出し、「干河原段階」とう段階が設定されている(東2006)。これに該当する資料も本遺跡では確認されており、I⑦類、I ⑧類の鉢や三叉文を有する土器(第112図771~773)が、この「干河原段階」の土器に比定されると思われる。

前述したように、晩期土器のみが出土した土坑が7基確認され、このうち2基の土坑(第97図A1 SC318、第104図A2S2501)では精製送鉢とともに、無刻目突帯文土器が出土している。

土坑内出土遺物の中でも、特に注目したいのが、 A1 SC318 (第 97 ~ 99 図) 遺構内出土遺物である。

SC318 は遺構検出面、遺構埋土上部では遺物が確認されず、遺構埋土中~下部付近まで晩期土器と石器が連続的に出土している。また、遺構内出土の土器(第97図638、640)に付着していた炭化物について炭素14年代測定を行ったところ、2,895±25BP、2,840±20BPの年代値が判明している。

SC318では、I①類の精製浅鉢とともに、粗雑な 弧線文が施された粗製深鉢(第97図638、639)、IV 2 A①類、IV 2 A③類の粗製深鉢、Ⅲ③類の粗製浅 鉢が出土している。I①類の精製浅鉢は、前述の堂 込氏の編年では黒川式土器古段階に位置づけられる。

弧線文が施される 638、639 は器面調整や胎土から 640 と同一個体の可能性もある。外面に施された 弧線文は都城市虎崩遺跡や高鍋町野首第 2 遺跡等、 県内でも数例確認され、これらの土器は古閑 2 式の 深鉢口縁部に良くみられる文様と捉えられる。

なお、この弧線文に関しては「滋賀里式文様」と 呼ばれることもあるが、この弧線文は九州でしか成 立しないものと考えられ、滋賀里式との影響関係を 強くみないほうがよいと思われる(橿原考古学研究 所:岡田憲一氏のご教授による)。

古閑2式土器は、前述の堂込氏の編年では入佐式新段階に比定するとされる(清田1998)。古閑2式は、

器形が口縁部から胴部にかけて屈曲する特徴をもつが、本遺跡出土の638、639は、口縁部は直口して胴部から立ち上がる。

638、639 に関しては、文様構成の概念のみが土器 製作に取り入れられ、在地的な土器の器形に融合し たものと思われる。

また、同遺構から出土している 641 ~ 650 等の口 縁部にしっかりとした断面三角形の突帯をもち、胴 部が膨らむ土器(いわゆる「松添式土器」)の共伴が 確認されたことは重要である。

いわゆる「松添式土器」について型式学的な視点から考察した下山覚氏は、この粗製深鉢を刻目突帯文土器様式の成立以前とし黒川式土器新段階後葉と位置づけている(下山2000)。

県内では無刻目突帯文をもつ深鉢と精製浅鉢等のセット関係の分かる資料が少なく、無刻目突帯文が残存する時期幅は、資料の増加を待たなければならないが、SC318内出土の641~650(第98図)の粗製深鉢は、I①類の浅鉢や弧線文をもつ土器との共伴関係から黒川式土器の中でも古い段階に属すると思われる。

今回、堂込氏の編年と清田氏の編年を参考としたが、編年に使用された資料と比べると、本遺跡出土の土器からは異なる点もみられた。

精製浅鉢、鉢では、特徴が似るものが存在するが、 粗製深鉢については在地色が強まる。巨視的にみる と精製浅鉢・鉢での南九州との広域編年は可能と思 われるが、資料の増加と研究の蓄積により、今後、 の解明が期待される。

b. 包含層出土の土器について

包含層出土の土器については、IV 2 類とした無刻目突帯文の土器が特徴的である。無刻目突帯の形状には、突帯が大きく突出し断面形が三角形を呈するもの、頂部が低いあるいは調整により断面形がカマボコ状を呈するもの、口縁部を肥厚させあるいは粘土帯を貼り付け、その上下をナデて突帯状に作り出す資料等、バリエイションに富んでいる。

無刻目突帯の作出方法については、突帯の貼り付け痕跡が明瞭に観察されるものが少なかったが、断

面形三角形のしっかりとした突帯をもつものは、突帯の貼り付けの痕跡が断面より明瞭に観察されるものもある(第 105 図 700)

また、孔列文を伴う土器は、突帯文をもたない深鉢、無刻目突帯文をもつ深鉢、粗製浅鉢(Ⅲ①類)、刻目 突帯文を有する鉢で確認される。

孔列文の有無による土器片の割合、重量分布に関しては、第108回、第126回に示しているが、孔列文が施される深鉢と施されない深鉢との重量分布域が調査区中央と調査区南の2つの範囲で若干異なるという傾向は興味深い。

詳述すると、調査区中央にあたる $H23 \sim G23Gr$. 周辺では、本分類のIV1類 $\sim IV4$ 類が一定量確認されるのに対して、調査区南にあたる $K9 \sim J9Gr$. 周辺ではIV1類 $\sim IV3$ 類 $\sim IV3$ 類 $\sim IV4$ 類の重量分布は少なくなっている。

なお、IV2A①類・IV2A②類・IV2A③類の中でもしっかりとした断面三角形の突帯をもつものには孔列文は施されていない。

IV2A①類・IV2A②類の粗製深鉢は、SC318内 出土遺物で触れたように、黒川式土器の時期の中で も古い段階に位置づけられる可能性もある。

孔列文は、黒川式土器新段階に位置づけられるとの検討もあり(千2008)、孔列文の有無から時期幅を見出すことができるのかもしれない。

c. 赤色付着物について

今回、鹿児島県埋蔵文化財センターの内山伸明氏のご協力により、晩期土器器面より確認された赤色付着物について電子顕微鏡下での観察を行った(第111~113図754、768、770、800)。

観察の結果、塗布されていた赤色付着物は、パイプ状ベンガラの形状を持っていることが確認された。パイプ状ベンガラは、鉄細菌 Leptothrix 属由来とされ、崖端の湧水部や池中に沈殿した鉄細菌の生産物を燃焼した結果得られたものとされている(岡田 1997)。

本遺跡の南には切原川が流れ、周辺には溜池や湧水地点が存在することから、褐色沈殿物(鉄細菌が作る沈殿物)も採取可能な環境であったと思われる。

(文責:岸田)

《参考文献》

- ・堂込秀人 1997「南九州縄文明明土器の再検討 入佐式と黒川式の細分 」「鹿児島考古」 31号 鹿児島県考古学会
- ・東 和幸 2006「鹿児島における縄文時代晩期の課題」「南九州縄文通信」№ 17 南九州縄文研究会
- ・清田純一 1998「縄文後・晩明土器考 中九州の縄文後・晩明土器とその並行型式について」 『肥後考古』 第 11 号 肥後考古学会
- ・宮崎県教育委員会1985「平畑遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集
- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2007 『野首第 2 遺跡 第一分冊:後期旧石器時代〜縄文時 代早期編』 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 158 集
- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2001 『虎崩・榎木田遺跡 黒勢戸・上示野原遺跡』 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 41 集
- ・下山 覚2000 いわゆる 「松添式土器」 の評価をめぐって 南部九州の資料を用いて 」 『九州旧石器』 第4号 九州旧石器文化研究会
- ・千 羨幸 2008「西日本の孔列上器」『日本考古学』 第25号 日本考古学協会
- ・宮崎考古学会県南例会実行委員会 2008 『南部九州における水稲農耕受容期の様相
 - 西日本における他地域との比較を通して 』宮崎考古学会県南例会実行委員会
- ・岡田文男 1997 「パイプ状ペンガラ粒子の復元」『日本文化財科学会第 14 回研究経表要 旨集』日本文化財科学会

2 晩期石器について

a. 局部磨製石鏃について

本遺跡では、縄文時代早期及び晩期に帰属すると 思われる石鏃が 193 点出土している。その中でも部 分的に研磨による調整が施されている安山岩製の局 部磨製石鏃は注目される。

局部磨製石鏃の存在については下川達弥氏が岩下 洞穴の資料を中心に検討し、早期押型文段階を中心 に出土することと、後期~晩期にも九州地方には存 在していることを指摘している(下川 1972・1973)。

本報告書に掲載した 11 点の局部磨製石鏃は、すべてIII b層 (KAh) 上位から出土し、このうち安山岩製のものが 10 点を占めている。安山岩製の局部磨製石鏃は、剥離による整形後、正面及び裏面の中央部に研磨が施されており、周縁部は剥離面を残している。研磨が施されている部分はいずれも平坦で滑らかであり、明瞭な研磨痕が確認できる。研磨の方向は縦方向を基本としているようにも見えるが、斜め方向や横方向に研磨痕が確認できるものもある。

なお、ホルンフェルス製の1点(第136図1043) については、周縁の端部に剥離面を残しながら表裏 面の広い範囲に研磨が施されているが、風化による 磨滅も激しい。安山岩製のものとは様相が異なり、 縄文時代晩期以外の遺物の可能性も残る。

安山岩製の石鏃を全体的に見ると、Ⅲ b 層 (K-Ah) 上位で確認したものは基部に抉りが無いか、浅いものが多く、Ⅲ b 層 (K-Ah) 下位から出土したものは3 点とも U字型の抉りを有している点で異なる。また、安山岩はⅢ b 層 (K-Ah) 下位では使用石材としての割合が低くなっている。

Ⅲ b層 (KAh) 下位に対し、Ⅲ b(K-Ah) 層上位において出土する安山岩製の石鏃は、いずれも縄文時代晩期の土器が集中して出土する H23 ~ G23Gr. 周辺で出土する傾向が見られる。

県内において局部磨製石鏃が出土した遺跡を集成 したものが第10表である。遺跡数は57遺跡で、報 告書掲載時期については縄文時代~弥生時代と表記 される等、時期が不明確なものが多い。

このような記載が多いため、局部磨製石鏃の時期 特定の補助となるよう、第10表では、時期が特定で きる遺物が出土している場合は、その全ての該当時 期を記している。

集成の結果、縄文時代早期と K-Ah 層上位に位置づけられる時期に大きく分かれる。1 遺跡あたりの出土量は、ほとんどが 1~2 点と非常に少ない。

縄文時代早期の局部磨製石鏃は、頁岩製や安山岩 製のものが半数以上を占めている。遺跡周辺におい て採取できる石材の違いにもよると考えるが、縄文 時代早期には黒曜石やチャートが打製石鏃の石材と して使用されることが多い中で、局部磨製石鏃につ いては研磨に適した石材をあえて使用したのではな いかとも推察される。

また、縄文時代早期の局部磨製石鏃は形態では正 三角形や二等辺三角形を呈し、基部に抉りを有する ものと有さないものがある。その中でも縦長の二等 辺三角形を呈し、側縁部が鋸歯状に加工されている ものが多く特徴的である。

Ⅲ b層 (K-Ah) 上位から出土した局部磨製石鏃については、深い抉りを有さないものの割合が高くなる。 時期を特定して報告されているものは少ないが、出土している土器との共伴関係で遺跡の時期幅を推察できるものもある。

その中の一つとして、局部磨製石鏃が6点出土し

ている宮崎市右葛ヶ迫遺跡がある。本分類でIV 2 類とされる無刻目突帯文土器や刻目突帯文土器など縄文時代晩期に帰属する土器が主体となっており、本遺跡と共通する。また、局部磨製石鏃には特定の石材が使用されている点や石鏃の形態も本遺跡のものに類似している。

縄文時代晩期の土器が出土する遺跡で KAh 層下位の時期が該当しない遺跡として、宮崎市平畑遺跡や高原町吉牟田遺跡、都城市筆無遺跡など数遺跡があり、局部磨製石鏃の時期を推測するものとして有効な資料と思われる。

県内の局部磨製石鏃の集成を受けて、本遺跡で出土した2点の将棋の駒形をした五角形の局部磨製石鏃は非常に特徴的であることが分かる。類似したものが川南町市納上第1遺跡等で数点確認されるが非常に少数である。

また、本遺跡では打製石鏃にも五角形を呈するものが見られるが、集成作業を行っていく中で、県内資料の中でも局部磨製石鏃が出土している遺跡や K-Ah 層上位の縄文時代後・晩期の遺物として五角形を呈する石鏃が報告されている例が多いことは指摘しておきたい。

石器の時期については、土器との共伴関係で考察 し得る資料が乏しい中で、今回の本遺跡の出土例で 見られるような、特定の石材を用いた局部磨製石鏃 や将棋の駒形を呈する局部磨製石鏃が、縄文時代晩 期の遺物として位置づけられる。

(文責:日高)

- ・下川達弥 1972「剥片鏃考」『長崎県立美術博物館館報』長崎県立美術博物館
- ・下川達弥 1973「局部磨製石鏃について」『長崎県立美術博物館研究記要』第1号 長崎県立美術博物館
- ・宮崎県教育委員会 1985『平畑遺跡』宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第2集
- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2000 『右葛ヶ追遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査 報告事第 185 集
- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2007『吉牟田遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報 告書第 154 集
- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2008 『筆無遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告
 書第166 集

第10表 県内局部磨製石鏃集成表

						が出	土	7	いる	5時	钥 弥			
No.	遺跡名	市町村	出土 点数	旧石器	草創期	早期	前期	中期	後期		外生以降	報告書記載時期	石材	備考
1	古城*	西臼杵郡高千穂町	1			•			•	•		縄文時代~弥生時代	チャート	
2	樋田	日向市東郷町	2						•		•	縄文時代後期以降	流紋岩 (2)	
3	上野原	日向市東郷町	1			•		•	•	•	•	縄文時代中期以降	頁岩	
4	市納上第1*	児湯郡川南町	1	•		•					•	時期不明	安山岩	トレンチ出土
5	赤坂*	児湯郡川南町	1	•					•	•	•	弥生時代~中世	ホルン	表採
6	前ノ田村上第2*	児湯郡川南町	1	•	•	•					•	縄文時代草創期~早期	ホルン	
7	唐木戸第3*	児湯郡高鍋町	1	•		•						旧石器	頁岩	文責者注:時期は縄文時代早期
8	老瀬坂上第3	児湯郡高鍋町	1	•	•	•	•	•	•	•	•	縄文時代	緑色岩	
9	野首第1*	児湯郡高鍋町	3	•		•	•		•		•	縄文時代	チャート (3)	
10	野首第 2	児湯郡高鍋町	3	•		•			•	•	•	時期不明	チャート (1) 黒色片岩 (1) 黒曜石 (1)	文責者注:報告書に図化は無い: 対象遺物あり
11	藤山第2*	児湯郡新富町	1			•			•			縄文時代	チャート	
12	東畦原第1 (3・4次) *	児湯郡新富町	1	•		•					•	縄文時代早期	頁岩	
13	尾小原*	児湯郡新富町	2	•		•			•		•	縄文時代早期	ホルン (2)	
14	藤山第1*	児湯郡新富町	1	•		•			•	•		縄文時代早期	チャート	文責者注:研磨でなく、摩滅痕
15	別府原	西都市	1			•					•	縄文時代	珪頁	「磨製」と記載
16	内城跡*	宮崎市佐土原町	1			•						縄文時代早期	安山岩	
17	下屋敷*	宮崎市佐土原町	2	•		•					•	縄文時代早期	流紋岩 (2)	
18	右葛ヶ迫*	宮崎市	6		•	•	•	•	•	•	•	縄文~弥生	頁岩 (6)	3点のみ図化
19	倉岡第2*	宮崎市	2						•		•	縄文時代後期	頁岩 (2)	「磨製」と記載
20	垂水第2	宮崎市	1	•		•						縄文時代早期	頁岩	「磨製」と記載
21	西ノ原第2	宮崎市	1			•		•	•		•	~古墳	頁岩	観察表内に研磨の説明
22	西ノ原地区遺跡 C区	宮崎市	1		•	•	•	•	•	•	•	不明	安山岩	
23	車坂・山下遺跡群 車坂第1	宮崎市	1			•					•	縄文時代早期	頁岩	
24	黒太郎	宮崎市	1								•	弥生時代	頁岩	「磨製」と記載(表)
25	宮大平畑XXV	宮崎市	1						•	•	•	縄文時代後期以降	黒曜石	
26	平畑*	宮崎市	3						•	•	•	縄文時代	砂岩 (2) 不明 (1)	
27	前原西*	宮崎市	1			•					•	縄文時代~弥生時代	不明	「磨製石鏃様に」と記載
28	坂元遺跡	宮崎郡清武町	3	•		•					Ť	縄文時代早期	頁岩 (3)	ALGO PROPERTY OF THE PARTY OF T
29	概要報告 下猪ノ原	宮崎郡清武町	3			•						縄文時代早期	頁岩 (3)	
30	山田第1	宮崎郡清武町	2	•		•					•	縄文時代早期	頁岩 (2)	
31	山田第2	宮崎郡清武町	1			•					•	縄文時代早期	頁岩	
32	滑川第 1	宮崎郡清武町	2			•	•	•	•		•	縄文時代早期	安山岩 (1) 千枚岩 (1) 頁岩 (早期:2)	
33	滑川第 2	宮崎郡清武町	6	•		•	•		•	•	•	縄文時代	頁名 (平) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
34	上猪ノ原	宮崎郡清武町	4		•	•					•	縄文時代早期	頁岩 (4)	
35	上の原第2*	宮崎郡清武町	2			•	•	•	•	•	•	縄文時代早期	頁岩 (2)	1.40 4V VI S.) . k PV (PC-7') 3V
36	上の原第1*	宮崎郡清武町	1					•	•	•		縄文時代	頁岩	文責者注:滑らかな研磨面は認 れない。剥離面か。
37	下星野*	宮崎郡清武町	1			•			•	•	•	縄文時代早期	頁岩	7 5 5 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7
38 39	白ヶ野第2・第3 * スグノ山2 E地区	宮崎郡清武町 宮崎市田野町	2		•	•						縄文時代草創期~早期 縄文時代早期	チャート (1) 頁岩 (1) 頁岩	文責者注:形態は異形石器に似
40	本野	宮崎市田野町	1			_	•	•	•			縄文時代	頁岩	へえロエ・ルぶは共小口間に以
41	的野	宮崎市高岡町	2			•	_	-	•		•	MEXIN I	ホルン (2)	
42		宮崎市高岡町	1	•		•			•	•	•	縄文時代早期	流紋岩	
43	木脇*	東諸県郡国富町	1	•		•			_	_	_	縄文時代早期	流紋岩	
44	天ヶ谷	西諸県郡野尻町	1	•		•						縄文時代早期	流紋岩	「摩滅痕」と記載
45	吉牟田*	西諸県郡高原町	1	=		_			•	•		縄文時代後期~晩期	頁岩	
46	雀ヶ野遺跡群 雀ヶ野第3	都城市高城町	1	•		•			<u> </u>	۲	_	縄文時代早期	頁岩	
47	雀ヶ野遺跡群 雀ヶ野第 4	都城市高城町	1	_		•				\vdash		縄文時代早期	不明	
48	妙見*	えびの市	1	•	•	•	•		•		•	縄文時代早期~前期	黒曜石	
49	野久首*	えびの市	2	_	_	•	Ĺ		•		•	縄文時代~近世	頁岩 (1)	
50	えびの市城館跡 園田城跡	えびの市	1			_		•	•		•	不明	安山岩 (1)	
51	またいの中城 国田 城跡 国田 城 田 城 田 城 田 城 田 城 田 城 田 城 田 城 田 城 田	都城市	1	_				•	•	•	-		安山岩	
52	字無* 分布調査(上安久)	都城市	1	-	•	•	•	•	•	•	•	網文時代/安期~弥生時17 縄文時代~中世	不明	
53	分布調査(上女人)	都城市	1	-	•	•	•	•	•	•	_	縄文時代	不明	
54	万仲調宜(下尾平野弟4) 黒土	都城市	1	-	_	_	-	•	•	•		施	流紋岩	「磨製石鏃未製品」と記載
J4		都城市	1	-				•	•	•	_	所主時代 縄文中期以降~弥生時代		- 后教与數本教師」 6 記載
5 E														
55 56	十三束第2(二次) 星原	都城市	1	-	•	•	•	•	•	•		縄文時代~弥生時代	頁岩	「磨製石鏃の再加工品」と記載

- 注 1) 今回の集成にあたり、実測図及び報告書本文・観察表内に記載があったものを対象とした。また、実測図のみの場合でも研磨痕と判断される表記が確実に 認められたものについては対象とした。なお、遺跡名に*の表記のあるものは実見できた資料である。
- 注2) 報告書により局部磨製の基準に差異があるため、集成にあたっては研磨痕が認められ、周縁部に剥離を残すものを対象とした。よって報告書上では「磨製」 とされているものも一部含んでいる。ただし全面に研磨が施され周縁部に剥離が認められないものは対象外とした。
- 注3) 掲載時期については各報告書の記載に従い、一括や時期不明とされているものは不明とした。
- 注4) 今回集成した遺跡は、2008年3月までに刊行された報告書に限っている。また、掲載した市町村名は2009年1月現在のものである。

b. 遺構内出土の石器について

「晩期土器について」で触れたように、晩期に位置づけられる遺構は7基存在する。このうち、晩期の土器と石器が共に出土した土坑は3基ある。

このうち、3基の中でも、特に多くの石器が出土 したのが A2 S226 である。

S226 は石器が遺構下部に溜まっているかのように 出土し、その下部から晩期土器が出土している(第 101~103 図)。

遺構内から出土したものには石斧未製品の可能性もある石斧(I類・IV類)、磨製石斧、石錘、敲石・磨石類(i類・ii類)、台石、加工の痕跡が確認されない礫が含まれる。これらの器種は、土掘具、伐採加工具、漁労具、植物加工具や石器製作具等の用途が想定される。

これらの器種の中で、注目したいのが、本書で i 類とした敲石 (第 102 図 685、686) の存在である。

685、686 は尾鈴山酸性岩類の円礫に敲打による平 坦面が作られ、レモンのような形状となっている敲 石である。尾鈴山酸性岩類の円礫は本遺跡南を流れ る小丸川で容易に採取可能であり、石材の特徴とし てははこれまで幾度も触れているように硬質という 点があげられる。

i 類の尾鈴山酸性岩類製敲石については、藤木聡氏により石斧製作用ハンマーと推定されている(藤木 2005)。藤木氏は、「石斧製作用の石製ハンマーであれば、必要条件である握りのよいこと・対象物(この場合石斧本体)より硬いこと」を石斧用工具の条件とする。

S226 内出土の打製石斧はホルンフェルス製で尾鈴 山酸性岩類製の敲石と比較すれば明らかに軟質な石 材である。

S226以外の遺構内出土の石器には、A4S104(第100図)、A4S222(第103図)出土した石斧がある。 両遺構内より出土した石斧に共通するのは、礫面を 大きく残し、石斧未製品と推測されるものである。

包含層より出土した打製石斧の中にも礫面を大き く残すものはあるが、それらは礫の形状を利用し石 斧完成形とするものが多く、前述した遺構内の石斧 のように石斧未製品と思われるものの割合は少ない。 このうち、無刻目突帯文を持つ深鉢と共に出土した S222 出土の打製石斧(第103図689)は、まさに石斧製作の初期段階と推定されるものである。689は扁平な礫を素材とし、石器上端、下端の二次加工の後、石器側面に調整が移っている。加工が施される石器縁辺では、表裏で剥離の形状が非対称をなすといった特徴がみられ、これは、石斧の製作についての一つの技法として提唱されている「両極敲打技法」による製作の可能性もある(久保田2006)。

これまで述べた3つの遺構は遺構の平面形態や残深等に差異があり、同じ時期の所産かもはっきりしない。しかし、S226が石斧や石錘、敲石等の晩期の人々の「道具箱」であるかのような、豊富な器種構成であるのに対し、S222やS104は石斧のみの出土である。

また、S226内に大量の石器が残された背景には、 人々の「道具箱」であった可能性や石器の一括廃絶等、 多数の可能性が推測される。S222やS104と異なる 点としてS226内に含まれていたものは、石器として すぐに使用できる、あるいは既に使用されたもので あり、S222、S104内に含まれていた石器は未製品の 状態でこれから完成を待つ状態である点である。

3つの遺構全でで確認されている石斧については、 片面に礫面を大きく残し、未製品と思われる資料も 多い。このことは、石斧の素材となる礫に一次的な 加工を加えた状態の石斧未製品が集積されていたこ とを示唆している。 (文責:岸田)

- ・藤木 聡 2005「宮崎県域における縄文時代の石斧製作と石材」『石器原産地研究会会誌 Stone Sources』 No.5 石器原産地研究会
- ・久保田正寿 2006「両極臓打技法について 「打製石斧」の製作技術とあらたな視点 」 『現活秀一先生古希記念論文集 考古学の諸相Ⅱ』

遺物観察表 写真図版

第11表 縄文時代草創期土器観察表

易載 5.5.時期	器種	部位	出土	調整、文		— 胎土	分類	備考
·号 · 72 草創期	深鉢		地点 L5 SC256	外面 口唇部貝殼刺突、口縁端部	内面 ナデ	4mm 以下の灰白色粒、2mm 以下の褐灰色粒を含み、		1113 3
72 — (1)7(1)	//LET	Mill Mill	25 30230	隆帯文(貝殻背面押圧)、 胴部以下ナデ	, ,	1mm 以下の黒色・透明光沢粒を少量含む。	Α	
73 草創期	深鉢	口縁部	L5 SC256	口唇部ナデ、口縁部貝殻刺 突、貝殻背面押圧	ナデ	微細な灰白色・褐灰色粒を含み、微細な透明光沢粒を少 量含む。	Α	風化激しい
74 草創期	深鉢	口縁部	L5 SC256	口唇部ナデ、口縁部隆帯文 (爪先刺突)、ナデ	ナデ	微細な褐灰色粒・灰白色粒・透明光沢粒を含む。	Е	
75 草創期	深鉢	口縁部付近	L5 SC256	口縁部貝殻刺突、胴部以下 ナデ	ナデ	2mm 以下の黒色光沢粒を多量に含み、2mm 以下の灰白 色粒を少量含む。		
76 草創期	深鉢		L5 SC256	<u>ナデ</u>	ナデ	2mm以下の白色粒・浅黄橙色粒・黒色光沢粒を含む。		
77 草創期	深鉢	胴部	L5 SC256	ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒を多量に含み、2mm 以下の黒色光 沢粒を含む。		
78 草創期	深鉢	胴部	L5 SC256	ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒・黒褐色粒、微細な透明光沢粒を 含む。		
79 草創期	深鉢	胴部	L5 SC256	ナデ	ナデ	1mm以下の黒色粒・灰白色粒を多量に含み、2mm以下 の黒色粒・透明光沢粒を含む。		
80 草創期	深鉢	胴部	L5 SC256	隆帯文(指頭押圧)、ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・黒色光沢粒を含む。		81 と同一
81 草創期	深鉢	底部	L5 SC256	胴部隆帯文(指頭押圧)、	ナデ	2mm以下の灰白色粒・黒色光沢粒を含む。		80 と同一 底径 11.2cm
82 草創期	深鉢	底部	L5 SC256	<u>ナデ、底面ナデ</u> ナデ	ナデ	微細な淡黄色粒・褐色粒・透明光沢粒を含む。		底径 7.4cm
83 草創期	深鉢	底部	L5 SC256	ナデ	ナデ	微細な褐色粒・灰白色粒・黒色粒・透明光沢粒を含む。		
84 草創期	深鉢	底部	L5 SC256	ナデ	ナデ	1mm以下の赤褐色粒、微細な淡黄色粒を含む。		底径 8.0cm
103 草創期	深鉢	口縁部		口唇部ナデ、口縁端部隆帯	ナデ	微細な浅黄橙色粒を多量に含み、1mm以下の黄橙色粒・ 黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		
			+M5 SI95 +L5 [SA7]	文(貝殼背面押圧)、沈線文、口縁部貝殼背面押圧、胴部			Α	
104 草創期	深鉢	口縁部	M5 [SA5]	以下ナデ 口唇部ナデ、口縁端部隆帯	ナデ	1mm 以下の淡黄色粒・黒褐色粒を多量に含み、1mm 以 下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		
				文(貝殻背面押圧)、口縁 部貝殻背面押圧、胴部以下		「Ⅵ無己儿水極・返明儿水極をシ里百切。	Α	
105 草創期	深鉢	口縁部	L5	ナデロ唇部ナデ、口縁部隆帯文	ナデ	2mm 以下の灰白色粒を多量に含み、1mm 以下の黒褐色 粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		
				(貝殻背面押圧)、胴部以下 ナデ			Α	
106 草創期	深鉢	口縁部	L5	口唇部貝殼刺突、口縁部貝 殼刺突、貝殼背面押圧	ナデ	1mm以下の浅黄橙色粒・黒色粒・透明光沢粒を含む。	Α	107 と同一
107 草創期	深鉢	口縁部	L5	口唇部貝殼刺突、口縁部貝 殼刺突、貝殼背面押圧	ナデ	1mm以下の浅黄橙色粒・黒色粒・透明光沢粒を含む。	Α	106 と同一
108 草創期	深鉢	口縁部	K5 [SC9]	口唇部ナデ、口縁部隆帯文 (貝殻背面押圧)、ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒・褐灰色粒・黒色光沢粒を多量に 含む。	Α	スス付着 風化激しい
109 草創期	深鉢	口縁部	L5	口唇部ナデ、口縁端部隆帯 文(貝殻押圧)、胴部以下	ナデ	2mm 以下の灰褐色粒・黄橙色粒、微細な黒色光沢粒を 多量に含む。	Α	口径 10.1cm
110 草創期	深鉢	口縁部	M4	ナデ 口唇部貝殻刺突、口縁部隆	ナデ	微細な灰白色粒・透明光沢粒、1mm以下の暗灰黄色粒を少量含む。	A	
111 草創期	深鉢	口縁部	K5	帯文(貝殻刺突)、ナデ 口縁端部隆帯文(貝殻刺	ナデ	2mm以下の灰褐色粒・黄橙色粒を多量に含む。	Α	内面風化激し
112 草創期	深鉢	口縁部	M4 [SX3]		ナデ	2mm以下の灰褐色粒・黄橙色粒を含む。	A	
113 草創期	深鉢	口縁部	K6 SI58	以下ナデ 口縁端部刻目(工具)、口	ナデ	1mm 以下の淡黄色粒を少量含む。		
113 — (6)(4)	//LET	H 100 CIP	110 3130	縁部隆帯文(工具による刻			В	
114 草創期	深鉢	口縁部	L5	<u>目)、ナデ</u> 口唇部ナデ、口縁部隆帯文 (工具による刻目)、ナデ	ナデ	1mm 以下の褐色粒・灰白色粒・淡黄色粒を含む。	В	
115 草創期	深鉢	口縁部	L5	口唇部ナデ、口縁部隆帯文 (工具による刻目)、ナデ	ナデ	微細な灰白色粒・褐色粒・透明光沢粒を少量含む。	В	
116 草創期	深鉢	口縁部	M5	口唇部ナデ、口縁部隆帯文 (爪先圧痕)	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・褐色粒・赤褐色粒を多量に含む。	С	117 と同一
117 草創期	深鉢	口縁部	M5 SI95+M5	口唇部ナデ、口縁部隆帯文 (爪先圧痕)、胴部以下ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・褐色粒・赤褐色粒を多量に含む。	С	116 と同一
118 草創期	深鉢	口縁部	M5	口唇部ナデ、口縁部隆帯文 (指頭圧痕)、胴部以下ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・明赤褐色粒・褐灰色粒、1mm 以 下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む。	C	
119 草創期	深鉢	口縁部	K5 SI53	「角頭圧張」、胴部以下ナデロ唇部ナデ、口縁端部隆帯文(ナデ)、胴部以下ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を多量に含み、微細な黒色粒・透明光沢粒を少量含む。	D	
120 草創期	深鉢	口縁部	L5	口唇部ナデ、口縁部隆帯文	ナデ	3mm 以下の灰黄褐色粒・浅黄橙色粒、1mm 以下の透明 光沢粒、5mm 以下の明赤褐色粒を少量含む。	D	
121 草創期	深鉢	口縁部	A1 一括	(ナデ) 口唇部ナデ、口縁部隆帯文 	ナデ	1mm以下の灰白色粒・褐灰色粒を含み、1mm以下の黒色光沢粒を少量含む。	D	
22 草創期	深鉢	口縁部	A1 一括	(ナデ) 口唇部ナデ、口縁部隆帯文	ナデ	3mm以下の灰白色粒・黒褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒を少量含む。	D	
123 草創期	深鉢	口縁部	L5	(ナデ) 口唇部ナデ、口縁部隆帯文	ナデ	粒を少量含む。 微細な褐色粒・淡黄色粒・透明光沢粒を含む。		
124 草創期	深鉢	口縁部	L4	(ナデ) 口唇部ナデ、口縁部隆帯文	ナデ	1mm以下の浅黄橙色粒・褐灰色粒多量に含み、2mm以下の瓜白色粒、海畑た甲色火油粒大小号含む		
125 草創期	深鉢	口縁部	K5 SI51	(ナデ) 口唇部ナデ、口縁部隆帯文	ナデ	下の灰白色粒、微細な黒色光沢粒を少量含む。 微細な黒色光沢粒を多量に含み、1mm以下の灰白色粒・	D	
126 草創期	深鉢	口縁部	M4 SI2	(ナデ)、ナデ 口唇部ナデ、口縁部隆帯文、	ナデ	淡橙色粒を少量含む。 1mm以下の褐灰色粒を多量に含み、微細な黒色光沢粒		
127 草創期	深鉢	口縁部		ナデロ唇部貝殻刺突、口縁部隆		を少量含む。 2mm 以下の灰白色粒・黒褐色粒を多量に含み、2mm 以	D	
128 草創期	深鉢		L6 SC217	帯文(ナデ) 口唇部ナデ、口縁部隆帯文		下の黒色粒・透明光沢粒を少量含む。 1mm 以下の灰白色粒を多量に含み、1mm 以下の褐灰色	D	
- 1.477747	77 Tab	.—		(ナデ)、胴部以下ナデ	* *	粒を少量含む。	D	

掲載 時期	器種	部位	出土	調整、文		— 胎土	分類	備考
番号 130 草創期	深鉢	□縁部	地点	外面 口唇部ナデ、口縁部降帯文	内面	2mm以下の灰白色粒・褐灰色粒を含み、2mm以下の黒	73 /	炭化物付着
131 草創期	深鉢	□縁部		(ナデ)	ナデ	色光沢粒を少量含む。 1mm以下の灰白色粒・褐灰色粒を多量に含み、微細な	D	11350 ± 70BP
				口唇部ナデ、口縁部隆起線 文、胴部以下ナデ		黒色光沢粒を少量含む。	D	
132 草創期	深鉢	口縁部		爪形文	ナデ	微細な黒色粒・淡黄色粒・灰白色粒を含む。	Е	
133 草創期	深鉢	口縁部	L6	口縁部隆帯文(ナデ)	ナデ	微細な灰白色粒・黒色粒・透明光沢粒を少量含む。	D	炭化物付着 11440 ± 50BP
134 草創期	深鉢	口縁部	L5	ナデ	ナデ	2mm 以下の黒色光沢粒、1mm 以下の淡黄色粒・褐色粒・ 灰白色粒を含む。	Е	
135 草創期	深鉢	口縁部	L4	爪形文	ナデ	微細な黒色粒・淡黄色粒・灰白色粒を含む。	Е	風化激しい
136 草創期	深鉢	口縁部	M4 SI1	ナデ	ナデ	2mm以下の浅黄橙色粒・橙色粒を含む。	F	
137 草創期	深鉢	胴部	L4	貝殻背面押圧、ナデ	ナデ	1mm以下の褐灰色粒を多量に含み、1mm以下の灰白色 粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		赤色化粧土か
138 草創期	深鉢	胴部	L4	貝殻背面押圧、ナデ	ナデ	1mm以下の褐灰色粒を多量に含み、1mm以下の浅黄橙		内面スス付着
139 草創期	深鉢	胴部	L4 SI8	隆帯文(指頭押圧)、ナデ	ナデ	色粒を少量含む。 2mm以下の浅黄色粒・黒色光沢粒を含む。		
140 草創期	深鉢	胴部	L4	隆帯文(指頭押圧)、ナデ	ナデ	1mm以下の浅黄橙色粒・灰色粒を多量に含み、1mm以		
141 草創期	深鉢	胴部	L5	隆帯文(ナデ)、ナデ	ナデ	下の黒色光沢粒を少量含む。 2mm 以下の灰白色粒・浅黄橙色粒・褐灰色粒、1mm 以		
142 草創期	深鉢	□縁部		突帯文、ナデ	ナデ	下の黒色光沢粒を含む。 2mm以下の灰白色粒・浅黄色粒・橙色粒・褐色粒・黒		
		付近				色光沢粒・透明光沢粒を多量に含む。		
143 草創期	深鉢	口縁部 付近		爪形文、ナデ	ナデ	微細な淡黄色粒・褐色粒を含む		
144 草創期	深鉢	口縁部付近	L4	爪形文	ナデ	微細な褐色粒・黒色粒を含む。		
145 草創期	深鉢	胴部	L5	ナデ	ナデ	1mm以下の浅黄橙色粒・黒褐色粒・灰白色粒を多量に 含み、1mm以下の黒色光沢粒を少量含む。		
146 草創期	深鉢	胴部	L4 SI8	ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を多量に含む。		内面赤色化粧土か
147 草創期	深鉢	胴部	M4 SI2/SI3/SI4	ナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒・暗灰色粒を多量に含み、1mm 以 下の黒色粒・透明光沢粒を含む。1mm 以下の明褐色粒		
148 草創期	深鉢	胴部	M5	ナデ	ナデ	を少量含む。 2mm以下の灰白色粒・褐灰色粒を多量に含み、微細な		
	深鉢		M5	ナデ		黒色光沢粒・透明光沢粒を含む。 3mm以下の灰白色粒、1mm以下の暗灰色粒を多量に含		
149 草創期		胴部			ナデ	み、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む。		
150 草創期	深鉢	胴部	L5 SI15/SI16	ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・黒褐色粒、1mm 以下の黒色光沢 粒・透明光沢粒を含む。		
151 草創期	深鉢	胴部	K5	ナデ	ナデ	1mm以下の浅黄橙色粒・橙色粒を多量に含み、3mm以下の黒褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒を少量含む。		
152 草創期	深鉢	胴部	M5 SI45	ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・褐灰色粒を多量に含み、微細な 黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		外面風化激しい
153 草創期	深鉢	胴部	M4 SI2+K5 SI91	ナデ	ナデ	2mm以下の灰褐色粒・黄橙色粒・透明光沢粒を多量に 含む。		
154 草創期	深鉢	胴部	M4 SI11	ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・褐色粒・黒色光沢粒を含む。		
155 草創期	深鉢	胴部	M5	ナデ	ナデ	1mm 以下の褐灰色粒・黒褐色粒・黒色光沢粒を多量に		
156 草創期	深鉢	胴部	L6 SC240	ナデ	ナデ	合み、2mm以下の赤褐色粒・浅黄橙色粒を少量含む。 2mm以下の黒褐色粒・灰白色粒・褐灰色粒を含み、		
157 草創期	深鉢	胴部	L5	ナデ	ナデ	1mm 以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。 1mm 以下の浅黄橙色粒・褐灰色粒を多量に含み、微細		内面炭化物付着
						な黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。 1mm 以下の褐灰色粒を多量に含み、1mm 以下の灰白色		1311101013131
158 草創期	深鉢	胴部	L5 SC262	ナデ	ナデ	地・黒色光沢粒を少量含む。		
159 草創期	深鉢	胴部	L5 SI24	ナデ	ナデ	5mm以下の浅黄橙色粒、1mm以下の褐灰色粒を多量に 含み、微細な黒色光沢粒を少量含む。		
160 草創期	深鉢	胴部	L5 SI103	ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・浅黄橙色粒を含み、1mm 以下の 黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		
161 草創期	深鉢	胴部	K5 SI19	ナデ	ナデ	3mm以下の灰褐色粒・黄橙色粒を多量に含み、微細な 黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		
162 草創期	深鉢	胴部	M4 SI2	ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・褐色粒を含む。		
163 草創期	深鉢	胴部	M5 SI23/SI95	ナデ	ナデ	1mm以下の浅黄橙色粒・暗褐色粒を多量に含み、1mm以下の明褐色粒・黒色光沢粒を少量含む。		
164 草創期	深鉢	胴部	M4 SI1	ナデ	ナデ	3mm 以下の黄橙色粒・灰褐色粒を多量に含み、1mm 以		
165 草創期	深鉢	胴部	L6 SC215	ナデ	ナデ	下の黒色光沢粒を少量含む。 2mm以下の灰白色粒・黒褐色粒を含み、2mm以下の黒		内面スス付着
166 草創期	深鉢	胴部	M4	ナデ	ナデ	色光沢粒を少量含む。 微細な灰白色粒・褐色粒を多量に含み、微細な黒色粒・		
167 草創期	深鉢	胴部	M5 SI23/SI95+M5		ナデ	透明光沢粒を少量含む。 微細な浅黄橙色粒・灰白色粒を多量に含み、3mm以下		
						の暗赤褐色粒、1mm 以下の橙色粒・褐灰色粒を少量含む。		
168 草創期	深鉢	胴部	L6	ナデ	ナデ	微細な灰白色粒・黒褐色粒を含み、微細な赤褐色粒・透明光沢粒を少量含む。		内面赤色化粧土か
169 草創期	深鉢	胴部	L4	ナデ	ナデ	微細な灰白色粒・浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を多量に含む。		170 と同一 内面赤色化粧土か
170 草創期	深鉢	胴部	L6	ナデ	ナデ	微細な灰白色粒・浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を多量に含む。		169 と同一 内面赤色化粧土か
171 草創期	深鉢	胴部	L4	ナデ	ナデ	1mm 以下の灰色粒、微細な浅黄橙色粒を多量に含み、 2mm 以下の暗赤褐色粒を少量含む。		赤色化粧土か
172 草創期	深鉢	胴部	L4	ナデ	ナデ	微細な灰白色粒・褐色粒を多量に含む。		
173 草創期	深鉢	胴部	K5 SI85	ナデ	ナデ	1mm以下の浅黄色粒・褐色粒を多量に含む。		
174 草創期	深鉢	胴部	M5 SI23/SI95	ナデ	ナデ	1mm以下の浅黄橙色粒・褐灰色粒を多量に含み、2mm		

掲載 時期番号	器種	部位	出土 - 出土 - 地点		調整、文様	 一 胎土	分類	備考
	√mΔL	0G ÷0	2,111		外面 内面	1mm 浅黄橙色粒・微細な透明光沢粒を含む。		
175 草創期	深鉢	胴部	K5 SI46/SI47	ナデ	ナデ	Imm 浅典位巴和・俶細な透明尤沢和を含む。		
176 草創期	深鉢	胴部	K5	ナデ	ナデ	2mm 以下の黒褐色粒・灰白色粒を含み、2mm 以下の透明光沢粒を少量含む。		
177 草創期	深鉢	底部	L5	ナデ	ナデ	1mm以下の浅黄橙色粒・黒褐色粒を多量に含み、1mm 以下の褐灰色粒・淡黄色粒を少量含む。		底径 11.8cm
178 草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	1mm 以下の黒色粒・透明光沢粒を多量に含み、2mm 以 下の黄橙色粒・灰褐色粒を含む。		底径 11.0cm
179 草創期	深鉢	底部	L5	ナデ	ナデ	1mm 以下の黄褐色粒を含み、2mm 以下の褐色粒を少量 含む。		底径 11.4cm
180 草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	2mm 以下の黄橙色粒を多量に含み、5mm 以下の白色粒・ 灰褐色粒、1mm 以下の黒色光沢粒を含む。		
181 草創期	深鉢	底部	M5 SI95	ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒を多量に含み、4mm 以下のにぶい 黄橙色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む。		
182 草創期	深鉢	底部	L4	ナデ	ナデ	1mm以下の褐灰色粒、微細な浅黄橙色粒を多量に含み、 1mm以下の明赤褐色粒・透明光沢粒を少量含む。		
183 草創期	深鉢	底部	M4 [撹乱]	ナデ	ナデ	1mm以下の褐灰色粒・浅黄橙色粒を多量に含み、微細 な黒色光沢粒を少量含む。		
184 草創期	深鉢	底部	L5	ナデ	ナデ	微細な浅黄色粒・橙色粒を多量に含み、微細な黒色光沢 粒・透明光沢粒を少量含む。		
185 草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	1mm以下の透明光沢粒を多量に含み、2mm以下の灰褐 色粒・褐色粒を含む。		
186 草創期	深鉢	底部	L6 SC217	ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色を多量に含み、2mm 以下の暗褐色粒、 1mm 黒色光沢粒を少量含む。		
187 草創期	深鉢	底部	K5/L5 [撹乱]	ナデ	ナデ	3mm以下の灰褐色粒・黄橙色粒を多量に含み、2mm以 下の黒色粒・透明光沢粒を含む。		風化激しい
188 草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒を多量に含み、1mm 以下の褐灰色 粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		底径 10.4cm
189 草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒・褐灰色粒・透明光沢粒を含み、 1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む		底径 13.0cm
190 草創期	深鉢	底部	M5	ナデ	ナデ	1mm以下の灰白色粒・黒褐色粒、黒色粒・透明光沢粒を少量含む。		
191 草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	2mm以下の白色粒・褐色粒・暗褐色粒・黄褐色粒を含み、 2mm以下の黒色光沢粒を少量含む。		剥落激しい
192 草創期	深鉢	胴部	L5 SI38	ナデ	ナデ	3mm以下の浅黄橙色粒・黒褐色粒を多量に含む。		剥落激しい
193 草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を多量に含む。		
194 草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	3mm 以下の灰褐色粒・黄橙色粒を多量に含み、1mm 以 下の透明光沢粒を少量含む。		
195 草創期	深鉢	底部	L4	ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒・黒色粒・透明光沢粒を含み、 1mm 以下の赤色粒を少量含む。		
196 草創期	深鉢	底部	M5	ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒を含み、微細な黒褐色粒・透明光 沢粒を少量含む。		
197 草創期	深鉢	底部	L6 [SA6]	ナデ	ナデ	1mm 以下の褐灰色粒・浅黄橙色粒を多量に含み、微細な透明光沢粒を少量含む。		剥落激しい
198 草創期	深鉢	底部	M4	ナデ	ナデ	3mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒・黒色光沢粒 を含む。		風化激しい
199 草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	2mm 以下の灰褐色粒を多量に含み、2mm 以下の黒色光 沢粒を少量含む。		風化激しい

第 12 表 縄文時代早期土器観察表

掲載番号	時期	器種	部位	出土 地点	調整、文标 		胎土	分類	備考
200	早期	深鉢	口縁~	K6 SC210+K6	グト山 口唇部ナデ、口縁部以下横 方向の貝殻条痕、胴部下半	ナデ(指頭痕)	1mm 以下の灰白色粒・黒褐色粒を多量に含み、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	I A	口径 22.5cm 内面に植物繊維痕多
201	早期	深鉢	胴部	L5 SI20+K6 SC211	は縦方向の貝殻条痕 網目状撚糸文	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・黒色光沢粒を含む。		く、外面下半の風化 激しい
203	早期	深鉢	胴部	+ J7 K6 SC212	枝回転文か	ナデ	3mm 以下の灰白色粒を多量に含み、2mm 以下の灰	II D	
204	早期	深鉢	口縁部	オ 44 SP4	口唇部丁寧なナデ、口縁端	ナデ	褐色粒・白色粒・金色の雲母を少量含む。 2mm以下の灰白色粒・褐色粒・白色粒を多量に含み、	II F	推定口径 12.5cm
204	777	7A24	HWALP.	7) 11 3) 1	部へラ状工具による斜め方向の刺突文列、口縁部以下貝殻条痕	, ,	1mm以下の透明光沢粒を少量含む。	ΙA	スス付着 内面剥落激しい 205 と同一
205	早期	深鉢	底部	オ 44 SP4	ナデ、底部ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒・白色粒・黒色粒を多量に含む。	ΙA	推定底径 6.2cm、 204 と同一
206	早期	深鉢	胴部	カ 42 SP1	貝殻条痕	ナデ	1mm 以下の灰白色粒・浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を 多量に含む。	I A	207 と同一
207	早期	深鉢	胴~底 部	カ 42 SP2	ナデ	ナデ	1mm 以下の白色粒を多量に含み、1mm 以下の淡黄色粒・褐色粒・透明光沢粒を少量含む。	I A	推定底径 7.9cm、 風化激しい 206 と同一
208	早期	深鉢	口縁~ 胴部	J9 SC205+J9	ナデ	ナデ	2mm 以下の淡黄色粒・黒色光沢粒を含み、5mm 以下の白色粒・灰白色粒を少量含む。	Ⅲ(ア)	206 と同一 209 と同一 口径 28.8cm
209	早期	深鉢	底部付	J9 SC205	ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・淡黄色粒、1mm 以下の黒色 光沢粒、微細な褐色粒を含む。	Ш	208 と同一
210	早期	深鉢	近 胴部	K7 SC232	菱形押型文	ナデ	1mm以下の黒色粒・透明光沢粒を含み、3mm以下の浅黄橙色粒を少量含む。	ΠF	内面剥落激しい
211	早期	深鉢	胴部	K7 SC232+J6+J7	楕円押型文	ナデ	3mm 以下の白色粒、1mm 以下の灰白色粒・明褐灰色粒・淡橙色粒を含み、1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	II B	303・307 と同一
213	早期	深鉢	胴部	L4 SC220	貝殻条痕	ナデ	5mm 以下のにぶい赤褐色粒、2mm 以下の褐灰色粒・透明光沢粒を含む。	ΙA	風化激しい 214・215 と同一
214	早期	深鉢	胴部	L4 SC220	貝殼条痕	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・褐色粒を多量に含む。	ΙA	風化激しい 213・215 と同一
215	早期	深鉢	胴部	L4 SC220	貝殼条痕	ナデ	微細な透明光沢粒を多量に含み、2mm以下の褐色粒・ にぶい橙色粒・灰白色粒を少量含む。	ΙA	風化激しい 213・214 と同一
216	早期	深鉢	胴部	M5 SC247	楕円押型文	ナデ	1mm 以下の黄橙色粒を多量に含み、4mm 以下の赤 褐色粒、1mm 以下の灰白色粒・黒色光沢粒を少量含		213 • 214 2 10 1
217	早期	深鉢	胴部	M5 SC248	撚糸文	ナデ	む。 微細な白色粒を多量に含み、1mm以下の褐色粒・半 透明粒を少量含む。	II D	218 と同一
218	早期	深鉢	胴部	M5 [撹乱]	撚糸文	ナデ	1mm 以下の白色粒を多量に含み、1mm 以下の褐色 粒・透明光沢粒を少量含む。	II D	217 と同一
219	早期	深鉢	胴部	L6 SC215	山形押型文	ナデ	2mm以下の黒色光沢粒を多量に含み、3mm以下の灰白色粒・褐灰色粒を少量含む。	II C	
220	早期	深鉢	胴部	L6 SC215	撚糸文	ナデ	1mm 以下の灰白色粒・褐灰色粒・透明光沢粒を多量	II D	
221	早期	深鉢	底部	L6 SC215	山形押型文、ナデ	ナデ	に含む。 2mm 以下の灰白色粒・浅黄色粒・褐色粒を多量に含	II C	
222	早期	深鉢	底部	L6 SC215	胴部丁寧なナデ、 底面網代痕	丁寧な横ナデ	む。 2mm 以下の灰白色粒・褐灰色粒、1mm 以下の黒色粒・ 透明光沢粒を含み、4mm 以下の暗赤褐色粒を少量含		
223	早期	深鉢	胴部	J7 SC208	変形撚糸文	調整不明(ナデか)	む。) 3mm 以下の金色の雲母、2mm 以下の黄橙色粒・灰 白色粒を多量に含み、2mm 以下の灰褐色粒を少量含	II E	内面の剥落が激しい
224	早期	深鉢	口縁部	L5 SC249	口唇部楕円押型文、口縁部 以下楕円押型文	ナデ	び。 2mm以下のにぶい黄橙色粒・灰白色粒・黒色光沢粒を多量に含み、1mm以下の褐色粒を少量含む。	II B(イ))
225	早期	深鉢	胴部	L5 SC249	病下植口护至文 楕円押型文	ナデ	2mm 以下の橙色粒を多量に含み、1mm 以下の白色粒、微細な黒色光沢粒を少量含む。	II B	
226	早期	深鉢	口縁部	L5 SC249	口唇部ナデ、口縁部以下楕	ナデ	3mm以下の明褐灰色粒・橙色粒・褐灰色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	II B(イ)	<u> </u>
227	早期	深鉢	胴部	L4 SC251	円押型文 楕円押型文		3mm 以下の黄橙色粒を多量に含み、2mm 以下の黒	II B	<u>'</u>
228	早期	深鉢	口縁部	L4	口唇部ナデ、口縁端部貝殻 刺突文、口縁部以下貝殻条	ち一部貝殻条痕 貝殻条痕のちナデ	褐色粒・赤褐色粒、微細な黒色光沢粒を少量含む。 ・3mm 以下の浅黄橙色粒、1mm 以下の黒褐色粒を多量に含み、2mm 以下の橙色粒、1mm 以下の黒色光 沢粒を少量含む。	I A	
229	早期	深鉢	口縁部	H11	<u>痕</u> 口唇部ナデ、口縁端部貝殻 押引文、口縁部以下太い貝	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・褐灰色粒・黒褐色粒を多量に含み、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	ΙA	補修孔 230 と同一
230	早期	深鉢	胴部	L5	<u>殻条痕</u> 太い貝殻条痕	ケズリ	微細な灰白色粒を多量に含み、微細な黒色光沢粒、 透明光沢粒、灰褐色粒を少量含む。	ΙA	補修孔 229 と同一
231	早期	深鉢	口縁部	+44	口唇部ミガキ、口縁端部貝 殻腹縁による短沈線文列、 口線部以下斜めの貝殻条	横方向ミガキ	3mm 以下の白色粒・灰白色粒・黒色粒・透明光沢粒を多量に含む。	ΙA	風化激しい
232	早期	深鉢	口縁部	7 34	痕 口縁端部縦方向の短沈線 文、口縁部以下横ナデによ	ナデ	1mm以下の浅黄橙色粒・褐灰色粒を多量に含み、透明光沢粒を少量含む。	ΙB	
233	早期	深鉢	口縁部	オ 41	殻腹縁による短沈線文、口 縁部以下ナデのち工具に		- 2mm 以下の黄橙色粒、1mm 以下の灰白色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を多量に含む。	ΙB	
234	早期	深鉢	口縁部	M4+M5	よる条痕文 口唇部粗いミガキ、口縁端 部条痕文列、口縁部以下ナ デのち櫛状の工具による 条痕立	粗いミガキ	4mm 以下の灰白色粒・淡橙色粒・褐灰色粒・黒褐色 粒を多量に含み、1mm 以下の黒色光沢粒・透明光沢 粒を少量含む。	ΙB	
235	早期	深鉢	口縁部	M5	条痕文 口唇部横ナデ、口縁部以下 斜め方向の条痕文	丁寧なナデ	2mm 以下の灰白色粒・褐灰色粒・淡橙色粒・赤褐色 粒を含み、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒少量含む。	ΙB	
236	早期	深鉢	口縁部	L6		丁寧なナデ	2mm 以下の灰白色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢 粒を多量に含み、5mm 以下のにぶい黄橙色粒を少量 含む。	I C	
237	早期	深鉢	口縁部	L4	口唇部丁寧なナデ(光沢あり)、口縁部以下貝殻腹縁	強いナデか	4m以下の風化したような白色粒、3mm以下の淡黄色粒・灰白色粒、1mm以下の黄灰色粒を多量に含む。	I C	
238	早期	深鉢	胴部	L5 SI38	<u>刺突文</u> 貝殻条痕	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・灰黄褐色粒・黒色粒、1mm 以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む。	ΙA	

掲載番号	時期	器種	部位	出土	調整、文材		胎土	分類	備考
留写 239	早期	深鉢	胴部	地点 K5 SI90/SI91	外面 ナデ	内面 ナデ	5mm 以下の灰白色粒、2mm 以下の褐灰色粒・黒色	ΙA	241 と同一
240	早期	深鉢	胴部	才 41	貝殼条痕	ナデ	光沢粒を多量に含む。 1mm 以下の灰白色粒・褐灰色粒・透明光沢粒を多量 に含む。	I A	
241	早期	深鉢	胴部	H11	ナデ	ナデ	4mm 以下の黄橙色粒・褐灰色粒、2mm 以下の黒色 光沢粒を多量に含む。	I A	内面剥落激しい 239 と同一
242	早期	深鉢	胴部	M5	ナデ	ナデ	2mm以下の灰褐色粒・褐色粒を多量に含み、1mm以下の透明光沢粒を含む。	ΙA	237 CIN
243	早期	深鉢	胴部	J7	貝殻条痕	貝殻条痕	2mm 以下の灰白色粒を多量に含み、1mm 以下の褐灰色粒を少量含む。	ΙA	
244	早期	深鉢	底部付 近	D24 [S27]	貝殻腹縁刺突文	丁寧なナデ	2mm 以下の黄橙色粒・浅黄色粒・暗褐色粒を多量に含み、微細な透明光沢粒・金色の雲母を少量含む。	I C	
245	早期	深鉢	胴部	C28 [S10]	貝殻腹縁刺突文、ナデ	ナデか	2mm 以下の灰白色粒を含み、微細な黒色粒・透明光 沢粒を少量含む。	I C	風化著しい
246	早期	深鉢	底部	L4	ナデ	ナデ	2mm以下の褐灰色粒・黒褐色粒・浅黄橙色粒・暗赤褐色粒・灰白色粒・黒色光沢粒を含む。	ΙA	平底
247	早期	深鉢	口縁部	M4	口唇部ナデ、口縁部楕円押型文、その下に無文帯あり	文、胴部以下ナデ	1mm以下の灰白色粒を少量含む。	II A	249 と同一か
248	早期	深鉢	口縁部	才 41 SI122	楕円押型文	口縁端部原体条 痕、口縁部楕円押 型文	1mm 以下の褐灰色粒・黒色光沢粒を少量含む。	ΠА	
249	早期	深鉢	胴部	M4	楕円押型文、その間に無文 帯あり	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・にぶい橙色粒・黒褐色粒を含み、微細な黒色光沢粒を少量含む。	ΠА	247 と同一か
250	早期	深鉢	胴部	オ 41 SI151	楕円押型文、その間に無文 帯あり	ナデ	1mm 以下の浅黄橙色粒・透明光沢粒を少量含む。	ΠA	内面スス付着
251	早期	深鉢	口縁部	D29 [A12]	口唇部ナデ、口縁端部無 文、口縁部以下楕円押型文	丁寧なナデ	1mm 以下の灰白色粒を少量含む。	ΠA	
252	早期	深鉢	胴部	⊥ 41 SI108	楕円押型文	ナデ	3mm以下の暗赤褐色粒、1mm以下の浅黄橙色粒を含む。	ΠА	植物繊維痕多い
253	早期	深鉢	胴部	A1 一括	山形押型文	ナデ	3mm 以下の灰白色粒を含み、1mm 以下の浅黄橙色粒・黒色光沢粒を少量含む。 1mm 以下の黒褐色粒を多量に含み、1mm 以下の黄	II A	平底
254	早期	深鉢	底部	L6 [撹乱] A1 一括	胴部山形押型文、底面ナデ	ナデ	橙色粒を少量含む。 1mm 以下の浅黄橙色粒・黒褐色粒を多量に含む。	ΠА	平底
256	早期	深鉢	口縁部	M5	口唇部~口縁端部ナデ、口	ファー 	2mm以下の橙色粒・灰白色粒・黒褐色粒、微細な黒	II A	TE
					縁端部無文、口縁部以下楕 円押型文	文、胴部以下ナデ	色光沢粒を少量含む。	II B(ア)	
257	早期	深鉢	口縁部 付近		精円押型文	口縁部楕円押型 文、胴部以下ナデ	3mm以下の橙色粒を多量に含み、微細な褐色粒・透明光沢粒を少量含む。	II B(ア)	
258	早期	深鉢	口縁部	L/ L7 [撹乱]	口唇部ナデ、口縁部以下楕 円押型文	口縁部楕円押型 文、胴部以下ナデ	1mm 以下の褐灰色粒を少量含む。 1mm 以下の黒褐色粒を多量含み、1mm 以下の浅黄	II B(ア)	
259	早期	深鉢		M5 SI25+M5	ロ唇部ナデ、口縁部以下楕 円押型文 口唇部~口縁部横ナデ、口	口縁部原体条痕、 胴部以下ナデ 口縁端部原体条	橙色粒を少量含む。 2mm 以下の阻視症角粒・単視角粒・にぶい椿角粒	II B(ア)	
200	-W1	7/K-2/P	胴部	WIS SIZS (WIS	縁端部無文帯、口縁部以下 精円押型文	痕、口縁部楕円押型文、胴部以下ナ	1mm 黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	Ⅱ B(ア)	
261	早期	深鉢	口縁部	L5 [SA7]	口縁端部に一条の横ナデ による無文帯、口縁部以下 楕円押型文	口縁端部原体条 痕、口縁部山形 押型文、胴部以下 ナデ	1mm 以下の淡黄色粒・褐灰色粒・灰白色粒・黒褐色粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	Ⅱ B(ア)	
262	早期	深鉢	口縁部	L5	口唇部楕円押型文、口縁部 以下楕円押型文	ナデ	2mm 以下の褐色粒・灰白色粒を含む。	Ⅱ B(ア)	スス付着
263	早期	深鉢			口唇部ナデ、口縁部以下楕 円押型文	文、胴部以下ナデ	2mm 以下の灰白色粒・黒褐色粒・黒色光沢粒・透明 光沢粒を含む。	Ⅱ B(イ)	推定口径 14.8cm
264	早期	深鉢	口縁部	M4 SI122	楕円押型文	文、胴部以下ナデ	3mm 以下の淡橙色粒、2mm 以下の橙色粒を多量に含み、1mm 以下の褐色粒・透明光沢粒を少量含む。	Ⅱ B(イ)	
265	早期	深鉢	口縁部	M4	口唇部〜口縁端部横ナデ、 口縁端部無文、口縁部以下 楕円押型文	口縁部楕円押型 文、胴部以下ナデ	1mm 以下の橙色粒・赤褐色粒・透明光沢粒を少量含む。	Ⅱ B(イ)	
266	早期	深鉢	口縁部	19	ロ唇部ナデ、口縁部以下楕 円押型文	一条の短沈線文、 ナデ	3mm 以下の淡赤色粒・明赤褐色粒・暗赤灰色粒、 1mm 以下の透明光沢粒・黒色光沢粒を少量含む。	II B(イ)	
267	早期	深鉢	口縁部	K7	楕円押型文	め方向の平行沈線	2mm 以下の灰白色粒・黄橙色粒・褐灰色粒、1mm 以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	II B(イ)	
268	早期	深鉢		M6 SI117	口唇部ナデ、口縁部以下楕 円押型文	文、ナデ 口縁部原体条痕、 胴部以下ナデ	2mm 以下の灰白色粒・にぶい黄橙色粒を多量に含み、 2mm 以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む。	II B(イ)	269・270 と同一か
269	早期	深鉢	胴部	M6 SI117	楕円押型文	ナデ	3mm以下の橙色粒・浅黄橙色粒・黒色光沢粒・透明 光沢粒を多量に含み、1mm黒褐色粒を少量含む。	Ⅱ B(イ)	268・270 と同一か
270	早期	深鉢	口縁部	L6 SI44	口唇部ナデ、口縁部以下楕 円押型文	口縁部原体条痕、 胴部以下ナデ	2mm 以下の浅黄色粒・白色粒・橙色粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を多量に含み、1mm 以下の黒褐色粒を少量含む。	Ⅱ B(イ)	268・269 と同一か
271	早期	深鉢	口縁部	K5+L5 [SA7]	口唇部ナデ、口縁部以下楕 円押型文	四条の太めの凹線 文、ナデ	1mm 以下の灰白色粒・褐色粒・黒色光沢粒を少量含む。	II B(イ)	
	早期	深鉢	口縁部		口唇部楕円押型文、口縁部 以下楕円押型文	ナデ	2mm 以下の褐灰色粒・黒色光沢粒を多量に含み、 4mm 以下の灰白色粒、2mm 透明光沢粒を少量含む。	II B(イ)	
	早期	深鉢	口縁部		口縁端部無文帯、口縁部以下楕円押型文		2 mm 以下の橙色粒・灰白粒を含み、微細な透明光 沢粒、5 mm 以下の橙色粒を少量含む。	Ⅱ B(イ)	
	早期	深鉢	口縁~ 胴部		口唇部〜口縁部ナデ、口縁 部無文帯、胴部以下楕円押 型文		2mm 以下の黒色粒・淡黄色粒・褐色粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を多量に含む。	Ⅱ B(イ)	推定口径 40.4cm
275	早期	深鉢	口縁~ 胴部		口唇部楕円押型文、口縁部 以下楕円押型文	ナデ	2mm 以下の浅黄色粒・橙色粒・灰白色粒を多量に含み、2mm 以下の褐色粒、微細な透明光沢粒を少量含む。	II B(イ)	
276	早期	深鉢	口縁~ 胴部	L7	口唇部ナデ、口縁部以下楕 円押型文	ナデ	1mm以下の浅黄橙色粒を多量に含み、5mm以下の にぶい黄橙色粒、3mm以下の灰白色粒を少量含む。	II B(イ)	
	早期	深鉢	口縁~ 胴部		口唇部ナデ、口縁部以下楕 円押型文		2mm 以下の灰白色粒を多量に含み、7mm 以下の赤 褐色粒、3mm 以下の褐灰色粒を少量含む。	II B(イ)	
278	早期	深鉢	口縁~ 胴部	K5	口唇部ナデ、口縁部以下楕 円押型文	ナデ	2mm 以下の浅黄色粒・灰白色粒・黒色光沢粒を多量に含む。	II B(ウ)	

掲載番号	時期	器種	部位	出土地点	調整、文材 外面	· · · · · · · · · · · · · ·	胎土	分類	備考
279	早期	深鉢	口縁部	19 [SA39]	口唇部ナデ、口縁部以下楕 円押型文	口縁部楕円押型	2mm 以下の黒褐色粒、1mm 以下の黒色光沢粒を多 :量に含み、2mm 以下の灰白色粒を含む。	Ⅱ B(ウ)	280 と同一か
280	早期	深鉢	胴部	K7 [SA11]	楕円押型文	ナデ	3mm 以下の淡黄色粒、1mm 以下の黒色光沢粒を多量に含む。	II B(ウ)	279 と同一か
281	早期	深鉢	口縁~ 胴部	L5 SI16+L5 [SA7]	口唇部ナデ、口縁部以下楕 円押型文	口縁部楕円押型 文、胴部以下ナデ	1mm 以下の淡橙色粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を少 : 量含む。	II B(ウ)	
282	早期	深鉢	口縁部	18	口縁端部肥厚帯、口唇部~ 口縁端部横ナデ、口縁部以 下楕円押型文	原体条痕	1mm以下の灰白色粒・浅黄色粒・褐色粒を多量に含み、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	II B(ウ)	283 と同一か
283	早期	深鉢	口縁部	J7	口縁端部肥厚帯、口唇部〜 口縁端部横ナデ、口縁部以 下楕円押型文	原体条痕	1mm 以下の浅黄色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢 粒を多量に含む。	II B(ウ)	282 と同一か
284	早期	深鉢		J10 [SA33]	口唇部ナデ、口縁部以下楕 円押型文	口縁部楕円押型 文、胴部以下ナデ	2mm 以下の灰白色粒・褐灰色粒を多量に含み、 2mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	Ⅱ B(ウ)	
285	早期	深鉢	口縁部 付近	J8	楕円押型文	口经立体口册刑	5mm 以下の灰白色粒・褐灰色粒・浅黄橙色粒を多量 に含み、2mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	Ⅱ B(ウ)	284 と同一
286	早期	深鉢	胴部	L5 [SA7/24]	精円押型文	ナデ(指頭痕)	5mm 以下の灰白色粒・橙色粒・黒褐色粒を含み、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	II B	
287	早期	深鉢	胴部	M4	楕円押型文	ナデ	微細な黒色光沢粒を多量に含み、1mm以下の橙色粒・褐色粒、微細な透明光沢粒を少量含む。	II B	12-11-12-12-12-12-12-12-12-12-12-12-12-1
288	早期	深鉢	胴部	K5 SI19+K5 SI50	楕円押型文	ナデ	4mm以下のにぶい橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を多量に含み、2mm以下の赤褐色粒・黒褐色粒を少量含む。	II B	植物繊維痕多い
289	早期	深鉢	胴部	L6	楕円押型文	工具による条痕文	2mm以下の褐色粒・淡黄色粒を少量含む。	II B	
290	早期	深鉢	胴部	L5	楕円押型文	ナデ	1mm 以下の黄橙色粒・明褐色粒・褐灰色粒、微細な透明光沢粒を少量含む。	II B	植物繊維痕多い
291	早期	深鉢	胴部	J8+L7	ナデのち弧状沈線文、楕円 押型文	ナデ	2mm 以下の橙色粒・浅黄橙色粒、1mm 以下の黒色 粒を多量に含み、1mm 以下の黒色光沢粒を含む。	II B	
292	早期	深鉢	胴部	K5	楕円押型文、ナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒・褐灰色粒・黒褐色粒を多量に 含み、2mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	II B	補修孔
293	早期	深鉢	胴部	J7+J7 [SA12] +K7 [SA11] +L5	楕円押型文	ナデ	3mm 以下の黒褐色粒・にぶい赤褐色粒、2mm 以下 の浅黄色粒・灰白色粒・黒色光沢粒を含む。	II B	
294	早期	深鉢	胴部	C28	楕円押型文	ナデ	1mm 以下の淡黄色粒を多量に含み、1mm 灰白色粒・ 褐色粒を少量含む。	II B	
295	早期	深鉢	胴部	L5	楕円押型文	ナデ(指頭痕)	7mm 以下の浅黄橙色粒、3mm 以下の褐灰色粒・明 赤褐色粒、1mm 以下の黒色粒・透明光沢粒を含む。	II B	
296	早期	深鉢	胴部	L5	楕円押型文	ナデ	2mm 以下の橙色粒、1mm 褐灰色粒を多量に含み、 微細な透明光沢粒を少量含む。	II B	
297	早期	深鉢	胴部	J8 SI66	楕円押型文	ナデ	2mm以下の黒色光沢粒を多量に含み、3mm以下の 黒色粒、1mm以下の浅黄橙色粒・灰白色粒、微細な 添明光沢粒を小量含む。	ⅡВ	
298	早期	深鉢	胴部	J8 [SA71]	楕円押型文	ナデ	透明光沢粒を少量含む。 3mm以下の灰白色粒・黄橙色粒・褐色粒・黒褐色粒、 2mm以下の黒色粒・透明光沢粒を多量に含む。	II B	
299	早期	深鉢	胴部	J8+K9	楕円押型文	ナデ	5mm 以下の浅黄色粒・褐色粒を多量に含み、1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	II B	301 と同一 植物繊維痕多い
300	早期	深鉢	胴部	J8+J8[撹乱]	楕円押型文	ナデ	2mm 以下の黒色光沢粒、1mm 以下の灰白色粒・透明光沢粒を含む。	II B	302 と同一
301	早期	深鉢	胴部	К9	楕円押型文	ナデ(指頭痕)	5mm 以下の灰白色粒・浅黄色粒・褐色粒を多量に含む。	II B	299 と同一 植物繊維痕多い
302	早期	深鉢	胴部	J8	楕円押型文	ナデ	2mm 以下の黒色光沢粒を多量に含み、1mm 以下の 灰白色粒・浅黄橙色粒を少量含む。	II B	300 と同一
303	早期	深鉢	胴部	J7 SC208+J7	楕円押型文	ナデ	4mm 以下の灰白色粒・白色粒を多量に含み、1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	II B	211・307 と同一か
304	早期	深鉢	胴部	K5	楕円押型文	ナデ(指頭痕)	1mm 以下の淡黄色粒・褐色粒を少量含む。	II B	
305	早期	深鉢	胴部	D29	楕円押型文、ナデ	ナデ	1mm 以下の明赤褐色粒・灰白色粒・橙色粒を少量含む。	II B	
306	早期	深鉢	胴部	K5	楕円押型文	ナデ(指頭痕)	2mm 以下の赤褐色粒・淡橙色粒を多量に含み、 2mm 以下の灰白色粒・黄灰色粒を少量含む。	II B	
307	早期	深鉢	胴部	K7 [SA11]	楕円押型文、ナデ	ナデ	4mm 以下の灰白色粒・白色粒を多量に含み、1mm 以下の黒色粒・褐色粒、2mm 以下の黒色光沢粒を少	ΠВ	211・303 と同一か
308	早期	深鉢	胴部	H12	楕円押型文	工具によるけずりぎみの強いナデ、	量含む。 1mm以下の橙色粒・黒色粒を多量に含み、3mm以 下のにぶい黄橙色粒、1mm以下の黒色光沢粒を少量 含む。	II B	
309	早期	深鉢	胴部	K5 [撹乱]	楕円押型文	<u>表面に光沢あり</u> ナデ	3mm 以下の灰白色粒・浅黄橙色粒・褐灰色粒、 2mm 以下の黒色光沢粒を含む。	II B	
310	早期	深鉢	底部付 近	M6	楕円押型文	ナデ	3mm以下の浅黄橙色粒・橙色粒・褐灰色粒・黒褐色粒、微細な透明光沢粒を多量に含む。	II B	
311	早期	深鉢	胴部	K5	楕円押型文	ナデ	3mm以下のにぶい黄橙色粒、1mm以下の黒色光沢粒を多量に含み、3mm以下の透明光沢粒を少量含む。	II B	剥落が激しい
312	早期	深鉢	胴部~ 底部	I12+L7	胴部楕円押型文、ナデ	貝殻条痕、ナデ、 表面に光沢あり	3mm以下のにぶい橙色粒を多量に含み、3mm以下の灰黄色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	II B	推定底径 3.2cm
313	早期	深鉢	底部	K6 SI58	楕円押型文	ナデ、一部条痕	2mm以下の褐色粒、1mm以下の淡黄色粒を含み、 微細な透明光沢粒を少量含む。	II B	角のあまい平底 底径 5.1cm
314	早期	深鉢	口縁部	M4 SI2	口唇部ナデ、口縁部以下山 形押型文	口縁端部原体条 痕、口縁部以下 山形押型文	2mm 以下の灰褐色粒を多量に含み、6mm 程度の砂礫や微細な黒色光沢粒を少量含む。	II C(ア)	
315	早期	深鉢	口縁部 付近	K7	山形押型文	ロ縁部楕円押型 文、胴部以下ナデ	2mm 以下の褐色粒・灰白色粒、1mm 以下の黒色光 : 沢粒を少量含む。	II C(ア)	
316	早期	深鉢	口縁部	L5	口縁端部横ナデ、口縁端部 無文帯、胴部以下山形押型 文	口绿如百休久店	3mm 以下の浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を多量に含み、 微細な透明光沢粒を少量含む。	II C(ア)	
317	早期	壷形 土器	口縁部	L4	口唇部山形押型文、口縁部 山形押型文	ナデ	1mm 以下の金色の雲母、2mm 以下の灰白色粒、 1mm 以下の白色粒を含む	II C	推定口径 6.0cm
318	早期	深鉢	口縁部	I8 [SA22]	口唇部山形押型文、口縁部 以下山形押型文	口縁部山形押型 文、胴部以下ナデ	2mm 以下の灰白色粒・褐色粒を多量に含み、微細な ・黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	II C(ウ)	
319	早期	深鉢	口縁部	L4	口唇部山形押型文、口縁部 以下山型押型文	口紀如山形畑刑	微細な透明光沢粒を多量に含み、2mm以下の浅黄橙 : 色粒・灰白色粒・赤褐色粒・浅黄橙色粒を少量含む。	II C(ウ)	
320	早期	深鉢	口縁部	L5	以下山主行主文 口唇部ナデ、口縁部以下山 形押型文	口縁部山形押型	2mm以下の明褐灰色粒・浅黄橙色粒・灰白色粒、微 細な透明光沢粒を多量に含む。	II C(ウ)	

掲載番号	時期	器種	部位	出土地点	調整、文柱 外面	<u></u>	胎土	分類	備考
321	早期	深鉢	口縁部	-/	ロ唇部ナデ、口縁部以下山 形押型文	口線並小形畑刑	2mm 以下の浅黄色粒・灰白色粒・褐色粒を多量に含 。み、微細な黒色粒・透明光沢粒を少量含む。	II C(ウ)	
322	早期	深鉢	口縁部	M4	ル押型文 口唇部ナデ、口縁部以下山 形押型文	口線或山形畑刑	2mm 以下の黒色光沢粒を多量に含み、2mm 以下の に 灰白色粒・淡黄色粒、1mm 以下の透明光沢粒を少量 含む。	II C(ウ)	336 と同一か
323	早期	深鉢	口縁部	J8	口唇部ナデ、口縁部以下山 形押型文	ナデのち条痕	3mm以下の浅黄橙色粒・褐色粒を多量に含み、微細 な黒色光沢粒を少量含む。	II C(ウ)	
324	早期	深鉢	口縁部	K5	口唇部ナデ、口縁部以下山 形押型文	ナデ	1mm以下の灰白色粒を多量に含み、2mm以下の黒色光沢粒を少量含む。	II C(ウ)	325・326 と同一か
325	早期	深鉢	胴部	K5	山形押型文	ナデ	微細な黒色光沢粒を多量に含み、1mm 以下の浅黄橙 色粒、微細な透明光沢粒を少量含む。	II C	324・326 と同一か
326	早期	深鉢	胴部	K5	山形押型文	ナデ	微細な浅黄橙色粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を多量 に含む。	II C	324・325 と同一か
327	早期	深鉢	胴部	17	山形押型文	ナデ	2mm 以下の淡黄色粒・灰白色粒・褐色粒、1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	II C	
328	早期	深鉢	口縁部付近	M7 [SH866]	山形押型文	ナデ	2mm以下の灰白色粒・黒色粒・微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を多量に含む。	II C	
329	早期	深鉢	胴部	K6 [撹乱]	山形押型文	ナデ(指頭痕)	3mm 以下の褐灰色粒、1mm 以下のにぶい黄橙色粒、 2mm 以下の黒色光沢粒を多量に含み、1mm 以下の	II C	
330	早期	深鉢	胴部	L5 [SA7]	山形押型文	ナデ	明赤褐色粒を少量含む。 1mm以下の褐色粒・浅黄色粒、2mm 黒色光沢粒を 少量含む。	II C	スス付着
331	早期	深鉢	胴部	M4 SI14	山形押型文	ナデ	1mm以下の灰褐色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	II C	
332	早期	深鉢	胴部	J6+K6	山形押型文、ナデ	ナデ	2mm以下の浅黄色粒・橙色粒・褐色粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を多量に含む。	II C	
333	早期	深鉢	胴部	D30	山形押型文	ナデ	2mm以下の浅黄色粒・褐色粒を多量に含み、1mm 以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	II C	
334	早期	深鉢	胴部	M6 SI22	山形押型文	ナデ	1mm以下の黄橙色粒・明褐灰色粒・黒褐色粒を多量に含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	II C	
335	早期	深鉢	胴部	L7	山形押型文	ナデ	3mm 以下の灰白色粒・褐色粒、2mm 以下の黒色光	II C	推定胴部最大径 35.4cm
336	早期	深鉢	胴部	L5	山形押型文、ナデ	ナデ	沢粒、1mm以下の透明光沢粒を含む。 2mm以下の黒色光沢粒を多量に含み、2mm以下の 黒褐色粒・灰色粒を少量含む。	II C	322 と同一か
337	早期	深鉢	胴部	M5+M5 [SA3]	山形押型文	ナデ	2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を多量に含み、 3mm以下の灰白色粒・赤褐色粒・褐灰色粒を少量含		
338	早期	深鉢	胴部	L7	山形押型文	ナデ	む。 4mm 以下の明褐灰色粒・淡黄色粒・橙色粒・褐灰色		
339	早期	深鉢	胴部	M6 [SA4]	山形押型文	ナデ	粒を多量に含み、微細な黒色光沢粒を少量含む。 微細な透明光沢粒を多量に含み、1mm以下の浅黄橙	II C	347と同一
340	早期	深鉢	胴部	J7	山形押型文	ナデ	色粒を少量含む。 2mm以下の淡黄色粒・灰白色粒・褐色粒、1mm以	II C	
341	早期	深鉢	胴部	M4 [SX3]	山形押型文	ナデ	下の黒色光沢粒を少量含む。 1mm以下の灰白色粒・褐灰色粒を多量に含み、微細	II C	
342	早期	深鉢	胴部	M4 SI108	山形押型文	ナデ	な透明光沢粒を少量含む。 2mm以下の黄橙色粒・灰褐色粒、1mm以下の透明	II C	
343	早期	深鉢	胴部	L5+I10	山形押型文	ナデ	光沢粒を少量含む。 5mm 以下のにぶい橙色粒を多量に含み、2mm 以下の黒色光沢粒、5mm 以下のにぶい赤褐色粒を少量含		
344	早期	深鉢	胴部	エ 40	山形押型文	ナデ	む。 3mm以下のにぶい黄橙色粒・にぶい橙色粒を多量に含み、1mm以下の黒色粒、微細な透明光沢粒を少量		
345	早期	深鉢	胴部	L4	山形押型文	ナデ	含む。 2mm 以下の浅黄橙色粒を多量に含み、2mm 以下の	II C	
346	早期	深鉢	胴部	M5	山形押型文	ナデ	透明光沢粒、1mm以下の黒色光沢粒を少量含む。 1mm以下の褐灰色粒を多量に含み、微細な黒色光沢	ПС	
347	早期	深鉢	胴部	M6 [SA4]	山形押型文、ナデ	ナデ	粒を少量含む。 2mm 以下の浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を多量に含み、	ПС	339 と同一
348	早期	深鉢	底部付	J8	山形押型文	ナデ	微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。 2mm以下の黄橙色粒・橙色粒を多量に含み、2mm	II C	349・357 と同一
349	早期	深鉢	近 胴部	J8	山形押型文	ナデ	以下の黒褐色粒を少量含む。 2mm以下の淡黄色粒・褐色粒を多量に含む。	II C	348・357 と同一
350	早期	深鉢	胴部	L7	山形押型文	ナデ	2mm 以下の褐灰色粒・灰白色粒・淡黄色粒を多量に		355・356 と同一
351	早期	深鉢	胴部	L4	山形押型文、ナデ(指頭痕)	ナデ(指頭痕)	含み、2mm以下の黒色光沢粒、1mm以下の透明光 沢粒を少量含む。 5mm以下の橙色粒・灰色粒・黄褐色粒・褐色粒、		
	早期	深鉢	底部付		山形押型文	ナデ	1mm以下の黒色光沢粒を多量に含む。 5mm以下の灰白色粒・橙色粒・赤褐色粒を多量に含	II C	
	早期	深鉢	近胴部	K6	山形押型文	, , ナデ	み、微細な黒色光沢粒を少量含む。 2mm以下の褐灰色粒・浅黄橙色粒・黒色粒・透明光	II C	
354		深鉢	胴部	J7	山形押型文	ナデ	沢粒を含み、4mm以下の橙色粒を少量含む。 微細な透明光沢粒、2mm以下の橙色粒を多量に含み、	II C	
355		深鉢	胴部	L5 SI15+L5	山形押型文	, , ナデ	2~3mmの砂礫を少量含む。 2mm以下の灰白色粒・褐色粒・黒色光沢粒、1mm	II C	350・356 と同一
356		深鉢	胴部	+L5 [SA24/26] L5	山形押型文	ナデ	以下の透明光沢粒を少量含む。 1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含み、3mm	II C	350・355 と同一
	早期	深鉢	底部	J8	胴部に山形押型文か、底部		以下の褐色粒・灰白色粒を少量含む。 2mm以下の橙色粒・明赤褐色粒を多量に含む。	II C	平底
					ナデ			II C	推定底径 1.8mm 348・349 と同一
358		深鉢	底部	K9 [SA6]	胴部山形押型文、底面ナデ		1mm以下の褐色粒を多量に含み、1mm以下の黒色 光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	II C	平底
	早期	深鉢	底部	L5	胴部山形押型文、胴部下位 から底面ナデ		2mm以下の黄橙色粒・暗赤褐色粒・明赤褐色粒を含む。	ΙΙ С	平底
360	早期	ミニチ ュア土 器	口縁~ 底部	J10	口縁部ナデ、胴部山形押型 文、底面ナデ	縦ナデか	微細な黒色光沢粒を多量に含み、2mm以下の灰白色 粒・褐色粒・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を少量含む。	II C	推定口径 6.8cm 推定底径 3.7cm 器高 5.4cm
361	早期	深鉢	口縁部	M5 SI29+L5	口唇部ナデ、口縁部以下撚	ナデ	4mm 以下の黄橙色粒、2mm 以下の浅黄橙色粒を多量に含み、2mm 以下の黒褐色粒を少量含む。	II D(ア)	<u>網代痕か</u>)
362	早期	深鉢	口縁部	L3 SI9	糸文 撚糸文	口縁部撚糸文、 胴部以下ナデ	2mm以下の灰白色粒・黒色光沢粒を多量に含む。	II D(ア)	

掲載番号	時期	器種	部位	出土地点	調整、文林		胎土	分類	備考
留写 363	早期	深鉢	胴部	M4	外面 燃 _{糸文}	内面 ナデ	1 mm 以下の灰淡褐色粒・黒色光沢粒を多量に含み、	II D	
364	早期	深鉢	胴部	M5	撚糸文	ナデ	1 mm 以下の褐灰色粒・透明光沢粒を少量含む。 2mm 以下の灰白色粒、1mm 以下の浅黄橙色粒・透明光沢粒を多量に含み、1mm 以下の黒色光沢粒を少		
365	早期	深鉢	胴部	M5	燃糸文	ナデ(指頭痕)	量含む。 1mm以下の灰白色粒・黒褐色粒を多量に含み、 2mm以下の黄橙色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透	II D	366 と同一
366	早期	深鉢	胴部	L5 SI38	撚糸文	ナデ	明光沢粒を含む。 2mm以下の黒色光沢粒、1mm以下の灰白色粒・黄 橙色粒を多量に含み、1mm以下の褐色粒を少量含む。	II D	365 と同一
367	早期	深鉢	胴部	L5 SI24	撚糸文	ナデ	3mm 以下の橙色粒・褐色粒、1mm 以下の黒色光沢 粒を少量含む。	II D	
368	早期	深鉢	胴部	M5 SI29	撚糸文	ナデ	5mm 以下のにぶい黄褐色粒・暗赤褐色粒、2mm 以下の灰白色粒を含み、微細な透明光沢粒、2~4 mm の砂礫を少量含む。	II D	
369	早期	深鉢	胴部	19 SI70	撚糸文	ナデ	2mm以下の灰白色粒を多量に含み、1mm以下の褐色粒、微細な黒色光沢粒を少量含む。	II D	
370	早期	深鉢	胴部	J7	網目状撚糸文	ナデ	5mm 以下の褐灰色粒・浅黄橙色粒、2mm 以下の黒褐色粒・透明光沢粒を少量含む。	II D	
371	早期	深鉢	胴~底 部	L3 SI9	胴部撚糸文の上に部分的 に条痕、底面ナデ	ナデ(指頭痕)	2mm 以下の灰白色粒・浅黄橙色粒・暗褐色粒、微細 な黒色光沢粒・透明光沢粒を多量に含む。	II D	平底、 推定底径 8.2cm
372	早期	深鉢	口縁部	L4+K5+K5	口唇部ミガキ、口縁部以下 変形撚糸文	口縁部ミガキ、胴 部以下丁寧なナデ	3mm 以下の金色の雲母、2mm 以下の浅黄橙色粒・ 褐灰色粒・灰白色粒を多量に含む。	II E(ウ)	373・374 と同一 推定口径 28.4cm
373	早期	深鉢	胴部	K5	変形撚糸文	ナデ	3mm 以下の金色の雲母、2mm 以下の浅黄橙色粒・ 褐灰色粒・灰白色粒を多量に含む。	ΠE	372・374 と同一
374	早期	深鉢	胴部	K5	こぶ状突起、変形撚糸文	ナデ	3mm以下の金色の雲母・浅黄橙色粒・褐灰色粒・灰白色粒を多量に含む。	ΙΙΕ	372・373 と同一
375	早期	深鉢	底部	J8 [撹乱]	ナデ	ナデ	2mm以下の金色の雲母・浅黄橙色粒を多量に含む。	ΠE	372・373・374 と同一か
376	早期	深鉢	頸部~	L6	ナデ・左上に一部変形撚糸		3 mm 以下の灰白色粒・金色の雲母・黒色粒・黄橙 粒を含む。	II E	推定底径 6.6cm 内面の剥落が激しい 377 と同一
377	早期	深鉢	胴部 胴部	K6	文 変形撚糸文	明 風化のため調整不 明	2mm以下の金色の雲母・灰白色粒・透明光沢粒・黄橙粒を含む。	ΠE	内面の剥落が激しい 376と同一
378	早期	深鉢	頸部付 近	L3	変形撚糸文		1mm 以下の黒色粒・金色の雲母、2mm 以下の灰白粒を含む。	ΠE	
379	早期	深鉢	胴部	L5 SI38	変形撚糸文	丁寧なナデ	微細な灰白色粒・褐色粒を含み、微細な透明光沢粒 を少量含む。	II E	
380	早期	深鉢	胴部	18 SC244	縄文	ナデ	微細な浅黄色粒・褐色粒・黒色光沢粒・透明光沢粒 を多量に含む。	ΙΙΕ	
381	早期	深鉢	口縁部	A1 一括	ナデ、微隆起突帯文	横ナデ	1mm 以下の浅黄橙色粒・褐灰色粒を多量に含み、 1mm 以下の金色の雲母を含む。		
382	早期	深鉢	口縁部	M6	口唇部〜口縁端部ナデ、口 縁端部無文帯、口縁部以下 格子目押型文	ナデ(光沢あり)	2mm以下の橙色粒・灰白色粒・透明光沢粒を含む。	Ⅱ F(ア)	383・384 と同一
383	早期	深鉢	胴部	M6 SI126+L6	格子目押型文	ナデ(光沢あり)	2mm 以下の橙色粒・透明光沢粒を多量に含み、 1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	ΠF	382・384 と同一
384	早期	深鉢	底部	M6 SI123	胴部格子目押型文、底面ナ デ	ナデ(光沢あり)	2mm 以下の橙色粒・透明光沢粒、1mm 以下の黒色 光沢粒を少量含む。	ΠF	平底 382・383 と同一
385	早期	深鉢	口縁部	J6	格子目押型文	口縁部格子目押型 文、胴部以下ナデ	2mm以下の黒色光沢粒、浅黄橙色粒を多量に含み、 2mm以下の灰褐色粒・透明光沢粒を含む。	II F(ウ)	386 と同一 推定口径 32.4cm
386	早期	深鉢	胴部	K6+L7	格子目押型文	ナデ	2mm 以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を多量に含み、 2mm 以下の浅黄橙色粒、3mm 以下のにぶい赤褐色 粒を少量含む。	ΠF	385 と同一
387	早期	深鉢	胴部	L4	格子目押型文	ナデ	微細な灰白色粒・黒色光沢粒を多量に含み、微細な 黒褐色粒を少量含む。	ΙΙF	
388	早期	深鉢	胴部	L5	菱形押型文	ナデ	2mm 以下の浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を多量に含み、 微細な黒色光沢粒を少量含む。	ΠF	
389	早期	深鉢	胴部	16	菱形押型文	ナデ(指頭痕)	2mm 以下の灰白色粒・褐色粒を多量に含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	II F	
390	早期	深鉢	胴部	K6	菱形押型文	ナデ(指頭痕)	2mm 以下の灰白色粒・浅黄色粒・褐色粒を多量に含み、2mm 以下の透明光沢粒を少量含む。	ΠF	
391	早期	深鉢	胴部	K5 [撹乱]	菱形押型文	ナデ	2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を多量に含み、 3mm以下の灰白色粒・浅黄色粒・橙色粒・黒色粒を	Ⅱ F	
392	早期	深鉢	胴部	H19	枝回転文	ナデ	含む。 2mm以下の浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を含む。	ΠF	393 と同一
393	早期	深鉢	胴部	H19	枝回転文	ナデ	3mm以下の浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を含む。	ΠF	392 と同一
394	早期	深鉢	口縁部	J8	口唇部~口縁端部ナデ、口 縁端部無文帯、口縁部以下 縦位の押型文	ナデ	1mm以下の暗灰黄色粒を多量に含み、1mm以下の 浅黄橙色粒を少量含む。	ΠF	
395	早期	深鉢	口縁部	M5 [SA30]	口唇部~口縁端部ナデ、口 縁端部無文帯、口縁部以下	口縁部原体条痕、 胴部以下横ナデ	2mm以下の浅黄橙色粒・褐灰色粒を含み、1mm以下の黒色光沢粒を少量含む。	ΠF	
396	早期	深鉢	口縁部	L4[撹乱]	<u>条痕か</u> 横ナデ、斜め方向の二条の 沈線	剥落で不明 (ナデか)	5mm以下の浅黄橙色粒、3mm以下の灰白色粒・にぶい赤褐色粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む。	Ⅲ(ア)	風化激しい
397	早期	深鉢	口縁部	D23 [P105]	<u> </u>	ナデ	3mm 以下の浅黄橙色粒、2mm 以下の黒色光沢粒、1mm 以下の透明光沢粒を含む。	Ⅲ(ア)	
398	早期	深鉢	口縁部	D30	ナデ	ナデ(指頭痕)	1 mm以下の灰白色粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	Ⅲ(ア)	
399	早期	深鉢	口縁~	ウ 32	ナデ	ナデ	微細な黒色光沢粒を多量に含み、1mm以下の灰白色 粒を少量含む。	Ⅲ(ア)	401 と同一か
400	早期	深鉢	胴部 口縁部	A3 一括	ナデ	ナデ	5mm以下の黄橙色粒・灰褐色粒、2mm以下の黒色 光沢粒を少量含む。	Ⅲ(ア)	植物繊維痕多いスス付着
401	早期	深鉢	口縁部	ウ 32	ナデ	ナデ	微細な黒色光沢粒を多量に含み、1mm以下の灰白色 粒を少量含む。	Ⅲ(ア)	399 と同一か
402	早期	深鉢	口縁~胴部	L4+L5	ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・浅黄色粒・褐色粒を多量に含み、2mm以下の黒色光沢粒を少量含む。	Ⅲ(ア)	推定口径 18.2cm
403	早期	深鉢	口縁部	L5	ナデ	ナデ	2mm以下の明褐灰色粒・明赤褐色粒・淡黄色粒、 1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む。	Ⅲ(ア)	内面剥落激しい
404	早期	深鉢	口縁~	K6 [撹乱] +L6+M4	ナデ	貝殻条痕	1mm以下の浅黄橙色粒・褐灰色粒・黒色光沢粒、微細な透明光沢粒を含む。	Ⅲ(ア)	
			에게 디)	TLUTIVI4					

掲載	n+++n	0044	÷= / !	uli List. E	調整、文	様	0/. 1	/ \ 21/-	/ ++ - -
番号	時期	器種	部位	出土地点	外面	内面	胎土	分類	備考
405	早期	鉢	口縁部	M5	ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・明赤褐色粒・黒褐色粒を含む。	Ⅲ(ア)	推定口径 11.4cm
406	早期	深鉢	口縁部	才 46	ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒を多量に含み、1mm 以下の黒 色光沢粒を少量含む。	Ⅲ(ア)	407 と同一
407	早期	深鉢	胴部	才 46	ナデ	ナデ	4mm 以下の灰白色粒・灰褐色粒を多量に含み、 1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	Ⅲ(ア)	406 と同一
408	早期	深鉢	口縁~ 胴部	H20	ナデ(指頭痕)	ナデ(指頭痕)	3mm以下の淡黄色粒・灰白色粒を多量に含み、 3mm以下の褐色粒・黒色粒を含み、微細な黒色光沢 粒を少量含む。	Ⅲ(ア)	409 と同一 推定口径 21.1cm
409	早期	深鉢	底部付 近	H20	ナデ	ナデ	2mm 以下の褐色粒・淡黄色粒を多量に含み、微細な 黒色光沢粒を含む。	Ⅲ(ア)	408 と同一
410	早期	深鉢	口縁部	G15	ナデ	ナデ	2mm 以下の灰褐色粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を多量に含む。	Ⅲ(ア)	411 と同一
411	早期	深鉢	胴部	G15	ナデ	ナデ(指頭痕)	2mm 以下の黒色光沢粒、1mm 以下の黄橙色粒・灰褐色粒を多量に含む。	Ⅲ(ア)	410 と同一
412	早期	深鉢	口縁部	K5 [SC9]	ナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒・浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を 多量に含み、2mm 以下の黒色光沢粒を含む。	Ⅲ(イ)	外面の剥落激しい
413	早期	深鉢	口縁部	ア 33	ナデ	ナデ	3mm 以下のにぶい黄橙、1mm 黒色光沢粒を多量に 含み、1mm 以下の褐灰色粒・透明光沢粒を含む。	Ⅲ(ウ)	推定口径 14.9cm
414	早期	深鉢	口縁部	J 8	ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・黒色光沢粒を多量に含み、 1mm 以下の透明光沢粒・灰黄褐色粒を少量含む。	Ⅲ(ウ)	
415	早期	深鉢	口縁部	J9 [SH204]	ナデ(指頭痕)	ナデ(指頭痕)	3mm 以下の灰褐色粒・黄橙色粒を多量に含み、 2mm 以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	Ⅲ(ウ)	
416	早期	深鉢	胴部	F25 SI11	ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・黒褐色粒・赤褐色粒、1mm 以下の黒色粒・透明光沢粒を含む。	Ш	植物繊維痕多い
417	早期	深鉢	胴部	H19 SI31	ナデ	ナデ	1mm 以下の褐灰色粒・浅黄橙色粒を多量に含む。	Ш	内面剥離激しい
418	早期	深鉢	胴部	L5	ナデ(指頭痕)	ナデ(指頭痕)	2mm 以下の灰白色粒を多量に含み、1mm 以下の褐灰色粒・にぶい黄橙色粒・黒色光沢粒を少量含む。	Ш	419 と同一
419	早期	深鉢	胴部	M5	ナデ(指頭痕)	ナデ(指頭痕)	3mm以下の浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を多量に含む。	Ш	418 と同一
420	早期	深鉢	胴部	L4+L5	ナデ	ナデ(指頭痕)	1mm 以下の浅黄橙色粒・褐灰色粒・黒色光沢粒、微細な透明光沢粒を含む。	Ш	421 と同一
421	早期	深鉢	胴部	K5+L4	ナデ	ナデ(指頭痕)	1mm 以下の浅黄橙色粒・褐灰色粒・黒色光沢粒、微細な透明光沢粒を含む。	Ш	420 と同一
422	早期	深鉢	胴部	L5 [SA7]	ナデ	風化のため調整 不明	3mm 以下の浅黄橙色粒、2mm 以下の透明光沢粒を 多量に含み、2mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	Ш	内面剥落激しい
423	早期	深鉢	胴部	L5 [SA7]	ナデ	ナデ	2mm 以下の黄橙色粒・褐色粒・透明光沢粒を含む。	Ш	植物繊維痕多い
424	早期	深鉢	胴部	L5	ナデ	ナデ	3mm 以下の浅黄橙色粒・灰褐色粒、2mm 以下の透明光沢粒を多量に含み、2mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	Ш	内面の剥離激しい
425	早期	深鉢	胴部	L7	ナデ	ナデ	5mm以下の浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を多量に含む。	Ш	
426	早期	深鉢	胴部	H19	ナデ	ナデ	2mm 以下の黒色光沢粒、1mm 以下の浅黄橙色粒・ 褐灰色粒を含む。	Ш	
427	早期	深鉢	底部	M4	ナデ	ナデ	1mm以下の褐灰色粒・淡橙色粒を多量に含み、微細 な透明光沢粒を少量含む。	Ш	尖底
428	早期	深鉢	底部	K6	ナデ	ナデ	3mm以下の灰白色粒・褐色粒・浅黄橙色粒を含む。	Ш	尖底
429	早期	深鉢	底部	G22 SI12	ナデ	ナデ	1mm以下の浅黄橙色粒・褐灰色粒、微細な透明光沢 粒を多量に含み、微細な黒色光沢粒を少量含む。	Ш	丸底
430	早期	深鉢	口縁部	イ 37	肥厚帯、刻目(工具 U)、 ナデ	ナデ	2mm 以下の浅黄橙色粒・にぶい褐色粒を含む。		
431	早期	深鉢	口縁部	M6	口唇部刻目(工具 V)、口 縁部ナデのち沈線文(工具	横ナデ	2mm以下の黒色光沢粒・白色粒・赤茶色粒・グレー粒・ 黒色粒を多量に含み、3mm以下の砂礫を少量含む。		
432	早期	深鉢	口縁部	I9 [撹乱]	V) 櫛状の工具による条痕	口縁端部条痕、	1mm 以下の灰白色粒・黄橙色粒を多量に含み、 1mm 以下の透明光沢粒・金色の雲母を少量含む。		施文様は撚糸文の可能性もある。
433	早期	深鉢	付近 胴〜底 部	M5 [SA3]	ナデ	<u>口縁部以下ナデ</u> ナデ	3mm以下の浅黄橙色粒・明赤褐色粒・にぶい赤褐色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む。		推定底径 7.0cm
434	早期	深鉢	胴部	L8 [撹乱]	貝殼刺突文	ナデ	1mm以下の褐灰色粒を多量に含む。	I C	土器片加工円盤
435	早期	深鉢	胴部	A1 一括	網目状撚糸文	ナデ	1mm 以下の灰白色粒・褐灰色粒を多量に含む。	II D	土器片加工円盤
436	早期	深鉢	胴部	J7	格子目押型文	ナデ	1mm 以下の浅黄色粒・褐灰色粒を多量に含み、 1mm 以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	ΠF	土器片加工円盤 385・386・437 と同一か
437	早期	深鉢	口縁部 付近	L6 [SA6]	格子目押型文	格子目押型文	1mm 以下の灰白色粒・褐灰色粒を多量に含み、 1mm 以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	ΠF	土器片加工円盤 385・386・436 と同一か

第13表 縄文時代前期~後期土器観察表

掲載 2	時期	器種	部位		土 -	調整、		- 胎土	分類	備考
計写					点	外面	内面		73 /5	בי נחוו
597	前期	深鉢		F22 [S1		刻目突帯(工具 V)、 貝殻条痕	貝殻条痕	3mm以下の灰褐色粒・黄橙色粒・黒色粒を多量に含み、 1mm以下の黒色光沢粒を少量含む。		
598	前期	深鉢	口縁部	M7[撹i		口唇部刻目、 口縁部以下刺突文、ナラ	 ナデ デ	1mm以下の滑石を多量に含み、1mm以下の黒色粒を含む。		
599	前期	深鉢	口縁部	M5		口唇部刻目、	ナデ	3mm以下の滑石を多量に含み、微細な黒褐色粒を少量含む。		
600	前期	深鉢	口縁部	M5 [撹i	乱]	口縁部以下刺突文、ナラ 口唇部刻目、 口縁部以下刺突文、沈約 立	ナデ	5mm以下の滑石を多量に含み、微細な黒褐色粒を含む。		
601	前期	深鉢		L6 [撹話		文 口唇部刻目、口縁部以 ^一 刺突文、沈線文、ナデ		2mm 以下の灰褐色粒、3mm 以下の滑石を少量含む。		
602	前期	深鉢	口縁部	M5 [SA		口唇部刻目、 口縁部以下沈線文、ナラ	短沈線文、 デーナデ	3mm 以下の滑石を多量に含み、2mm 以下の黒色粒・ 灰褐色粒を含む。		
603	前期	深鉢	口縁部	M5		短沈線文、ナデ	短沈線文、 ナデ	2mm 以下の黄橙色粒・灰褐色粒を多量に含み、2mm 以下の黒色光沢粒・滑石を少量含む。		
604	前期	深鉢	口縁部	M4		口唇部刻目、	短沈線文、	微細な透明光沢粒を多量に含み、1mm 灰白色粒・滑石 を少量含む。		
605	前期	深鉢	胴部	M4		口縁部以下沈線文、ナラ 沈線文、ナデ	<u>デーナデー</u> ナデ	1mm以下の灰白色粒・浅黄色粒・褐色粒を多量に含み、 2mm以下の滑石を含む。		補修孔
606	前期	深鉢	胴部	M5 [撹i	乱]	沈線文、ナデ	ナデ	2mm 以下の滑石を多量に含み、1mm 以下の灰白色粒・		
607	前期	深鉢	胴部	K4 [撹話	£]	 沈線文、ナデ	ナデ	微細な透明光沢粒を少量含む。 2mm以下の浅黄色粒・褐色粒を多量に含み、1mm以		
608	前期	深鉢	胴部	M6 [SA	116]	沈線文、ナデ	ナデ	下の黒色粒・透明光沢粒・滑石を少量含む。 1mm以下の灰白色粒・浅黄色粒・褐色粒を多量に含み、		
					_			1mm以下の黒色光沢粒を少量含む。 3mm以下の滑石を多量に含み、2mm以下の赤褐色粒・		内面剥落著しい
609	前期	深鉢	胴部	K5 [SA2		沈線文、ナデ	ナデ?	灰白色粒を含む。		内国利洛省しい
610	前期	深鉢	胴部	K5		短沈線文、ナデ	ナデ	1mm以下の浅黄橙色粒・黒褐色粒を含み、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		
611	前期	深鉢	胴部	M5 [SA	.3]	沈線文、ナデ	ナデ	3mm 以下の滑石を多量に含み、2mm 以下の褐灰色粒、 1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。		
612	前期	深鉢	胴部	L7 [SA1	15]	沈線文、ナデ	ナデ	2mm以下の浅黄橙色粒・褐灰色粒・黒褐色粒を多量に含み、1mm以下の黒色光沢粒を少量含む。		
613	前期	深鉢	胴部	K5 [撹話	E]	沈線文、ナデ	ナデ	1mm以下の灰白色粒・浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を多量に含み、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量		
614	前期	深鉢	胴部	M6 [SA	4]	沈線文、ナデ	ナデ	含む。 2mm以下の浅黄橙色粒・黒褐色粒を多量に含み、1mm 以下の黄橙色粒・透明光沢粒を少量含む。		
615	前期	深鉢	胴部	M5 [SA	4/5]	刺突文、貝殻条痕、ナ	デ 貝殻条痕後ナデ	2mm以下の黒色光沢粒、微細な透明光沢粒を多量に含み、3mm灰白色粒・浅黄橙色粒・黒褐色粒を含む。		外面剥落著しい
616	前期	深鉢	胴部	K7 [SA1		刺突文、沈線文、	貝殻条痕後ナデ	1mm 以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を多量に含み、 2mm 以下の灰白色粒・浅黄橙色粒・明赤褐色粒を含む。		
617	前期	深鉢	胴部	L6 [SA6		貝殻条痕後ナデ 刺突文、貝殻条痕後ナラ	デ 貝殻条痕後ナデ	2mm 以下の黒色光沢粒、微細な透明光沢粒を多量に含み、3mm 以下の灰白色粒、2mm 以下の浅黄橙色粒・		
618	前期~ 中期	深鉢	口縁部	M5		貝殻刺突文、貝殻条痕	ナデ	黒褐色粒を含む。 1mm以下の淡黄色粒・褐灰色粒を多量に含み、1mm 以下の透明光沢粒を含む。		スス付着
619	中期	深鉢	胴部	イ 33		隆帯、半截竹管による打	甲ーナデ	3mm以下の黄灰色粒を多量に含み、3mm以下の黄橙色粒を少量含む。		補修孔
620	中期?	深鉢	口縁部	A5 一括		引文、刺突文、縄文 <u></u> 沈線文、ナデ	ナデ	5mm以下の灰黄褐色粒、2mm以下の灰白色粒を含み、 4mm以下の滑石、微細な透明光沢粒を少量含む。		波状及びキャリ/ 口縁の可能性
621	中期~	深鉢	口縁部	H16 [S4		波頂部~口唇部刻目、 口縁部以下短凹線文、『		2mm以下の灰白色粒・淡黄色粒・透明光沢粒を多量に含む。		西線の可能性 622 と同一 波状口縁
622	中期~	深鉢	胴部	H16 [S4	48]	<u>線文、貝殻条痕後ナデ</u> 凹線文、列点文、	貝殻条痕後ナデ	2mm 以下の灰白色粒・黒色粒・褐色粒・透明光沢粒を		621 と同一
623	後期 中期~ 後期	深鉢	口縁部	A5 一括		貝殻条痕後ナデ 口唇部貝殻背面押圧文、 口縁部以下列点文、凹線		多量に含む。 4mm以下の黄橙色粒・灰褐色粒・褐色粒を多量に含む。		波状口縁
624	後期	深鉢	口縁部	M3 [SC		文、ナデ 沈線文、貝殻刺突文、デ	ナーナデ	2mm以下の灰白色粒・浅黄色粒・褐色粒を多量に含む。		波状口縁
	後期		胴部	H16 [S4		デ 沈線文、ナデ	ナデ	4mm以下の浅黄橙色粒を多量に含み、3mm以下の滑		
	後期	深鉢				沈線文、磨消縄文、ナラ		石含む。 2mm以下の明褐色粒・橙色粒を少量含む。		
627		深鉢	口縁部	+M4 [S	C321]	口唇部沈線文、口縁端語 刻目、口縁部以下沈線3	耶 貝殻条痕後ナデ	3mm以下の褐色粒を多量に含み、1mm以下の黒色光 沢粒・透明光沢粒を少量含む。		
628	後期	深鉢	胴部	A2 一括		ナデ 貝殻刺突文、貝殻条痕復	後 ナデ	1mm以下の浅黄橙色粒・褐灰色粒を多量に含む。		風化著しい
629	後期	深鉢	胴部	A3 一括		ナデ 巻貝刺突擬似縄文、ナラ	デ ナデ	6mm以下の灰白色粒、2mm以下の橙色粒を含み、微細な黒色光沢粒を少量含む。		
630	後期	深鉢	口縁部	A1 一括		瘤文(工具刺突)、ナデ	ナデ	1mm以下の浅黄橙色粒・褐灰色粒を含み、1mm以下の透明光沢粒を少量含む。		風化著しい
631	後期	深鉢	口縁部	D28		突帯、穿孔、沈線文、デ	ナーナデ	1mm以下の灰白色粒・黒褐色粒を多量に含み、微細な 黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		波状口縁 風化著しい
632	後期	鉢	口縁部	F22 [S1		デ ミガキ	沈線文、ナデ	2mm以下の灰白色粒・黄灰色粒を多量に含み、2mm以下の明褐色粒・黒褐色粒を少量含む。		波状口縁
633	後期	鉢	口縁部	H19		ミガキ	ミガキ、口縁部	1mm以下の灰白色粒・黄橙色粒・黒褐色粒を多量に含む。		波状口縁の可能性
634	後期	鉢	口縁部	ア 31		沈線文、丁寧なナデ	<u>以下ナデ</u> 沈線文、丁寧な ナデ	2mm以下の灰白色粒・褐灰色粒・赤褐色粒を多量に含む。		波状口縁
635	後期	鉢	口縁部	J8[撹舌	L]	ミガキ	ミガキ	1mm以下の褐灰色粒・黒色光沢粒を多量に含み、1mm以下の灰白色粒・浅黄橙色粒を少量含む。		
	後期	鉢	胴部	F20 [S2	24]	沈線文、刻目(工具)、	ナデ	微細な透明光沢粒を多量に含み、1mm以下の明赤褐色 粒・灰白色粒を少量含む。		

第 14 表 縄文時代晚期土器観察表

713 .	1 11	11467	~-01·		07/12				
掲載 番号	時期	器種	部位	出土 地点	調整、文 外面	·様 内面	- 胎土	分類	備考
637	晩期	浅鉢	口縁~胴部	M5 SC318	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	微細な淡黄色粒・褐色粒・茶褐色粒を少量含む。	I ①	口径 33.8cm、 内面黒斑、外面黒変
638	晩期	深鉢		M5 SC318	ナデ、弧状沈線文	ヘラ状工具 ナデ	4mm 以下の明赤褐色粒、3mm 以下の灰色粒を含む。	IV®	639・640 と同一か 外面スス付着
639	晩期	深鉢	口縁部	M5 SC318	ナデ、弧状沈線文	ヘラ状工具 ナデ	3mm 以下の明赤褐色粒・灰色粒、2mm 以下の灰白色 粒を含む。	IV(5)	638・640 と同一か
640	晩期	深鉢	胴部	M5 SC318+M5	ナデ	ナデ	2mm 以下の明褐色粒・乳白色粒、1mm 以下の灰色粒・ 黄褐色粒、3mm 程の小石粒を含む。	IV(5)	638・639 と同一か
641	晩期	深鉢	口縁~ 胴部	M5 SC318	無刻目突帯、ナデ	ナデ	3mm以下の黒褐色粒を多量に含み、3mm以下の橙色粒・淡黄色粒を少量含む。	IV 2A ③	642 と同一 補修孔
642	晩期	深鉢	胴部	M5 SC318	粗いナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒・浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を多量に含み、微細な黒色光沢粒を少量含む。	IV 2A ③	641 と同一
643	晩期	深鉢	口縁部	M5 SC318 +L4 [SH89]	無刻目突帯、ナデ	ナデ	2mm 以下の橙色粒・黄橙色粒を多量に含み、3mm 以 下の淡黄色粒を少量含む。	IV 2B ④	644 と同一か
644	晩期	深鉢	胴部	M5 SC318	ナデ	条痕のちナデ	2mm 以下の浅黄橙色粒・黄橙色粒を多量に含む。	IV 2B ④	643 と同一か 外面スス付着
645	晩期	深鉢	口縁部	M5 SC318	無刻目突帯、ナデ	口縁部ナデ、 胴部以下縦方向 条痕のちナデ	2mm 以下の褐灰色粒、1mm 以下の淡黄橙色粒を多量に含み、1mm 以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	IV 2A ④	口径 20.7cm、 外面スス付着
646	晩期	深鉢	口縁部	M5 SC318	無刻目突帯、ナデ	ナデ	2 mm以下の乳白色粒・灰色粒・茶色粒を多量に含む。	IV 2B ①	
647	晩期	深鉢	口縁部	M5 SC318	無刻目突帯、ナデ	ナデ	1.5mm 以下の黄灰色粒を多量に含み、3mm 以下の灰白 色粒を含む。	IV 2B ①	648 と同一か 内面一部黒斑
648	晩期	深鉢	底部	M5 SC318	ナデ	条痕のちナデ、 ナデ	3mm 以下の赤褐色粒・裾灰色粒・灰白色粒を多量に含み、 黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	IV 2B ①	647 と同一か 底径 7.6cm
649	晩期	深鉢	口縁部	M5 SC318	無刻目突帯、ナデ	ナデ	2mm 以下の褐灰色粒を多量に含む。		650 と同一
650	晩期	深鉢	胴部	M5 SC318	ナデ	条痕のちナデ	2mm 以下の褐灰色粒を多量に含む。		649と同一
651	晩期	鉢	口縁~ 胴部	M5 SC318	ナデ、網代圧痕	丁寧なミガキ ナデ	4mm 以下の黄橙色粒、3mm 以下の黄褐色粒、2mm 以 下の灰白粒を含む。	Ⅲ ③	652・653 と同一か
652	晩期	鉢	胴部	M5 SC318	粗いナデ、一部網代圧痕	丁寧なナデ	2mm 以下の灰褐色粒・褐灰色粒を多量に含む。	111(3)	651・653 と同一か 内面黒斑
653	晩期	鉢	胴部	M5 SC318	粗いナデ	丁寧なナデ	5mm 以下の黒褐色粒、2mm 以下の灰褐色粒、にぶい 赤褐色粒を多量に含む。	II (3)	651・652 と同一か 内面スス付着
661	晩期	深鉢	口縁部	E24 S203	無刻目突帯・ナデ	ナデ	3mm 以下の褐色粒、1mm 以下の灰白色粒・褐色粒・ 明褐色粒を含む。	IV 2B ①	
662	晩期	深鉢	口縁部	E24 S203	無刻目突帯・ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・褐色粒・暗褐色粒を多量に含む。	IV 2B ①	
663	晩期	深鉢	口縁部	E24 S203	無刻目突帯・ナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒・灰褐色粒を多量に含む。	IV 2B ④	
664	晩期	鉢	口~胴部	E24 S203	ナデ	ミガキ?	1mm 以下の浅黄橙色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢 粒を含む。	II(2)	外面スス付着、 内面黒斑
665	晩期	深鉢		C19 S226	無刻目突帯、ナデ、貝殻 条痕のちナデ	条痕のちナデ	3mm 以下の灰色粒・褐色粒を含む。	IV 2B ④	
666	晩期	深鉢	口縁部	C19 S226	無刻目突帯、ナデ、粗いナデ	ナデ	2mm 以下の褐色粒・茶色粒を多量に含み、1mm 以下 の白色粒を少量含む。	IV 2B ①	
667	晩期	深鉢	口縁部	C19 S226	無刻目突帯、ナデ、条痕 のちナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒・褐色粒・茶色粒を多量に含む。	IV 2A 10	
668	晩期	鉢	胴部	C19 S226	口縁〜胴部上半は粗いナ デ、下半は網代圧痕	丁寧なミガキ	1mm 以下の浅黄橙色粒を多量に含み、3mm 以下の褐 灰色粒を含む。	113	口径 29.8cm、 口縁部外面スス付着、 内面黒斑
669	晩期	鉢	口縁部	C19 S226	粗いミガキ	丁寧なミガキ	5mm以下の橙色の小礫、3mm以下の灰褐色粒・にぶい褐色粒・浅黄橙色粒を含み、微細な黒色光沢粒を少量		口縁部やや不整形、 外面スス付着・剥落
690	晩期	深鉢	口縁~ 胴部	E22 S222	無刻目突帯、ナデ	ナデ	含む。 1mm以下の橙色粒を多量に含み、3mm以下の黄橙色粒・ 褐灰色粒、2mm以下の黒色光沢粒を少量含む。	IV 2A ②	口径 32.2cm、 内面黒斑、外面スス 付着・一部里変
691	晩期	鉢	口縁~ 胴部	H21 SI18	ナデ	ナデ のちミガキ	1mm 以下の褐灰色粒を多量に含み、3mm 以下の褐灰 色粒を少量含む。	IV 1B ③	<u>付着・一部黒変</u> 口径 29.1cm
692	晩期	深鉢	口縁部	H21 SI18	粗いナデ	ナデ	5mm 以下の浅黄橙色粒・灰白色粒を多量に含む。	IV 1A ⑨	内面・外面スス付着
693	晩期	鉢	口縁~ 胴部	H21 SI18	無刻目突帯、粗いナデ	条痕のちナデ	2mm 以下の黄褐色粒・灰白色粒を少量含む。	IV 2A 10	内面黒斑
694	晩期	深鉢		H21 SI18	無刻目突帯、ナデ	丁寧なナデ	2mm 以下の乳白色粒、1.5mm 以下の灰色粒・黄褐色粒を含む。	IV 2B ④	内面スス付着
695	晩期	浅鉢	口縁~ 胴部	B20 S2501	丁寧なミガキ	ミガキ	微細な透明光沢粒を多量に含み、1mm以下のにぶい黄 褐色粒・灰白色粒・暗赤褐色粒を少量含む。	I (5)	内面黒斑
696	晩期	浅鉢		B20 S2501	丁寧なミガキ、沈線	丁寧なミガキ、 沈線	2mm 以下の灰白色粒を少量含む。		口径 32.0cm、 外面黒変
697	晩期	浅鉢	口縁~ 胴部	B20 S2501	ミガキ	ール版 ナデのち ミガキ	微細な透明光沢粒を含み、微細な灰白色粒を少量含む。	I ①	内面・外面朱色
698	晩期	浅鉢	胴部	B20 [S2502] + B20 [S2001] + B20	ミガキ	ナデのち ミガキ	3mm 以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒を少量含む。		699 と同一か 胴部径 16.6cm、 外面黒色
699	晩期	浅鉢	胴部	B20 S2501	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	4mm 以下の灰白色粒・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を 少量含む。		698 と同一か 外面黒色
700	晩期	深鉢	口縁~ 胴部	B20 S2501	無刻目突帯・粗いナデ	条痕のちナデ	3mm 以下の黒褐色粒・暗赤褐色粒を多量に含む。	IV 2A ④	701 と同一、 口径 30.6cm
701	晩期	深鉢	底部	B20 S2501	粗いナデ	条痕のちナデ	3mm 以下の黒褐色粒を多量に含み、3mm 以下の灰白 色粒、5mm 以下の灰色粒を含む。	IV 2A ④	700 と同一、 底径 8.0cm
702	晩期	浅鉢	口縁部	H15 [S50]	沈線文、ミガキ	沈線文、 ミガキ	微細なにぶい黄橙色粒・褐灰色粒を含み、微細な透明光 沢粒を少量含む。	I ①	
703	晩期	浅鉢	口縁部	H17	沈線文、ミガキ	 沈線文、 ミガキ	微細な褐色粒を少量含む。	I ①	
704	晩期	浅鉢	口縁部	G19	沈線文、ミガキ	 沈線文、 ミガキ	微細な褐色粒・黒色粒を少量含む。	Ι①	
705	晩期	浅鉢	口縁部	J10 [SA33/34]	ミガキ	- ミガヤ 浅い沈線、 ミガキ	1mm 以下の灰白色粒を少量含む。	I ①	補修孔
706	晩期	浅鉢	口縁部	A4[溝内一括]	沈線文、ミガキ	ミガキ 沈線文、 ミガキ	微細な黒褐色粒・浅黄橙色粒を多量に含み、1mm以下の黒色光沢粒・にぶい黄橙色粒を少量含む。	I ①	穿孔あり

掲載	時期	器種	部位	出土	調整、文	様	- 胎土	分類	備考
番号				地点	外面	内面	2mm 以下の褐色粒・黒色粒を多量に含む。	刀积	I/Hi [*] 5
707		浅鉢		C18 [S24]	ミガキ	ミガキ		I ①	
708	晩期	浅鉢	口縁部		ナデ、沈線文、ミガキ	ミガキ	5mm 程の砂粒、1mm 以下の白色粒を少量含む。	I ①	外面黒変、内面黒斑
709	晩期	浅鉢	口縁部	J8 [SC51]	沈線文、ミガキ	沈線状にくび れ、ミガキ	1mm 以下の灰白色粒・褐色粒を少量含む。	I 1	外面摩滅激しい
710	晩期	浅鉢	口縁部	J9[撹乱]	沈線文、ミガキ	沈線状にくび れ、ミガキ	2mm 以下の灰白色粒・褐色粒を含む。	I ①	内面剥落激しい
711	晩期	浅鉢	口縁部	ウ33 [9Tr・S11]	浅い沈線、ミガキ	浅い沈線、ミガ	微細な浅黄色粒・褐色粒を多量に含む。	I ①	
712	晩期	浅鉢	口縁部	J10 [SA34]	沈線状にくびれ、粗いミ ガキ	沈線状にくび れ、ミガキ	微細なにぶい褐色粒・褐灰色粒を含む。	I ①	
713	晩期	浅鉢	口縁部	G18	沈線文、ミガキ	沈線文、	1mm 以下の灰白色粒・褐灰色粒を少量含む。	I ①	
714	晩期	浅鉢	口縁部	ウ 29	沈線文、ミガキ	ミガキ 沈線状にくび	2mm 以下の褐色粒を少量含む。	I (1)	ヒレ状突起
715	晩期	鉢	口縁部	G20	ミガキ	れ、ミガキ ミガキ	1mm 以下の暗褐色粒を多量に含み、微細な灰白色粒を	I ①	
716	晩期	浅鉢	口縁部	J8	ミガキ	ミガキ	少量含む。 微細な褐色粒を少量含む。	I(I)	
717	晩期	浅鉢	口縁部	K10 [SA114]	 ミガキ	ミガキ	1mm 以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒を少量含む。		ヒレ状突起
718	晩期	浅鉢	□緑~	F18+F20 [S23]	ミガキ	沈線文、	微細な淡黄色粒・透明光沢粒を含む。	I ①	口径 23.2cm
719	晩期	浅鉢	胴部	A5 一括	ミガキ	ミガキ	2mm 以下の樽色粒、1mm 以下の灰白色粒を少量含む。	I ②	
			胴部			ミガキ		I ②	
720	晩期	浅鉢	口縁部		ミガキ	沈線文、 ミガキ	1mm 以下の黒褐色粒を多量に含み、1mm 以下の橙色 粒を少量含む。	I ②	
721	晩期	浅鉢	口縁部	E20 [S26]	ミガキ	沈線文、 ミガキ	1mm 以下の灰白色粒・褐色粒を多量に含む。	I ②	
722	晩期	浅鉢	口縁~ 胴部	H20 [S19]	ミガキ	ミガキ	微細な褐灰色粒・にぶい黄橙色粒・透明光沢粒を多量に 含む。	I ②	口径 16.2cm、 穿孔あり
723	晩期	浅鉢		J10 [SA33+SA34] + K10 [SA32]]ミガキ	ミガキ	微細な灰白色粒を含む。	I ②	
724	晩期	浅鉢		J12 [SA64]	ミガキ	ミガキ	2mm 以下の褐灰色粒・明赤褐色粒を含み、1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	I ②	ヒレ状突起
725	晩期	浅鉢	口縁~	E21	ミガキ	ミガキ	1mm 以下のにぶい黄橙色粒・黒褐色粒・透明光沢粒を	I (2)	表面風化
726	晩期	浅鉢	胴部 口縁部	G18 [S60]	ミガキ	ミガキ	含む。 微細な褐色粒を含む。		
727	晩期	浅鉢	□縁部	G18 [S60]	 ミガキ	ミガキ	1mm 以下の黒褐色粒を多量に含み、1mm 以下の灰白	I ②	ヒレ状突起
728	晩期	浅鉢		C25 [S15]	ミガキ	ミガキ	色粒を少量含む。 微細な浅黄色粒を含む。	I ②	内面剥落激しい
			胴部					I ②	
729	晩期	浅鉢	口縁部		沈線文、ミガキ	沈線文、 ミガキ	微細な褐灰色粒・にぶい黄橙色粒、1mm以下の透明光 沢粒を少量含む。	I ③	口径 23.2cm
730	晩期	浅鉢	口縁部	F20 [S12]	ミガキ	沈線文、 ミガキ	微細な淡黄色粒・黒色光沢粒を少量含む。	I ③	口径 12.9cm
731	晩期	浅鉢	口縁部	J9 [SC33] +K8 [SA30]	ミガキ	沈線文、 ミガキ	2mm 以下の灰白色粒、微細な淡黄色粒・黒色光沢粒を 少量含む。	I ③	口径 30.6cm
732	晩期	浅鉢	口縁部	D18 [S396]	ミガキ	浅い沈線、 ミガキ	2mm 以下の暗灰黄色粒・透明光沢粒を含む。	I ③	
733	晩期	浅鉢	口縁部	D29 [S12]	ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・褐色粒を含む。	I ③	
734	晩期	浅鉢	口縁部	D20 [S168]	沈線文、ミガキ	沈線文、	1mm以下の暗褐色粒・浅黄橙色粒・白色粒を少量含む。		
735	晩期	浅鉢	口縁部	H21	沈線文、ミガキ	ミガキ 沈線文、	微細な灰白色粒を含む。		
736	晩期	浅鉢	□縁部	I19 [P101]	沈線文、ミガキ	<u>ミガキ</u> 沈線状にくび	微細な明黄褐色粒を含む。		
737	晩期			D20 [S168]	細い沈線文、不明(ナデか)	れ、ミガキ 沈線状のくび	1mm 以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む。		ヒレ状突起、
						れ、ナデか			剥落・風化激しい
738				I16 [S56]	ミガキ	口縁部ミガキ、 屈曲部以下ナデ	1mm 以下の明褐色粒を少量含む。		外面黑変
739	晩期			D26 [S13]	ミガキ	ミガキ	2mm 以下の褐色粒を含む。		ヒレ状突起
740	晩期	浅鉢	口縁部	ア 27 [S2012]	沈線文、ミガキ	口縁端部 ミガキ、以下 条痕のちナデ	1mm以下の白色粒を含み、微細な黒色光沢粒・透明光 沢粒を含む。		ヒレ状突起
741	晩期	浅鉢	口縁部	F23	沈線文、ミガキ	ミガキ	微細な褐色粒を含む。		
742	晩期	浅鉢	口縁部	19 [SA39]	沈線文、ミガキ	ミガキ	微細な褐色粒、透明光沢粒を少量含む。		ヒレ状突起、 剥落激しい
743	晩期	浅鉢	口縁部	I12 [SA90]	ミガキ	ミガキ	2mm 以下の褐色粒を少量含む。		
744	晩期	浅鉢	口縁部	D18	ミガキ	ミガキ	微細な透明光沢粒を含み、2mm以下の灰褐色粒を少量		
745	晩期	浅鉢	口縁部	B24 [S17]	ミガキ	ナデか	含む。 1mm 以下の黒褐色粒を含む。	I (4)	ヒレ状突起、
746	晩期	鉢	口縁部	D18 [S33]	ミガキ	ミガキ	微細な灰白色粒・浅黄色粒を多量に含む。		剥落激しい 内面風化著しい
747	晩期			G21 [S17]	ミガキ	ミガキ	5mm 以下のにぶい黄褐色粒を多量に含み、2mm 以下	I (5)	リボン状突起、
							の黄橙色粒を少量含む。 1mm以下の乳白色粒・茶色粒を含み、微細な透明光沢	I (5)	内外口縁黒変 推定口径 30cm
748	晩期	浅鉢		F16 [S81]	沈線文、ミガキ	ミガキ	粒を少量含む。	I ⑦	JEACHIT JUUII
749				J10 [SA34]	口縁端部と胴部に沈線文、 ミガキ	沈線文、 ミガキ	1mm以下のにぶい黄橙色粒、微細な褐灰色粒を多量に 含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	I ⑦	
750	晩期	浅鉢	口縁部	G21 [S16]	沈線文、ミガキ	ナデ	1mm以下の乳白色粒を含み、微細な透明光沢粒を少量 含む。	I ⑦	

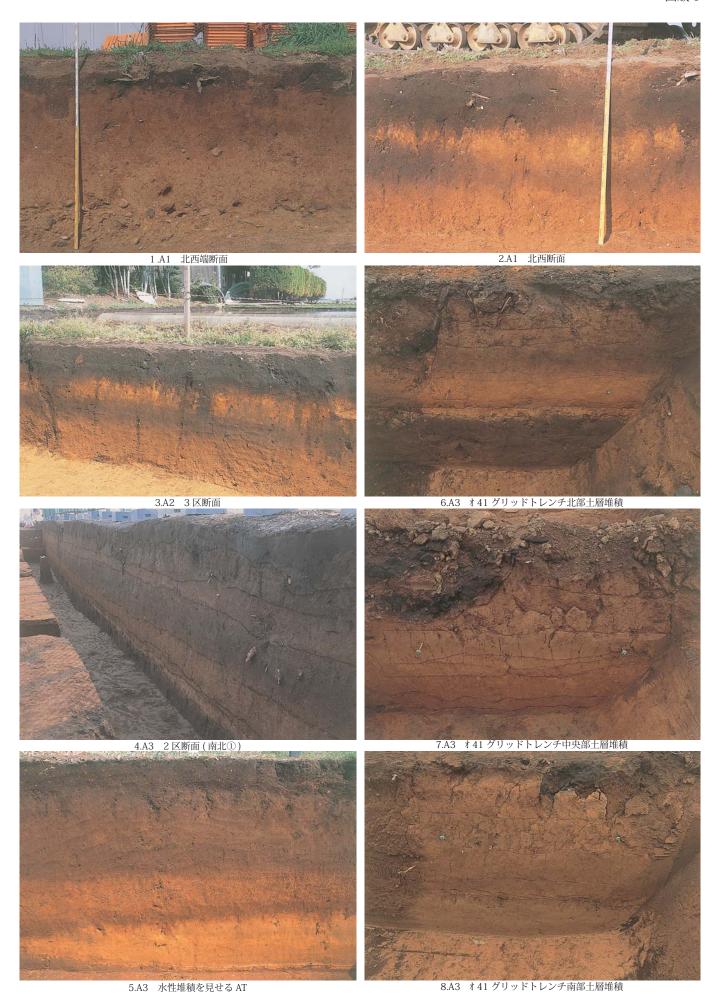
掲載	時期	器種	部位	出土	調整、文	様	- 胎土	分類	備考
番号				地点	外面	内面		刀块	湘石
751	晩期	浅鉢	口縁~ 胴部	G15	口縁端部は沈線状くびれ、 胴部に沈線文、ミガキ	口縁端部 沈線文、 ミガキ	2mm 以下の橙色粒を含み、微細な灰白色粒を含む。	I 🕖	
752	晩期	浅鉢	口縁部	D18 [S33]	ミガキ	ミガキ ミガキ	2mm以下の灰白色粒・浅黄橙色粒・黒褐色粒、微細な透明光沢粒を含む。	I ⑦	
753	晩期	浅鉢	口縁~ 胴部	F19	ミガキ	ナデ	1mm以下の褐灰色粒・灰白色粒を含み、微細な透明光 沢粒を少量含む。	I ⑦	口径 24.0cm 外面スス付着 内面黒変
754	晩期	浅鉢	口縁~ 胴部	F20 [S23]	ナデ、ミガキ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒・褐灰色粒を多量に含む。	I ⑦	風化著しい
755	晩期	浅鉢	口縁部~胴部	H15 [S49]	ミガキ、胴部に 2 本の沈 線	ミガキ	1mm 以下の黒色粒・茶色粒、微細な透明光沢粒を少量 含む。	I (8)	口径 17cm
756	晩期	浅鉢	口縁部	E19 [S80]	口唇部ナデ、ミガキ、口 縁部に1本の沈線	ミガキ、 沈線状の工具痕	2mm 以下の茶色粒、1mm 以下の白色粒を含む。	I (8)	外面沈線内に赤色付 着物有り
757	晩期	浅鉢	口縁部	F17	ミガキ、口縁部に1本の 沈線	口唇部ナデ、 ミガキ	2mm以下の黄橙色粒・橙色粒を含み、微細な白色粒を 少量含む。	I (8)	
758	晩期	浅鉢	胴部	A5 一括	沈線文、ミガキ	ミガキ	微細な褐灰色粒・にぶい黄橙色粒を多量に含む。	I ®	
759	晩期	浅鉢	胴部	K9 [撹乱]	ミガキ	沈線文、 ミガキ	2mm 以下の黄橙色粒を多量に含む。	I (8)	
760	晩期	鉢		F19 [S40]	肥厚口縁帯、ミガキ		2mm 以下の浅黄橙色粒・灰白色粒・褐灰色粒を含み、 微細な透明光沢粒を含む。	I (9)	
761	晩期	鉢		E19 [S80]	ナデ 	ナデ 	3mm以下の褐灰色粒、微細なにぶい黄橙色粒を多量に含む。	I (9)	
762	晩期	鉢	口縁部		粗いナデ	一条沈線文、 丁寧なナデ	6mm以下の黄褐色の小礫を含み、3mm以下の黄灰色粒・浅黄色粒・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む。	I (9)	
763	晩期	鉢	口縁部		粗いナデ	二条沈線文、ミガキ	2mm 以下の灰白色粒・黄橙色粒・褐色粒を多量に含み、5mm 以下の褐灰色粒を含む。	I (9)	外面黒変
764	晩期	浅鉢		E22 [S140]	ミガキ?	ミガキ?	微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含み、3mm以下の灰白色粒・暗赤褐色粒を少量含む。	I (9)	剥落激しい
765	晩期	浅鉢		F22 [S164]	ミガキ	ミガキ	微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含み、1mm以下の灰白色粒・褐色粒を少量含む。	I ⑨	補修孔あり
766	晩期	浅鉢		G18 [S44]	ミガキ	ミガキ	1mm 以下の褐灰色粒・浅黄橙色粒を少量含む。	I (9)	ヒレ状突起
767	晩期	浅鉢		D21 [S141]	ミガキ、沈線状に数条の 工具痕	ナデ、ミガキ	1mm 黒色粒・茶色粒・透明光沢粒粒を少量含む。	I (9)	内外面に赤色付着物付着有り
768	晩期	浅鉢		G20 [S22]	沈線文、ミガキ	ミガキ	微細な灰白色粒・褐色粒を多量に含み、微細な透明光沢粒を含む。	I (9)	外面に赤色付着物有り
769	晩期			A1 [溝内一括]	沈線文、ミガキ	沈線文、 ミガキ	微細な褐灰色粒を多量に含み、微細な浅黄橙色粒・黒色粒・透明光沢粒を少量含む。	I (9)	波状口縁
770	晩期		頸部	K10 [SA32] + K10 [SA41]	突帯文、沈線文、ミガキ	ミガキ	微細な褐色粒を少量含む。	I (9)	内外面に赤色付着物有り
771	晩期	浅鉢		F20 [S12]	沈線文、微隆起突帯、ミガキ	沈線文、	2mm 以下の乳白色粒を少量含む。 2mm 以下の乳白色粒を少量含む。	I 100	ヒレ状突起
772	晩期	浅鉢	胴部	F20 [S23]	ミガキ、微隆起突帯	ミガキ	1mm以下の乳白色粒を多量に含み、1mm以下の灰白	I 100	
773	晩期	浅鉢	頸部	A4 一括 A24 [S2015]	微隆起突帯、ナデ 	ミガキ 	色粒を少量含む。 7~4mm 灰白色粒、1mm 以下の淡黄色粒を多量に含む。	I 100	波状口縁
774		台付鉢		+ A24 [S2015] + A24 [S2016] イ 27	ファ ナデ	来扱の57.7 	5mm以下の灰色粒を多量に含み、1mm以下の茶色粒	I 100	成れ口縁 内面肥厚 透かし穴有り
773	明知	皿の	加州西	1 21	, ,	, ,	を少量含む。	I 100	題がして行う
776	晩期	<u>脚?</u> 脚付 鉢?	胴部~ 脚柱部	B20 [S2009]	胴部ナデ、脚柱部ナデ	工具ナデ、 ナデ	微細な透明光沢粒を多量に含み、1mm以下の黒色粒・ 茶色粒を少量含む。	I 10	
777	晩期	浅鉢	胴部	E21	ミガキ	ミガキ	微細な灰白色粒・褐色粒・黒色光沢粒を少量含む。	I ①	内外面黑変
778	晩期	浅鉢	胴部	H19	ミガキ	ミガキ	1mm以下の浅黄橙色粒を少量含む。	I ①	
779	晩期	浅鉢	胴部	E17 [S38]	ミガキ	ミガキ	微細な白色粒・黒色粒・透明光沢粒を少量含む。	ΙŪ	円形ボタン状突起 内外面黒変
780		浅鉢	胴部	D20 [S210]	ナデ	ナデ	3mm 以下の乳白色粒・灰色粒・茶色粒を多量に含む。	I ①	粗製 内面スス付着
781	晩期	浅鉢	胴部	E20 [S26]	ミガキ	ミガキ	1mm 以下の灰白色粒・淡黄色粒を多量に含み、1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	I ①	
782	晩期	浅鉢	胴部	E15 [S7]	ミガキ	ミガキ	3mm以下の浅黄橙色粒・暗赤褐色粒を含み、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	ΙŪ	
783	晩期	浅鉢	胴部	C23	ミガキ	ナデ	1mm以下の浅黄色粒・黒褐色粒を含み、微細な透明光 沢粒を少量含む。	ΙŪ	リボン状突起
784	晩期	浅鉢	胴部	E21	ミガキ	ナデ	微細な灰白色粒を少量含む。	I 🕦	
785	晩期	浅鉢	胴部	B24 [S17] +C25 [S15]	沈線文、ミガキ	ミガキ	微細な褐色粒・淡黄色粒を含む。	I ①	
786	晩期	浅鉢	胴部	L8	沈線文、ミガキ	ミガキ	1mm以下の淡黄色粒を含み、微細な黒色光沢粒・透明 光沢粒を少量含む。	I ①	
787	晩期	浅鉢	胴部	G15	ミガキ	ミガキ	1mm 以下の褐灰色粒・微細な透明光沢粒を多量に含む。	I 12	
788	晩期	浅鉢	胴部	C18	ミガキ	ミガキ	2mm以下の灰白色粒・黒褐色粒・褐色粒を含み、1mm以下の透明光沢粒を少量含む。	I 12	
789	晩期	浅鉢	胴部	J8 [SA13] +K10 [SA41]	ミガキ	ミガキ	1mm以下の浅黄橙色粒、微細な透明光沢粒を多量に含む。	I 12	마시포 나는 모시는 - '
790	晩期	鉢	胴部	ア 27 [S2012]	丁寧なナデ 	丁寧なナデ 	1mm 以下のにぶい黄橙色粒を多量に含み、微細な黄褐色粒・透明光沢粒を少量含む。	I 12	内外面とも風化気味
791	晩期	浅鉢	底部	H21 SI18	ミガキ	ナデ	2mm 以下の褐色粒・灰白色粒・赤褐色粒、1mm 以下の透明光沢粒を少量含む。	I 🔞	赤化、外面風化気味
792		浅鉢	底部	F20 [S24]	ナデ?	ミガキ	微細な淡黄色粒・灰白色粒・透明光沢粒を少量含む。	I 🔞	底径 9.0cm、 内外面剥落激しい
793	晩期	浅鉢	底部	J8 [SC48]	ミガキ	ミガキ	1mm 以下の浅黄橙色粒を少量含む。	I 🔞	底径 8.4cm

掲載番号	時期	器種	部位	出土地点	調整、文 外面		- 胎土	分類	備考
794	晩期	浅鉢	底部	B24 [S17]	ミガキ	内面 ナデ	1mm 以下の黄灰色粒を少量含む。	I (13)	底径 5.2cm
795	晩期	浅鉢	底部	G19 [S62]	ミガキ	ミガキ	4mm 以下の黒色粒、微細な白色粒を少量含む。	I ®	底径 6.5cm
796	晩期	深鉢	底部	D18 [S33]	ミガキ	ナデ	3mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒を多量に含み、 黒色光沢粒を少量含む。	I ®	底径 5.0cm
797	晩期	浅鉢	底部	A4 一括	沈線文、ミガキ	ナデ	微細な灰白色粒を含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	I ®	底径 8.9cm
798	晩期	浅鉢	底部	119	ミガキ	ミガキ	微細な透明光沢粒を多量に含み、灰色粒・黒色粒・茶色 粒を少量含む。	I (3)	底径 3cm 外面風化
799	晩期	浅鉢	底部	K9 [SC36]	胴部ミガキ、底面ナデ	ナデ	1mm 以下の褐灰色粒・にぶい黄橙色粒・明褐色粒を少量含む。	I (3)	内外面黒変 底径 5.9cm 内面剥落激しい
800	晩期	浅鉢	底部	イ 34	ミガキ	剥落	微細な淡黄色粒・褐色粒を少量含む。	I ®	外面赤色付着物有り
801	晩期	浅鉢	底部	H20 [S19]	ミガキ	ナデ	2mm 以下の乳白色粒・褐灰色粒を少量含む。	I ®	
802	晩期	浅鉢	底部	E17 [S38]	ミガキ	ナデ	2mm 以下の乳白色粒・茶色粒・透明光沢粒を少量含む。	I (3)	
803	晩期	壺	頸部	119	突帯文、ミガキ	ナデ	微細な褐色粒・淡黄色粒・黒色光沢粒を含む。	П	
804	晩期	壺	頸部下 ~肩部	F18 [S42]	突帯文、ミガキ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒・褐色粒を含む。	П	内面風化著しい
805	晩期	壺	胴部	A5 [溝内一括]	ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒・にぶい褐色粒を多量に含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	П	頸部か 内面剥落激しい
806	晩期	壺	肩部	A5 一括	ミガキ	ナデ	2mm 以下の乳白色粒・茶色粒を含み、5mm 程の小石 粒を少量含む。	П	外面黒変
807	晩期	壺	胴部~ 底部	119	胴部ミガキ、底面ナデ	ミガキ	2mm 以下のにぶい黄橙色粒・茶色粒、微細な透明光沢 粒を含む。	П	内面風化著しい
808	晩期	鉢		A1[溝内一括]	孔列文、条痕	条痕	3mm 以下の赤褐色粒・褐灰色粒、1mm 以下の明黄褐 色粒を多量に含む。	111(1)	口径 40.2cm 外面スス付着
809	晩期	鉢		L8 + L8 [SA45]	ナデ、凹線	条痕のちナデ	2mm以下の浅黄橙色粒・灰白色粒を多量に含み、4mm以下のにぶい褐色粒、微細な透明光沢粒を少量含む。	111(2)	口径 30.0cm
810	晩期	鉢	口~胴部	F18 [S41]	肥厚口縁帯、丁寧なナデ	条痕のちナデ	2mm 以下の灰白色粒・浅黄色粒を多量に含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	111(2)	外面スス付着
811	晩期	鉢	胴部	G19 [S61]	条痕のちナデ	デ、以下ヘラ状	2mm 以下の明黄褐色粒・黒色粒を多量に含み、1mm 、以下の灰白色粒を含む。	III②	
812	晩期	鉢	胴部	F20	粗いナデ	<u>工具ナデ</u> 条痕のち一部	2mm 以下の灰白色粒・浅黄色粒を多量に含み、2mm	III(2)	
813	晩期	鉢	口縁部	F20 [S24]	肥厚口縁帯、口唇~口縁	<u>ナデ</u> 条痕	以下の橙色粒を少量含む。 1mm以下の浅黄色粒を少量含む。	II(3)	
814	晩期	浅鉢	口縁部	F20 [S24]	部ナデ、胴部編布圧痕 編布圧痕	ナデ	3mm 以下の乳白色粒を含む。	III ③	
815	晩期	鉢	胴部	H19	編布圧痕	丁寧なミガキ	2mm 以下の灰白色粒・黄橙色粒を多量に含む。	III(3)	内面スス付着
816	晩期	鉢	胴部	I9 [SA40]	網目圧痕	ナデ	2mm 以下の小石粒を含み、微細な黄橙色粒を含む。	III(3)	内面スス付着
817	晩期	鉢	胴部	L9+K9 [SH851]	上部ナデ、下部網代圧痕	丁寧なナデ	5mm 以下の灰白色粒・橙色粒、2mm 以下の褐灰色粒・透明光沢粒を少量含む。	III③	818 と同一 外面スス付着
818	晩期	鉢	胴部	A1 一括	上部ナデ、下部網代圧痕	ナデ	3mm 以下の褐灰色粒・灰黄褐色粒を少量含む。	III(3)	<u>内面黒斑</u> 817と同一 外面黒変
819	晩期	鉢	底部	I9 [SA39] +J9		工具ナデ	1cm以下の小礫を含み、1mm以下の灰色粒・暗褐色粒・		<u>内面黒斑</u> 817・818 と同一か
820	晩期	鉢	底部	118	デ 貝殻条痕のち粗いミガキ	冬痘のちミガセ	乳白色粒を少量含む。 - 3mm以下のにぶい橙色粒・褐灰色粒を多量に含み、	111(3)	底径 10.0cm 内面スス付着 底径 15.7cm
821	晩期	鉢	底部	G18	粗いミガキ	ミガキ	2mm 以下の浅黄橙色粒・明褐灰色粒を少量含む。 1mm 以下の明黄褐色粒を多量に含み、3mm 以下の褐	111(4)	外面スス付着 底径 8.2cm
	晩期	- 鉢		F21	ナデ	ナデ	灰色粒・にぶい黄橙色粒を少量含む。 4mm以下の灰黄褐色粒、2mm以下の褐灰色粒・浅黄	111(4)	外面スス付着
	晩期	鉢	底部	F20 [S23]	太い工具ナデ、貝殻条痕	条痕のちナデ、	橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を少量含む。 5mm以下の黄橙色粒、2mm以下の暗褐色粒・灰褐色	III 4	内面黒斑
824		深鉢	底部	K10 [SA32]	のちナデ ナデ	- 未成の ラック 、 - ナデ	粒を含み、2mm以下の黒色光沢粒を少量含む。 2mm以下の黄褐色粒を多量に含み、1mm以下の灰白	III 4	1 3 100 2111-7-26
	晩期	鉢	底部	+ J10 [SA33] J11+J10 [SA34]	条痕	条痕	色粒を少量含む。 3mm 以下の浅黄橙色粒を含み、2mm 以下の灰白色粒	III 4	底径 18.0cm、
826		鉢	底部	K10 [SA32]	胴部ナデ、底面網代圧痕	ナデ	を少量含む。 3mm 以下の黒色光沢粒、1mm 透明光沢粒を含み、	III 4	外面スス付着 底径 7.4cm、外面風化
827	晩期	鉢	底部	M5	条痕のちナデ	ナデ	1mm以下の浅黄橙色粒を少量含む。 1mm以下の明黄橙色粒・褐灰色粒を多量に含み、微細	III 4	著しい、内面黒斑 外面風か著しい
828		鉢	底部	E17 [S8]	ナデ、条痕	条痕のちナデ	な透明光沢粒・黒色光沢粒を少量含む。 3mm以下の灰白色粒・浅黄橙色粒を多量に含み、2mm	III 4	内面黒斑、外面黒変
829	晩期	深鉢	口縁部	E14 [S5]	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕	以下の灰褐色粒を少量含む。 5mm 以下の赤褐色粒・橙色粒、2mm 以下の灰褐色粒、	II(4)	
830	晩期	深鉢	口縁部	A28	ナデ	<u>のちナデ</u> ナデ	1mm 以下の透明光沢粒を含み、、黒色光沢粒を少量含む。 3mm 以下の橙色粒を多量に含む。	IV 1A 6	
831	晩期	深鉢	口縁部	I9 [SA40]	口唇部ミガキ、口縁部以	ミガキ	4mm 以下のにぶい黄橙色粒、3mm 以下の黒色粒、	IV 1A ®	
832	晩期	深鉢	口縁部	+J10 [SA34] A23	<u>下ナデ</u> ナデ	貝殻条痕	2mm以下の明黄褐色粒を多量に含む。 1mm以下の黒色粒・灰色粒を含み、3mm以下の黒色	IV 1A ®	ヒレ状突起
833	晩期	深鉢	口縁部	J10	口唇部ミガキ、口縁部以	のちナデ ミガキ	光沢粒・灰色光沢粒を多量に含む。 5mm 以下の浅黄色粒・灰白色粒を多量に含む。	IV 1A ®	精製、補修孔
834	晩期	深鉢	口縁部	E18	下ミガキ、ナデ 波頂部は工具による押圧、	貝殻条痕	3mm以下の黄橙色粒・灰白色粒を多量に含み、透明光		波状口縁
025	फ.#¤	.7T¢↓	口细节	D24	口唇部以下貝殻条痕のち ナデ	のちナデ =	沢粒を少量含む。	IV 1A ⑨	内面岩化物社差
835			口縁部		口唇部ナデ、口縁部以下 粗いミガキ 条原のませぎ	ナデ	2mm以下の注意機免粒を多量に含む。	IV 1A (9)	内面炭化物付着
836	晩期	泺彝	山稼部	A1[溝内一括]	条痕のちナデ	条痕のちナデ	2mm 以下の浅黄橙色粒を多量に含み、4mm 程の小石 粒を少量含む。	IV 1B ①	波状口縁

掲載	時期	器種	部位	出土	調整、文	様	- 胎土	分類	備考
台 写				地点	外面	内面		73 /	波状口縁
837	晩期	深鉢		F20 [S24]	条痕のちナデーロ経営以下	条痕のちナデ	6mm以下の小石粒、2mm以下の浅黄橙色粒を含む。	IV 1B ①	//大九八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八
838	晩期	深鉢	口縁部		口唇部ナデ、口縁部以下 貝殻条痕のちナデ	条痕のちナデ	3mm以下の黄橙色粒・橙色粒、2mm以下の黒色光沢粒を多量に含む。	IV 1B ①	
839	晩期	深鉢	口縁部		ロ唇部ナデ、条痕のちナ <u>デ</u>	条痕のちナデ	3mm 以下の灰白色粒・暗赤褐色粒・褐灰色粒、5mm 以下のにぶい赤褐色粒を少量含む。	IV 1B ①	
840	晩期	深鉢	口縁部	G20	口唇部ナデ、口縁部以下 条痕のちナデ	条痕のちナデ	5mm 以下の浅黄橙色粒を多量に含み、微細な透明光沢 粒を少量含む。	IV 1B ②	
841	晩期	深鉢	口縁部	A1 [溝内一括]	条痕	条痕	5mm 以下の灰白色粒・浅黄橙色粒を多量に含む。	IV 1B ②	口径 30.2cm
842	晩期	深鉢	口縁部	H21	口唇部ナデ、口縁部以下 条痕	ミガキ	5mm 以下の褐灰色粒・灰白色粒、1mm 以下の淡黄色 粒を含み、微細な黒色光沢粒を少量含む。	IV 1B ②	
843	晩期	深鉢	口縁部	K8 [SC85]	無刻目突帯、ナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒・褐色粒・黄色粒を多量に含む。	IV 2A ①	
844	晩期	深鉢	口縁~ 胴部	J8 [SC51]	無刻目突帯、粗いナデ	ナデ	3mm以下のにぶい橙色粒、1mm以下の褐灰色粒を多量に含み、1mm以下の赤褐色粒を少量含む。	IV 2A ②	口径 34.9cm 補修孔 外面スス付着
845	晩期	深鉢	口縁~ 胴部		無刻目突帯、粗いナデ	ナデ	1mm 以下の浅黄橙色粒・褐灰色粒を多量に含む・	IV 2A ②	846 と同一 口径 49.5cm 外面スス付着
846	晩期	深鉢	胴部	F22	粗いナデ	ナデ	1mm 以下の浅黄橙色粒・褐灰色粒を多量に含む。	IV 2A ②	845 と同一
847	晩期	深鉢	口縁部	K8 [SA36]	無刻目突帯、条痕のちナ デ	条痕のちナデ	2mm 以下の浅黄色粒・灰白色粒を多量に含み、1mm 以下の黒色粒、微細な透明光沢粒を含む。	IV 2A ②	
848	晩期	深鉢	口縁部	I10 [SC105]	無刻目突帯、ナデ	条痕のちナデ	3mm 以下の白色粒・褐色粒を多量に含み、6mm 程の砂礫、微細な黒色光沢粒を少量含む。	IV 2A ⑤	口径 23.8cm
849	晩期	深鉢	口縁部	C21 [S2002]	口唇部ナデ、無刻目突帯、 貝殻条痕のちナデ、条痕 のちミガキ	条痕のちミガキ	1mm以下の黒色粒・灰白色粒・浅黄色粒を少量含む。	IV 2A ®	口径 20.0cm 外面スス付着
850	晩期	深鉢	口縁部	L9	無刻目突帯、ナデ、条痕 のちナデ	ナデ	5mm 以下の赤橙色粒、3mm 以下の灰白色粒・褐灰色 粒を多量に含み、2mm 以下の透明光沢粒を少量含む。	IV 2A ⑨	内面風化著しい
851	晩期	深鉢		G18 [P116]	無刻目突帯、ナデ	条痕のちナデ	2mm以下の灰白色粒・浅黄橙色粒を多量に含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	IV 2A ⑨	
852	晩期	深鉢	胴部 口縁部	L6 [SA6]	微隆起状の突起、ナデ	ナデ	2mm 以下の黒色光沢粒を多量に含み、1mm 以下の黒色粒・灰白色粒・明黄褐色粒を含む。	IV 2A ⑨	
853	晩期	深鉢	口縁部	J15	無刻目突帯、ナデ	ナデ	3mm以下の灰白色粒・黄橙色粒・黒褐色粒を多量に含み、	IV 2B ①	
854	晩期	深鉢	口縁部	E24	無刻目突帯、ナデ	ナデ	微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。 3mm以下の褐灰色粒、1mm以下の灰白色粒・明黄褐	IV 2B ①	
855	晩期	深鉢	口縁部	M5	無刻目突帯、ナデ	ナデ	色粒を含む。 3mm 以下の浅黄橙色粒を多量に含み、1mm 以下の透	IV 2B ①	外面スス付着
856	晩期	深鉢	口縁部	K10 [SA32/SA41]	無刻目突帯、ナデ、条痕	ナデ	明光沢粒を少量含む。 2mm以下のにぶい黄橙色粒・褐灰色粒を少量含む。		ヒレ状突起
857	晩期	深鉢		F19 [S40]	のちナデ 無刻目突帯、ナデ	ナデ	1mm 以下の明黄褐色粒を多量に含み、1mm 以下の灰	IV 2B ②	
858	晩期	深鉢		J9+I9 [SA40]	口唇部ナデ、無刻目突帯、	ナデ	白色粒・黒褐色粒・透明光沢粒を少量含む。 2mm以下の褐色粒・茶色粒を多量に含む。	IV 2B ②	口縁部スス付着
859	晩期	深鉢		D18 [S14]	粗いナデ肥厚口縁帯、口唇部ナデ、	ナデ	3mm以下の暗褐色粒・灰色粒・乳白色粒を多量に含む。	IV 2B ③	剥落著しい
					口縁部以下条痕		3mm以下の灰白色粒・灰褐色粒を多量に含む。	IV 2B ④	
860	晩期	深鉢		C23+C23 [S170]		ナデ		IV 2B ④	
861	晩期	深鉢		L5 [SH107]	無刻目突帯、ナデ	ナデ	1mm 以下の浅黄色粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を多量に含む。	IV 2B ④	L. L. d Neto+7
862	晩期	深鉢	口縁部		無刻目突帯、ナデ	ナデ	3 mm 以下の黒色粒・褐色粒・灰白色粒を含む。	IV 2B ④	/ 国次1018/13-1
863	晩期	深鉢		18 SC244	無刻目突帯、粗いナデ	ナデ	5mm 以下の褐灰色粒・灰白色粒を多量に含み、7mm 以下の赤褐色粒、2mm 以下の透明光沢粒・黒色光沢粒 を少量含む。	IV 2B ④	内面剥落著しい
864	晩期	深鉢	口縁部	K8 [SA35]	無刻目突帯、ナデ、条痕 のちナデ	ナデ	3mm 以下の浅黄橙色粒・灰白色粒を多量に含み、1mm 以下の透明光沢粒を少量含む。	IV 2B ④	波状口縁の可能性
865	晩期	深鉢	口縁部	C21 [S2002]	無刻目突帯、ナデ、条痕 のちナデ	ナデ	1mm 以下の明黄色粒・褐灰色粒を多量に含み、黒色光 沢粒を少量含む。	IV 2B ④	
866	晩期	深鉢	口縁部	E21	無刻目突帯、口唇部ナデ、 口縁部以下粗いナデ	条痕のちナデ	1mm 以下のにぶい橙色粒・透明光沢粒を多量に含む。	IV 2B ⑤	ヒレ状突起
867	晩期	深鉢	口縁部	H15 [S49]	孔列文、条痕のちナデ	ミガキ	2mm 以下の浅黄色粒・灰白色粒を多量に含む。	IV 3A 6	風化気味
868	晩期	深鉢		A1 [溝内一括]	孔列文、口唇部ミガキ、 口縁部以下ナデ	条痕のちナデ	3mm以下の浅黄色粒・灰白色粒を多量に含む。	IV 3A ⑦	
869	晩期	深鉢	胴部	A1 [溝内一括]	孔列文、ナデ	ナデ	3mm 以下の明褐色粒を多量に含み、2mm 以下の灰褐色粒を少量含む。	IV 3A 9	<u> </u>
870	晩期	深鉢		E19 [S31]	孔列文、ナデ	ナデ	2mm 以下の明赤褐色粒・黄灰色粒を多量に含み、2mm 以下の灰白色粒を含む。	IV 3A ⑨	
871	晩期	深鉢	口縁部	A5[溝内一括]	孔列文、ナデ	条痕のちナデ	2mm 以下の浅黄色粒・灰白色粒を多量に含み、1mm 以下の褐色粒、微細な透明光沢粒を少量含む。	IV 3A 12	
872	晩期	深鉢	口縁部	J9	孔列文、ナデ、条痕	条痕のちナデ	1mm 以下の明黄褐色粒を多量に含む。	IV 3A 12	
873	晩期	深鉢	口縁部	D25	孔列文、条痕のちナデ	条痕のちナデ	3mm 以下の灰褐色粒・浅黄色粒を多量に含む。	IV 3A 12	
874	晩期	深鉢	口縁部	ア 28	沈線内に孔列文、条痕の ちナデ	条痕のちナデ	2mm 以下の白色粒を多量に含み、2mm 以下の黒褐色 粒を含む。	IV 3B ①	
875	晩期	深鉢	口縁部	K4 [撹乱]	孔列文、口唇部ナデ、口 縁部以下貝殻条痕のちナ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒を多量に含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	IV 3B ①	波状口縁か
876	晩期	深鉢	口縁部	J10	<u>デ</u> 孔列文、ナデ、条痕のち ナデ	条痕のちナデ	2mm 以下の浅黄橙色粒を多量に含む。	IV 3B ①	
877	晩期	深鉢	口縁部		ナデ 沈線内に孔列文、粗いナ デ	条痕のちナデ	2mm以下の黒褐色粒を少量含む。	IV 3B ②	外面スス付着
878	晩期	深鉢	口縁部	G19 +E17 [S38]	孔列文、口唇部ミガキ、 口縁部以下条痕	条痕	1mm 以下の白色粒を多量に含み、3mm 以下の黒褐色 粒を含む。	IV 3B ②	
879	晩期	深鉢	口縁部		孔列文、条痕のちナデ	条痕のちナデ	4mm 以下の暗褐色粒・黄色粒を多量に含む。	IV 3B ④	

掲載	時期	器種	部位	出土	調整、文	様	- 胎土	分類	備考
留 写				地点	外面	内面		刀泵	
880	晩期	深鉢		F18 [S43]	浅い孔列文、ナデ	ナデ	1 mm 以下の明黄褐色粒を多量に含み、4 mm程の褐色小石粒を少量含む。	IV 3B ④	風化気味
881	晩期	深鉢	口縁部	110	孔列文、ナデ	ナデ	5mm 以下の暗灰黄色粒、3mm 以下の灰黄褐色粒・褐色粒を多量に含む。	IV 3B ④	
882	晩期	深鉢	口縁部	A5 [溝内一括]	孔列文、ナデ	ナデ	1mm 以下の浅黄色粒を少量含む。	IV 3B ④	
883	晩期	鉢	口縁部	ア 26	無刻目突帯、孔列文、条	条痕のちナデ	2 mm 以下の黒色粒・黒褐色粒、1 mm 以下の乳白色粒・ 灰色粒を含む。	IV 4A 6	外面スス付着
884	晩期	深鉢	口縁部	E18	痕のちナデ 無刻目突帯、孔列文、ナデ、	条痕のちナデ	3mm以下の灰白色粒・浅黄橙色粒・褐灰色粒を含む。	IV 4A ®	
885	晩期	深鉢	口縁部	F19 [S39]	条痕のちナデ 無刻目突帯、竹管による	ナデ、	3mm 以下の浅黄色粒・灰白色粒を多量に含む。	IV 4A ⑨	
886	晩期	深鉢	□縁~	C22 [S152]	孔列文、ナデ、細沈線文 無刻目突帯、孔列文、ナ	条痕のちナデ 条痕のちナデ	2mm 以下のにぶい橙色粒、1mm 以下の褐灰色粒を多		口径 31.9cm
887	晩期	鉢	胴部 口縁~ 胴部	H21	デ 無刻目突帯、竹管による 孔列文、貝殻条痕のちナ	条痕のちナデ	量に含む。 2mm以下の淡黄色粒を多量に含む。	IV 4A (1)	外面スス付着
888	晩期	深鉢		F18 [S43]	デ 無刻目突帯上に竹管によ	ナデ	3mm 以下の橙色粒・褐灰色粒・灰白色粒を含む。	IV 4B ①	
889	晩期	深鉢	口縁部	+ F19 [S40]	る孔列文、ナデ 肥厚帯(無刻目突帯)上	ナデ	5mm 以下の褐灰色粒、3mm 以下の浅黄橙色粒を多量	1V 4B ①	
					に凹線、孔列文、ナデ、 条痕のちナデ		に含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	IV 4B ①	
890	晩期	深鉢	口縁部	G18	無刻自突帯、孔列文、ナデ	ナデ	3mm 以下の浅黄橙色粒・灰白色粒・黒褐色粒を多量に 含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	IV 4B ①	
891	晩期	深鉢	口縁部	19	無刻目突帯、孔列文、ナデ	ナデ	5mm 以下の灰白色の小石粒を含み、1mm 以下の黒色 粒を含む。	IV 4B ①	内外面とも風化気味
892	晩期	深鉢	口縁部	l11	無刻目突帯、孔列文、条	ナデ	3mm 以下の橙色粒・褐灰色粒・灰白色粒を多量に含む。	IV 4B ①	
893	晩期	深鉢	口縁部	I10	痕のちナデ 無刻目突帯、孔列文、条	ナデ	1mm 以下の灰白色粒・にぶい橙色粒を少量含む。	IV 4B ①	
894	晩期	深鉢	口縁部	B30 [S803]	痕のちナデ 無刻目突帯、孔列文、条	条痕のちナデ	4mm 以下の灰色粒・褐色粒を多量に含む。	IV 4B ②	外面スス付着
895	晩期	深鉢	□縁部	F16 [S81]	痕のちナデ 肥厚帯(無刻目突帯)上	ナデ	4mm 以下の浅黄橙色粒、2mm 以下の褐色粒・橙色粒・		
896	晩期	深鉢	口縁部		に凹線、孔列文、ナデ 無刻目突帯、孔列文、口	ナデ	灰白色粒を多量に含み、微細な透明光沢粒を少量含む。 1mm以下の灰白色粒・明黄褐色粒・黒褐色粒を多量に	IV 4B ②	内面摩耗
					唇部ミガキ、口縁部以下 条痕のちナデ		含む。	IV 4B ④	1 Jimiry-10
897	晩期	深鉢	口縁部	F19 [P120]	無刻目突帯、孔列文、ナデ	太い単位のナデ	2mm 以下の白色粒・黄色粒を多量に含み、2mm 以下の明黄褐色粒を含む。	IV 4B ④	
898	晩期	深鉢	口縁部	H19	無刻目突帯、孔列文、ナデ、 貝殻条痕のちナデ	条痕のちナデ	2mm 以下の褐灰色粒・黒褐色粒を多量に含み、4mm 以下の浅黄橙色粒、2mm 以下の灰白色粒を少量含む。	IV 4B ④	
899	晩期	深鉢	口縁部	J10 [SA33]	肥厚帯 (無刻目突帯)、孔 列文、ナデ、条痕のちナ	条痕のちナデ	4mm以下の灰褐色粒・灰白色粒・橙色粒を多量に含む。	IV 4B ④	剥落著しい
900	晩期	深鉢	口縁部	J10+D18 [S33]	無刻目突帯、孔列文、ナデ、	条痕のちナデ	2mm 以下の灰白色粒・褐色粒・茶色粒を多量に含む。	IV 4B ④	
901	晩期	深鉢	口縁部	+ E19 [S34] B27 [S18]	条痕のちナデ 無刻目突帯、孔列文、ナデ、	条痕のちナデ	2mm以下の浅黄橙を多量に含み、3mm以下の黄橙色粒・	IV 4B ④	
902	晩期	深鉢	口縁部	G18 [S60]	貝殻条痕のちナデ 無刻目突帯、孔列文、条	条痕のちナデ	明黄褐色粒を含む。 2mm 以下の浅黄橙色粒を多量に含み、3mm 以下の褐		
903	晩期	深鉢	頸部	A1 [溝内一括]	痕のちナデ 無刻目突帯、孔列文、ナ	条痕のちナデ	灰色粒・にぶい褐色粒・透明光沢粒を少量含む。 2mm 以下の灰白色粒を多量に含み、1mm 以下の褐灰	IV 4B ④	904 と同一か
					デ		色粒を少量含む。	IV 4B ④	
904		深鉢	胴部	l12 + A1 [溝内一括]	無刻目突帯、孔列文、ナ デ	条痕のちナデ	1mm 以下の灰白色粒・褐灰色粒を多量に含む。	IV 4B ④	903 と同一か
905	晩期	深鉢	胴部	M3 [SA118]	無刻目突帯、貝殻条痕の ちナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒・浅黄色粒・褐色粒・透明光沢粒・ 黒色光沢粒を含む。	IV©	内面スス付着
906	晩期	深鉢	胴部	K6 [撹乱]	無刻目突帯、条痕のちナデ	ナデ	1mm 以下のにぶい黄橙色粒・黒色光沢粒を多量に含む。	IV6	
907	晩期	深鉢	胴部	H19	沈線文、貝殻条痕のちナ		3mm 以下の明褐色粒、2mm 以下の灰白色粒を多量に 含み、2mm 以下の橙色粒・黒色粒を含む。	IV6	
908	晩期	深鉢	胴部	E15 [S7 + S228]	<u>デ</u> 貝殻条痕のちナデ	<u>風にナデ</u> 条痕のちナデ	1mm 以下のにぶい橙色粒・褐灰色粒を多量に含み、微	IV(6)	
909	晩期	深鉢	胴部	G16+H18	ナデ	条痕のちナデ	細な透明光沢粒を少量含む。 4mm以下の浅黄色粒・橙色粒・灰白色粒・褐色粒を多		
910	晩期	深鉢	胴部	J8+K8 [撹乱]	貝殻条痕のちナデ	条痕のちナデ	量に含む。 3mm 以下の灰褐色粒、1mm 以下の灰白色粒・明黄褐	IV6	外面スス付着
		深鉢			ナデ		色粒を含む。 3mm以下の浅黄橙色粒を多量に含み、1mm以下の灰	IV®	
911	晩期		胴部	J11 + A1 [溝内一括]		ナデ	白色粒・灰褐色粒を少量含む。	IV6	
912	晩期	深鉢	胴部	E19 [S34]	粗いナデ	ナデ	2mm 以下の黄橙色粒・黒褐色粒を多量に含む。	IV6	
913	晩期	深鉢	胴部	C22 [S152]	ナデ	ナデ	5mm 以下の灰黄色粒、2mm 以下の黄橙色粒を多量に 含む。	IV6	内面炭化物付着
914		深鉢	胴部	C22 [S152]	条痕のちナデ	ナデ	3mm 以下の褐灰色粒・赤褐色粒・にぶい橙色粒・黒褐色粒を含み、2mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	IV6	
915	晩期	深鉢	胴部	H21 SI18	粗いナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・灰褐色粒を多量に含み、2mm 以下の黄橙色粒を少量含む。	IV®	外面黒変、内面黒斑
916	晩期	鉢	口縁~	A5 一括	刻目突帯 (貝殻)、貝殻条 痕のちナデ	条痕のちナデ	1mm 以下の灰白色粒・浅黄色粒を多量に含み、微細な 黒色粒・透明光沢粒を少量含む。	V 7 ①	口径 17.4cm、 外面・内面スス付着
917	晩期	鉢		D19 [S7]	刻目突帯(工具)、ナデ	ナデ	4mm以下の褐灰色粒を多量に含み、1mm以下の黒色粒・ 白色粒を少量含む。	V 7 ①	
918	晩期	鉢	口縁部	H19 [P105]	刻目突帯(指頭)、孔列文、		ロ巴粒をグ重さむ。 2mm以下の浅黄色粒・橙色粒・褐色粒を多量に含む。	V 8 ②	外面黒変
919	晩期	鉢	口縁部	F19 [S40]	ナデ 刻目突帯(貝殻)、孔列文、 ナデ	<u>リ</u> 風ナデ ナデ	2mm 以下の灰白色粒・浅黄橙色粒・灰褐色粒・明赤褐色粒を含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	V 8 2	内面黒斑
920	晩期	鉢	口縁部	F20 [S24]	刻目突帯(指頭)、孔列文、	ナデ	2mm 以下の黄橙色粒を多量に含み、3mm 以下の灰白色粒を少量含む。	V 8 ②	外面一部黒変
921	晩期	鉢	口縁部	A5 一括	貝殻条痕のちナデ 刻目突帯 (指頭)、ナデ、	条痕のちナデ	3mm 以下の灰色粒・黄褐色粒・黒色粒、1mm 以下の	V 7 3	外面黒変
922	晩期	鉢	口縁~	G20	条痕のちナデ 口縁端部と胴部に刻目突	ナデ	白色粒・橙色粒を多量に含む。 2mm以下の灰白色粒・浅黄橙色粒・褐灰色粒・白色粒		口径 31.4cm、
			胴部		帯(指頭)、孔列文、ナデ		を多量に含み、1mm以下の黒色光沢粒を少量含む。	V 8 4	外面スス付着

掲載番号	時期	器種	部位	出土地点	調整、文 外面	様 内面	- 胎土	分類	備考
923	晩期	鉢	口縁部	G20 [S22]	刻目突帯(指頭)、孔列文、		2mm 以下の灰白色粒・明褐色粒、微細な透明光沢粒・ 黒色光沢粒を少量含む。	V 8 (4)	外面黒変
924	晩期	鉢	口縁部	F16 [S81]	<u>ナデ</u> 刻目突帯(指頭)、孔列文、 ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・褐灰色粒・黒褐色粒・黄褐色粒を少量含む。	V 8 ④	外面スス付着
925	晩期	鉢	口縁部	F18		ミガキ	1mm 以下の灰白色粒を多量に含み、2mm 以下の浅黄橙色粒、4mm 以下の砂礫を少量含む。	V 7 ⑤	内面黒斑
926	晩期	鉢	口縁部	A23 [S2010]	刻目突帯(指頭)、孔列文、	ナデ	2mm以下の明黄褐色粒・灰白色粒を多量に含み、1mm以下の黒色光沢粒を少量含む。	V 8 ⑤	内面黒斑 外面黒変
927	晩期	鉢	口縁部	I12 [S109]	ナデ、条痕のちナデ 刻目突帯 (工具 U)、孔列文、	貝殻条痕のちナ	2mm以下の褐灰色粒・黒褐色粒・灰白色粒を少量含む。	V 8 ⑤	外面スス付着
928	晩期	鉢	口縁部	ア 29	ナデ 刻目突帯(工具 V)、ナデ	<u>ァ</u> 貝殻条痕のちナ デ	3mm 以下の褐灰色粒、2mm 以下の灰白色粒を含む。	V 7 (5)	内面・外面スス付着
929	晩期	鉢	口縁部	H19	刻目突帯(工具先端押圧)、 孔列文、ナデ、条痕のち ナデ	貝殻条痕	3mm 以下のにぶい黄橙色粒を多量に含む。	V 8 ⑤	外面スス付着 内面黒変
930	晩期	鉢	口縁部	F19 [S40]	カー 波頂部に工具による押圧、 刻目突帯(指頭)、ナデ	ナデ	1mm 以下の灰褐色粒・黄橙色粒を多量に含み、1mm 以下の灰白色粒を少量含む。	V 7 6	波状口縁 外面炭化物付着
931	晩期	鉢	口縁部	F18 [S41]	刻目突帯(指頭)、孔列文、 ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・褐灰色粒を含み、1mm 以下の透明光沢粒、5mm 以下のにぶい褐色粒を少量含む。	V 8 6	波状突帯
932	晩期	鉢	口縁~ 胴部	G15	刻目突帯(工具 U)、細沈 線文、ナデ	貝殻条痕のちナ デ	3mm以下の灰白色粒を多量に含み、1mm以下の橙色粒・透明光沢粒を少量含む。	V 7 ⑦	933 と同一 口径 16.2cm、
933	晩期	鉢	口縁部	G15	刻目突帯(工具 U)、細沈 線文、ナデ	貝殻条痕のちナ デ	4mm 以下の浅黄橙色粒を多量に含み、2mm 以下の灰褐色粒・黒色光沢粒を少量含む。	V 7 ⑦	外面・内面スス付着 932 と同一 外面スス付着
934	晩期	鉢	胴部	F20	貝殻条痕のちナデ			V 7 ⑦	932・933 と同一か
935	晩期	鉢	胴部	K7 [SA11]	刻目突帯(貝殻)、ナデ、 貝殻条痕のちナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒・浅黄橙色粒・黒色光沢粒を多量 に含む。	V®	内面黒斑
936	晩期	鉢	胴部	F20 [S24]	刻目突帯(貝殻)、貝殻条 痕のちナデ	貝殻条痕のちナ デ	2mm 以下の褐色粒・灰白色粒を多量に含み、1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	V®	外面スス付着
937	晩期	鉢	胴部	F16 [S81]	刻目突帯 (工具 U)、条痕 のちナデ	条痕のちナデ	3mm 以下の灰白色粒・褐色粒を含み、4mm 以下の半 透明粒を少量含む。	V®	スス付着
938	晩期	鉢	胴部	F19 [S41]	刻目突帯(指頭)、貝殻条 痕のちナデ	ナデ	3mm以下の灰白色粒・浅黄橙色粒を多量に含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	V®	内面朱付着
939	晩期	鉢	胴部	エ31 [S3001]		貝殻条痕のちナ デ	2mm 以下の橙色粒・褐色粒を含み、1mm 以下の半透 明粒を少量含む。	V®	外面一部黒変
940	晩期	深鉢	底部	M5 [SA3]	ナデ	ナデ	1mm 以下の黒褐色粒・にぶい黄橙色粒を多量に含む。	VI①	底径 8.6cm
941	晩期	深鉢	底部	D18 [S73]	工具ナデ、ナデ	ナデ、貝殻条痕 のちナデ	1mm 以下の褐灰色粒を多量に含み、1mm 灰白色粒・ 赤褐色粒を少量含む。	VI①	底径 8.9cm
942	晩期	深鉢	底部	H18	ナデ、条痕	ナデ	3mm 以下の灰褐色粒を多量に含み、3mm 赤褐色粒、 微細な透明光沢粒を少量含む。	VI①	底径 11.8cm
943	晩期	深鉢	底部	I10 [SA23]	ナデ、底面ナデ、指頭痕	ナデ	2mm 以下の褐灰色粒・橙色粒・黒褐色粒を多量に含み、 5mm 以下の砂礫を含む。	VI①	底径 9.1cm 内面黒斑
944	晩期	深鉢・鈴	本底部	E18	ナデ	工具ナデ、ナデ	1mm 以下の灰色粒・茶色粒・乳白色粒を多量に含む。	VI①	底径 8.4cm
945	晩期	深鉢	底部	M5	粗いナデ	粗いナデ	3mm 以下の灰褐色粒・灰白色粒・暗赤褐色粒を多量に 含み、2mm 黒色光沢粒を少量含む。	VI①	底径 8.4cm
946	晩期	深鉢	底部	G18 [S60]	ナデ	ナデ	5mm 以下の明赤褐色粒・明褐灰色粒を含み、1mm 以 下の灰白色粒を少量含む。	VI①	
947	晩期	深鉢	底部	K8 [SA35]	粗いナデ	ナデ	3mm 以下の黄橙色粒・にぶい黄褐・赤褐色粒を多量に 含み、1mm 透明光沢粒を少量含む。	VI①	底径 7.6cm 風化・剥落激しい
948	晩期	深鉢・釒	本底部	D18 [S9]	ミガキ、ナデ	ナデ	1mm 以下の黒色粒・暗褐色粒・灰白色粒を多量に含み、 5mm の乳白色粒が少量含む。	VI①	底径 7.8cm
949	晩期	深鉢	底部	E21	工具ナデ、条痕、丁寧な ナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒・白色粒を多量に含み、微細な黒色光沢粒を少量含む。	VI2	底径 9.4cm
950	晩期	深鉢	底部	I17 [S55]	条痕、ナデ	条痕のちナデ	3mm 以下の灰白色粒・白色粒・浅黄橙色粒を多量に含み、 4mm 以下の砂礫を少量含む。	VI(2)	底径 10.1cm
951	晩期	深鉢	底部	H20 [S19]	条痕のちナデ	ナデ	2mm 以下の灰色粒・灰白色粒・赤褐色粒を少量含む。	VI2	底径 7.8cm
952	晩期	深鉢	底部	F18 [S42]	条痕のちナデ、 底面網代圧痕	工具ナデ	3mm 以下のうすい橙色粒を多量に含み、1.5mm 以下の 乳白色粒・橙色粒・黒色粒を含む。	VI2	底径 11.2cm
953	晩期	深鉢	底部	A23 [S2010]	条痕のちナデ、ナデ、 底面網代圧痕	ナデ	2mm以下の乳白色粒、微細な透明光沢粒・黒色粒を含む。	VI2	底径 9cm
954	晩期	深鉢	底部	D26	粗いナデ、底面ナデ	貝殻条痕のちナ デ、ナデ	3mm以下の灰褐色粒・灰白色粒・にぶい橙色粒を含む。	VI2	底径 8.4cm
955	晩期	深鉢	底部	A24 [S2172]	ナデ	ナデ	3mm 以下の暗灰色粒・暗赤灰色粒を含み、微細な黒色 光沢粒を少量含む。	VI(2)	底径 7.2cm
956	晩期	深鉢	底部	A30	工具ナデ、底面粗いナデ	粗いナデ	3mm 以下の赤褐色粒・褐灰色粒を多量に含み、2mm 以下の浅黄橙色粒を少量含む。	VI2	
957	晩期	深鉢	底部	J10	条痕、ナデ	貝殻条痕のちナ デ、ナデ	2mm 以下の灰白色粒・明黄褐色粒、1mm 以下の赤褐 色粒を含む。	VI2	底径 9.9cm 内面スス付着
958	晩期	深鉢	底部	A1 一括	工具ナデ、ナデ	ナデ	3mm 以下の赤褐色粒、2mm 以下の浅黄橙色粒を含む。	VI2	底径 9.6cm 内面黒斑
959	晩期	深鉢	底部	D18 [S9] + E16 [S348]	ナデ、底面網代圧痕	ナデ	3mm 以下の灰褐色粒・白色粒を多量に含み、1mm 以下のにぶい橙色粒を少量含む。	VI2	底径 10.5cm 内面黒斑
960	晩期	深鉢	底部	A5 一括	ナデ、底面網代圧痕か?	条痕のちナデ、 ナデ	2mm以下の乳白色粒・灰色粒、1mm以下の褐灰色粒を多量に含む。	VI(2)	底径 10cm 内面炭化物付着 外面黒変
961	晩期	深鉢	底部	D18 [S9]	ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒を多量に含み、2mm 以下の明褐 灰色粒、1mm 以下の透明光沢粒を少量含む。	VI2	<u>外国無変</u> 底径 9.0cm 外面剥落激しい
962	晩期	深鉢	胴部	A1[溝内一括] ナデ	ナデ	3mm以下の灰白色粒を多量に含み、2mm以下の褐色 粒を少量含む。	VI2	



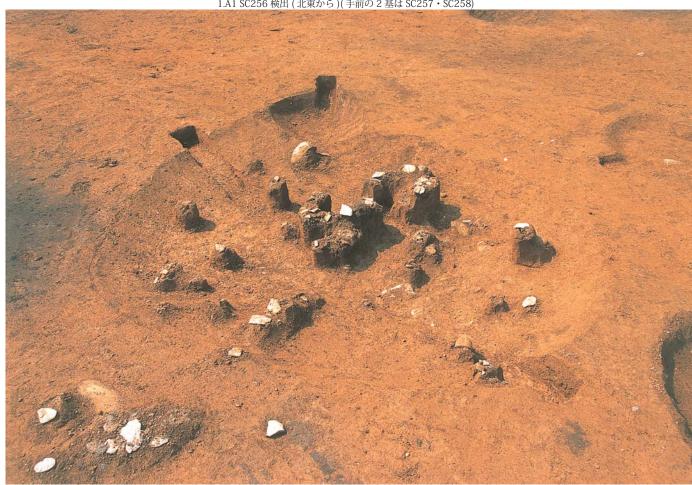
各調査区の土層堆積状況





1.A3 SI124 完掘 (北から) 旧石器時代礫群 -226-





2.A1 SC256 遺物出土 (東から) 縄文時代草創期 竪穴状遺構 -227-



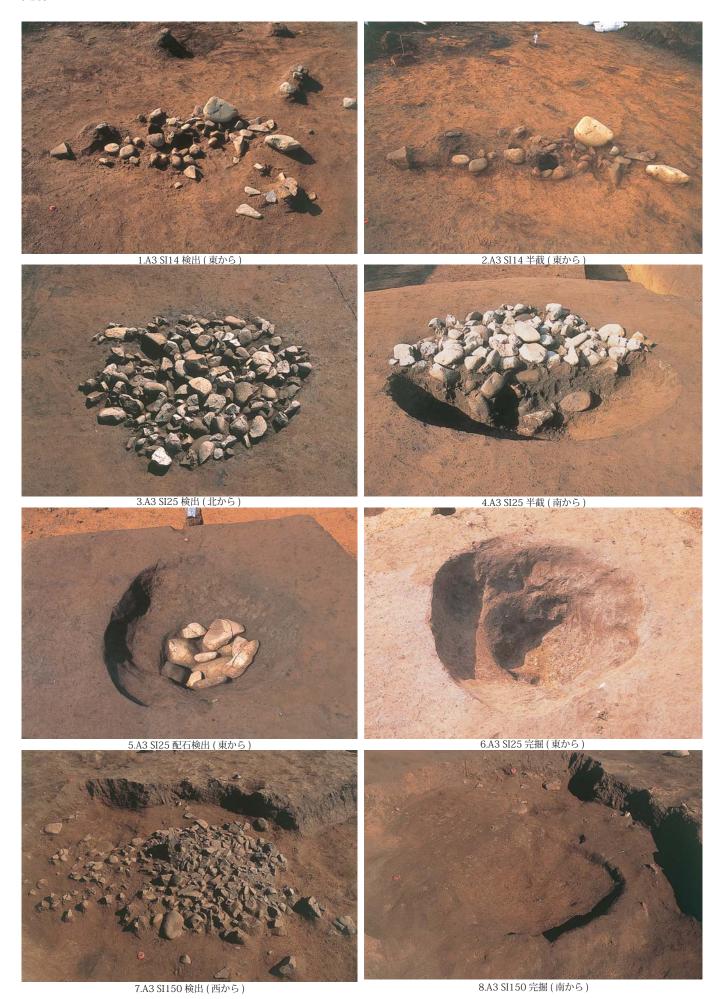
1.A3 散礫① (東から)



2.A3 散礫②(南から) 縄文時代早期 集石遺構 (1)



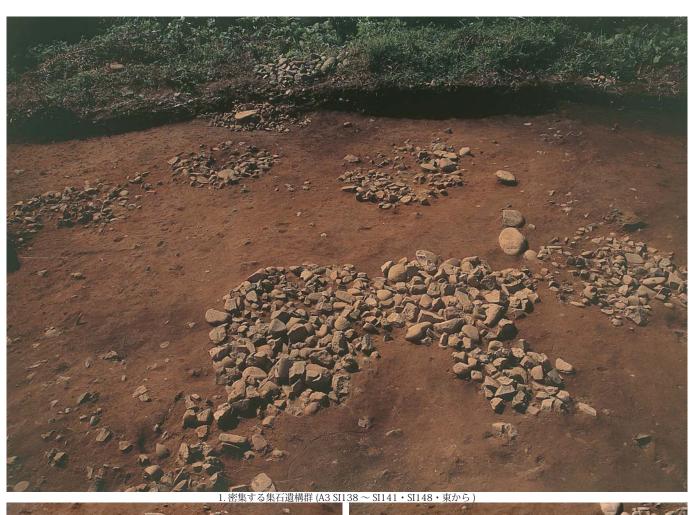
縄文時代早期 集石遺構 (2) -229-



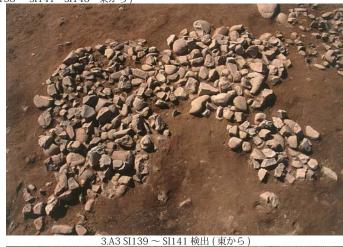
縄文時代早期 集石遺構 (3) -230-



縄文時代早期 集石遺構 (4)







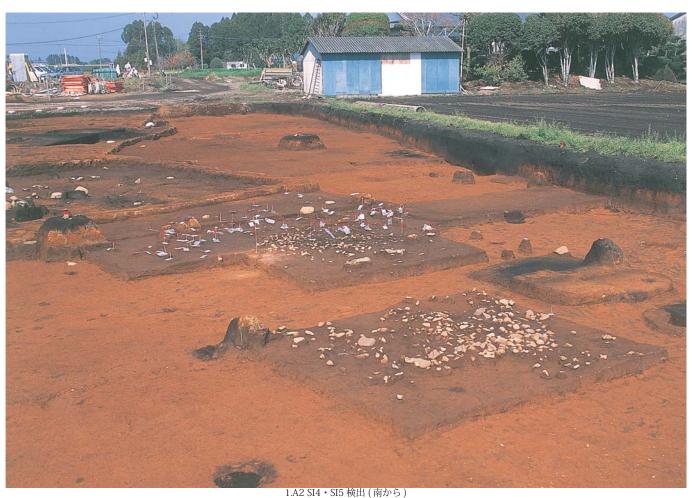




4.A3 SI138 ~ SI140 半截 (西から)

5.A3 SI138 ~ SI141・SI148 完掘 (西から)

縄文時代早期 集石遺構 (5)



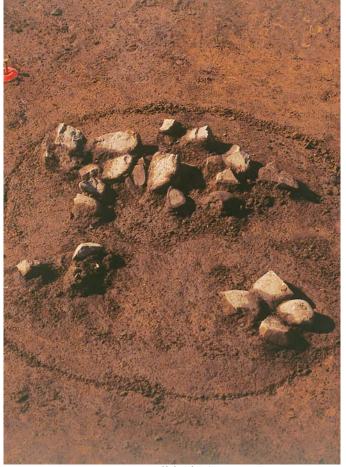




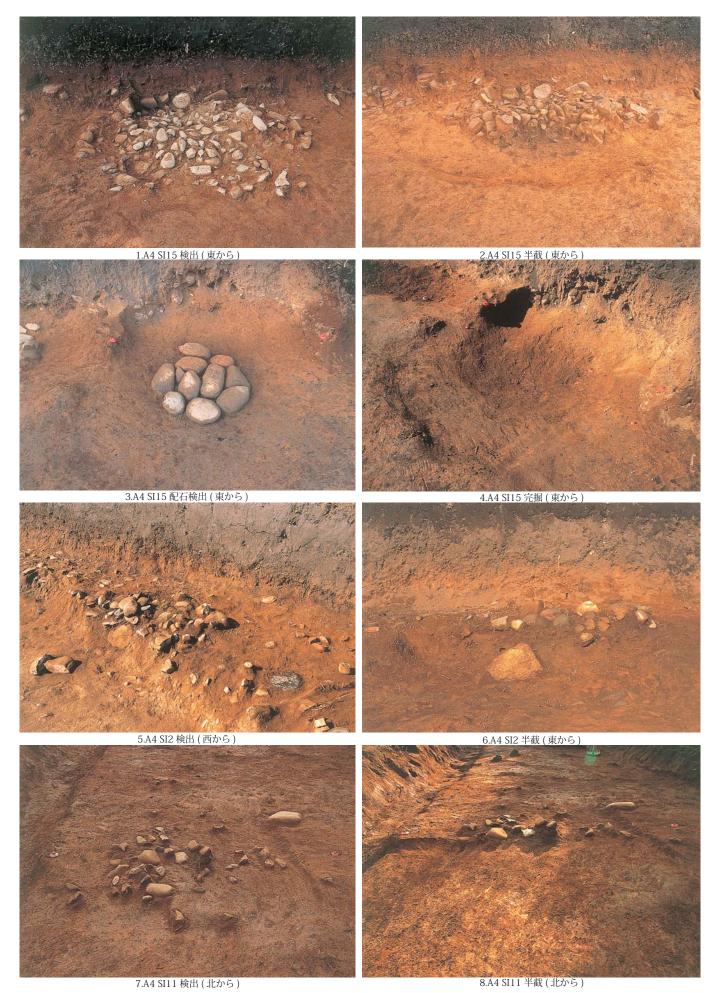
2.A2 SI4 半截 (東から)



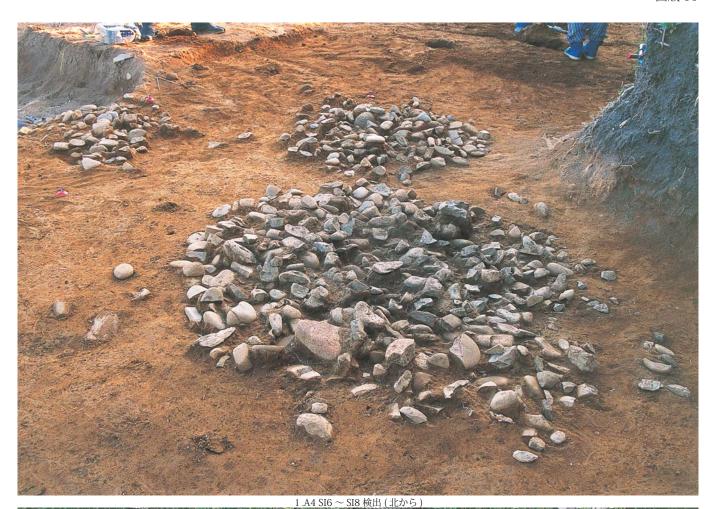
3.A2 SI5 半截 (東から)



4.A2 SI6 検出 (南から)



縄文時代早期 集石遺構 (7) -234-





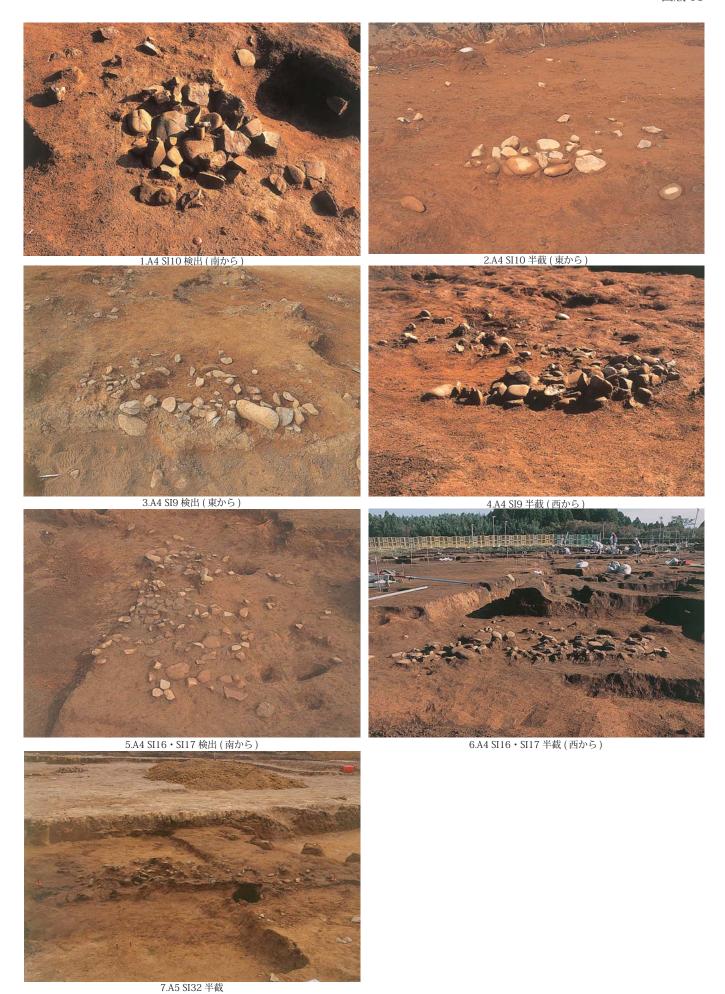


2.A4 SI6・SI7 半截 (東から) 縄文時代早期 集石遺構 (8)

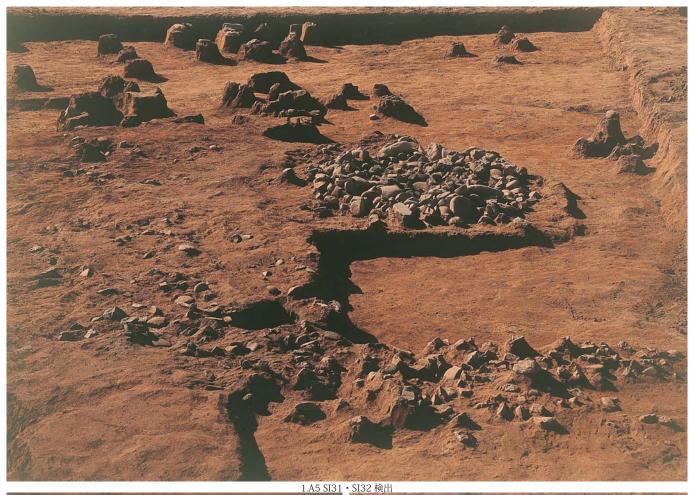
-235-



縄文時代早期 集石遺構 (9) -236-



縄文時代早期 集石遺構 (10) -237-







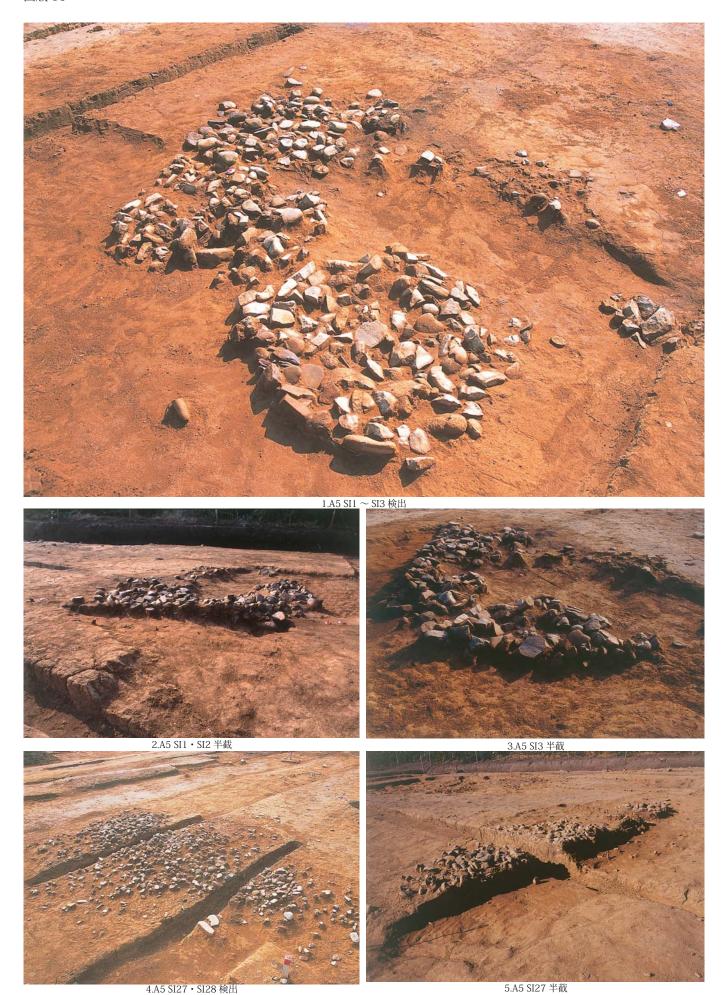




縄文時代早期 集石遺構 (11) -238-



縄文時代早期 集石遺構 (12) -239-



縄文時代早期 集石遺構 (13) -240-



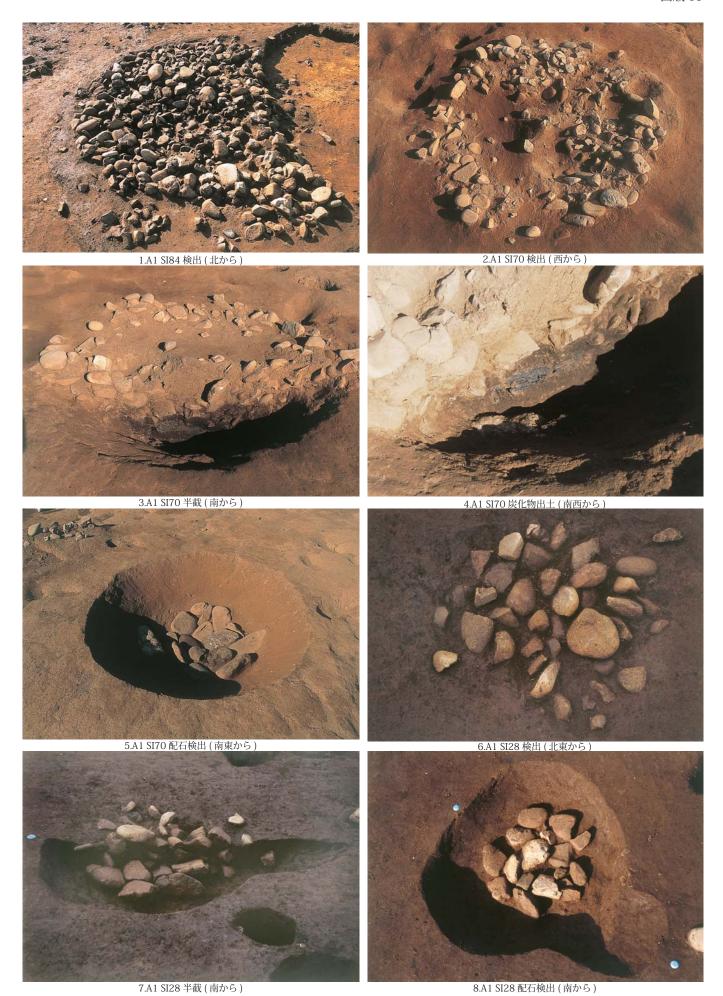


縄文時代早期 集石遺構 (14) -241-

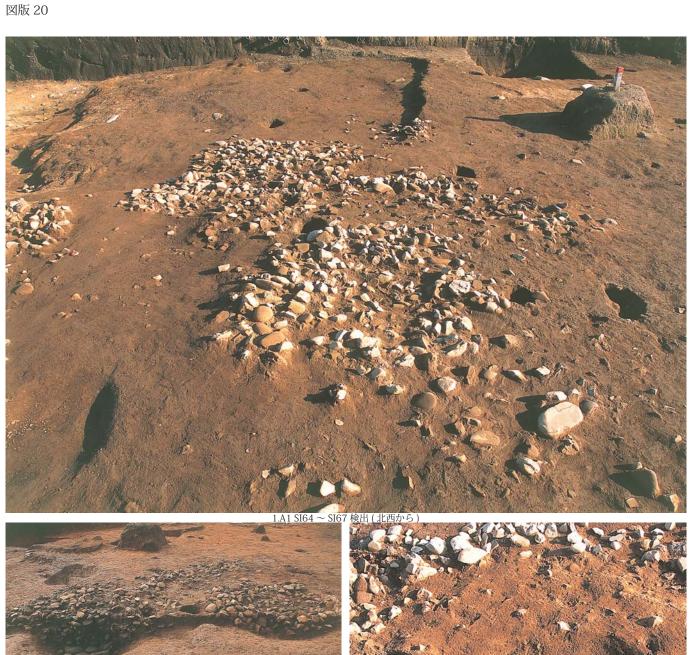




2.A1 SI76・SI84 配石検出 (西から) 縄文時代早期 集石遺構 (15) -242-



縄文時代早期 集石遺構 (16)

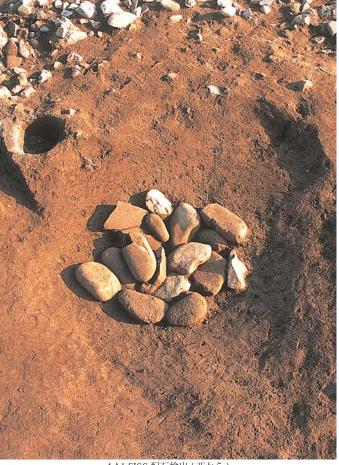




2.A1 SI65・SI66 半截 (北から)

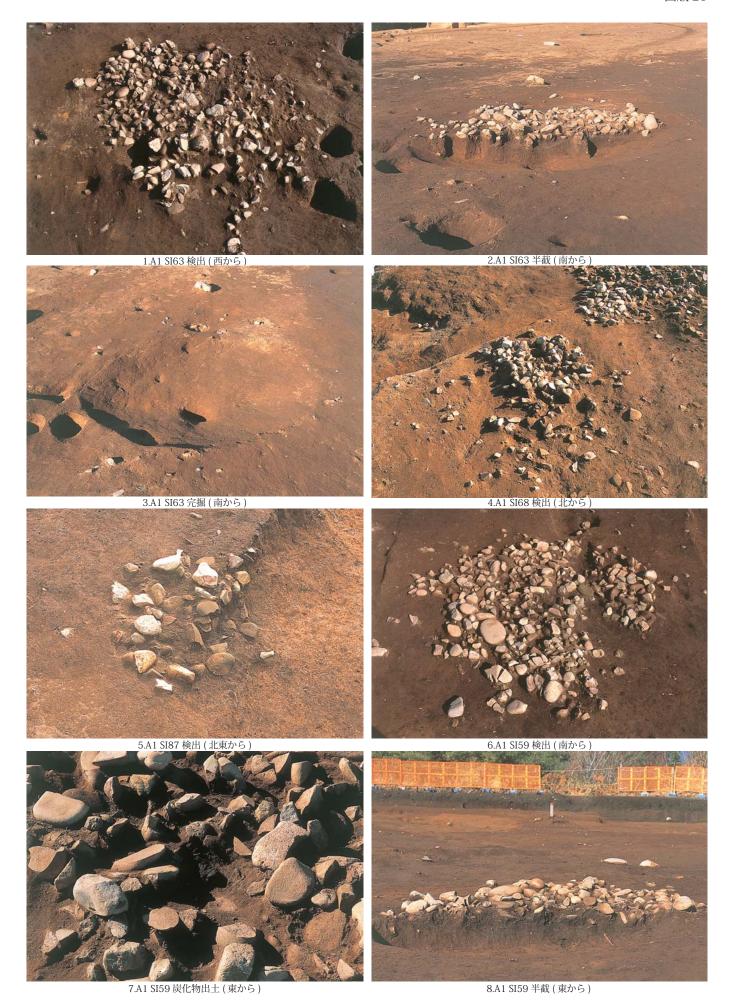


3.A1 SI65 配石検出 (西から)



4.A1 SI66 配石検出 (西から)

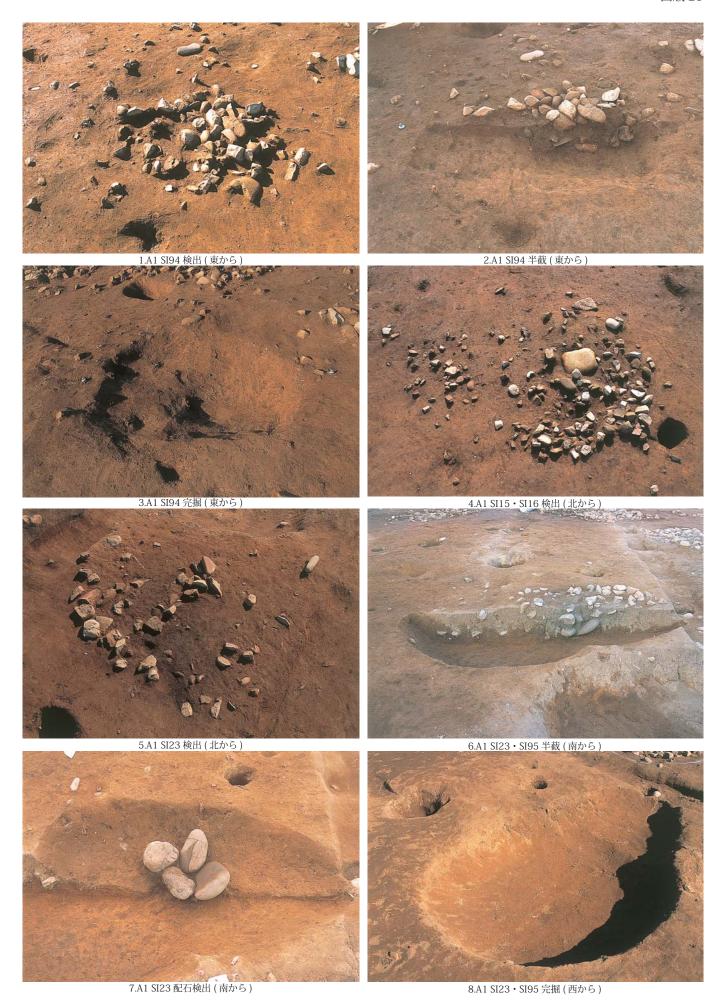
縄文時代早期 集石遺構 (17)



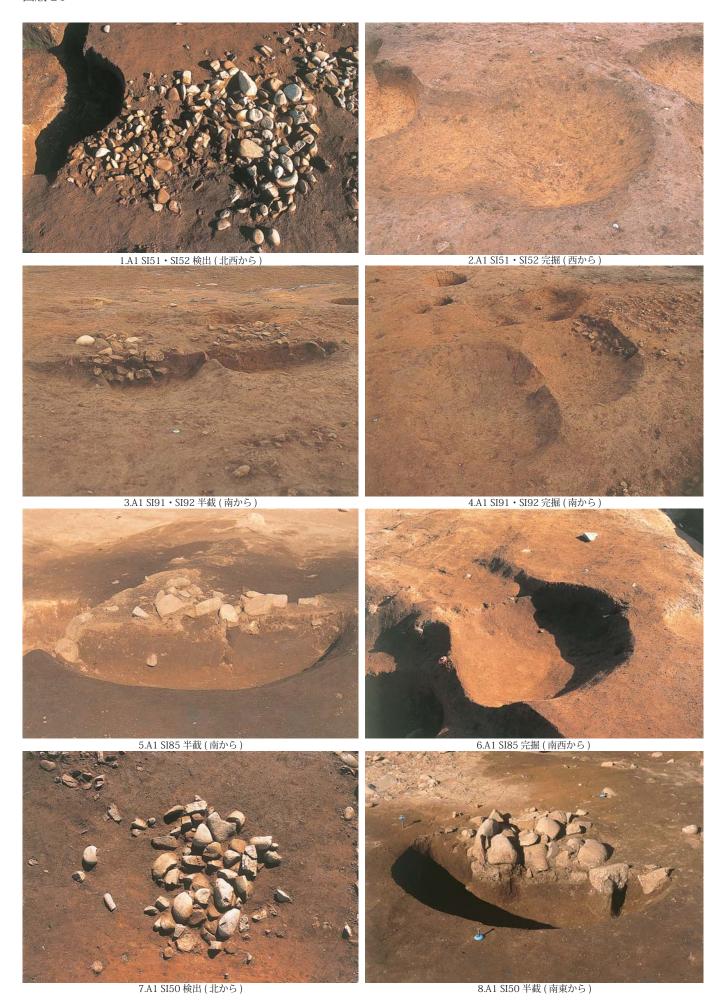
縄文時代早期 集石遺構 (18)



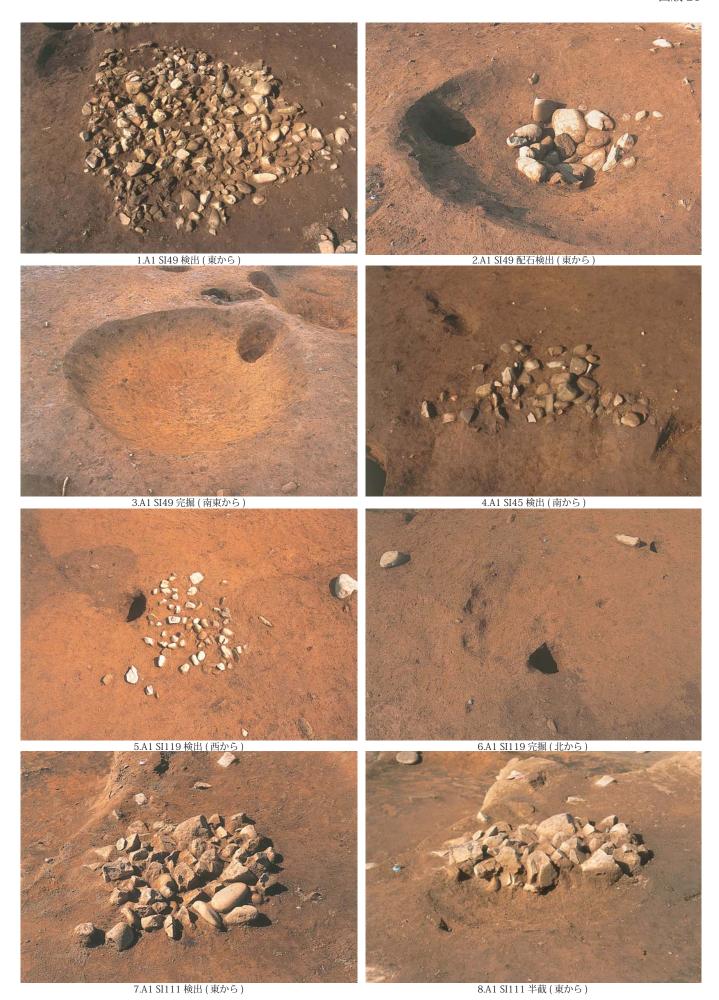
縄文時代早期 集石遺構 (19)



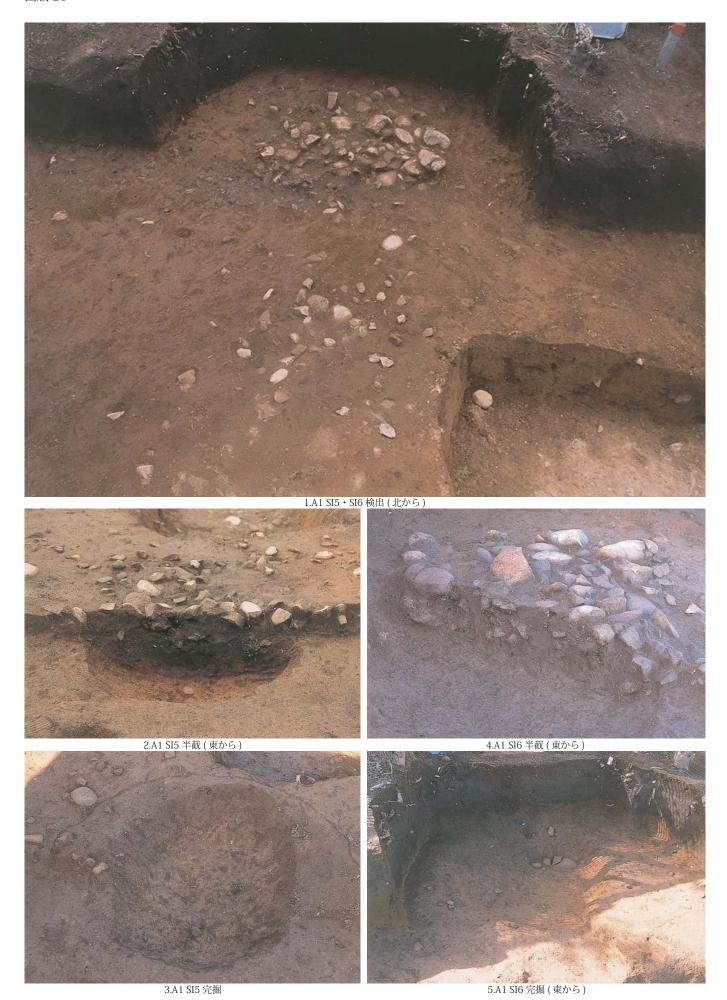
縄文時代早期 集石遺構 (20)



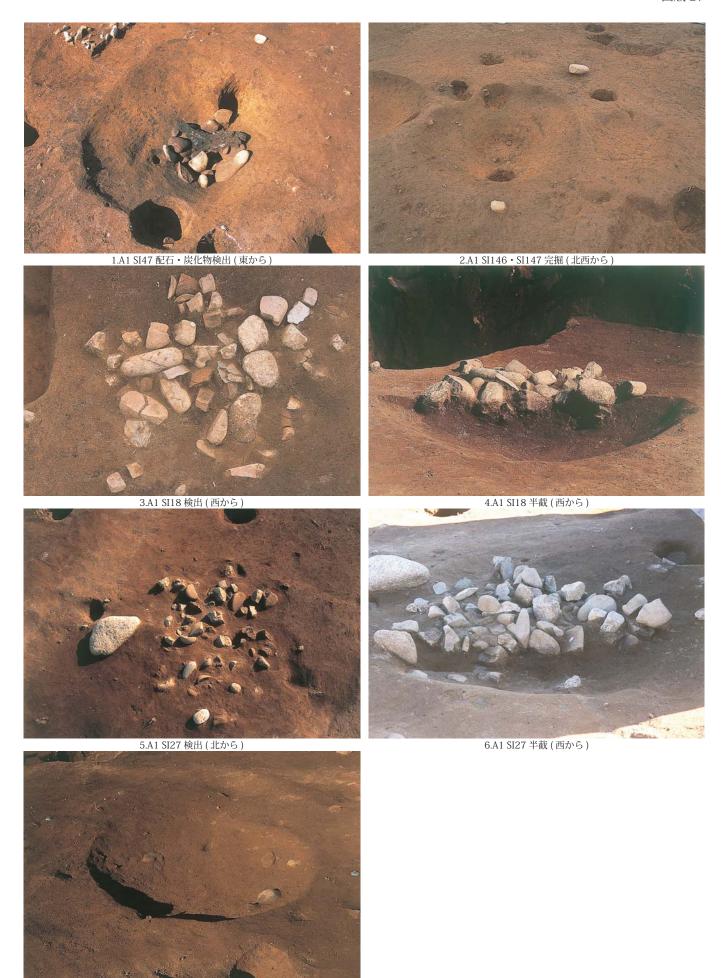
縄文時代早期 集石遺構 (21)



縄文時代早期 集石遺構 (22)



縄文時代早期 集石遺構 (23)

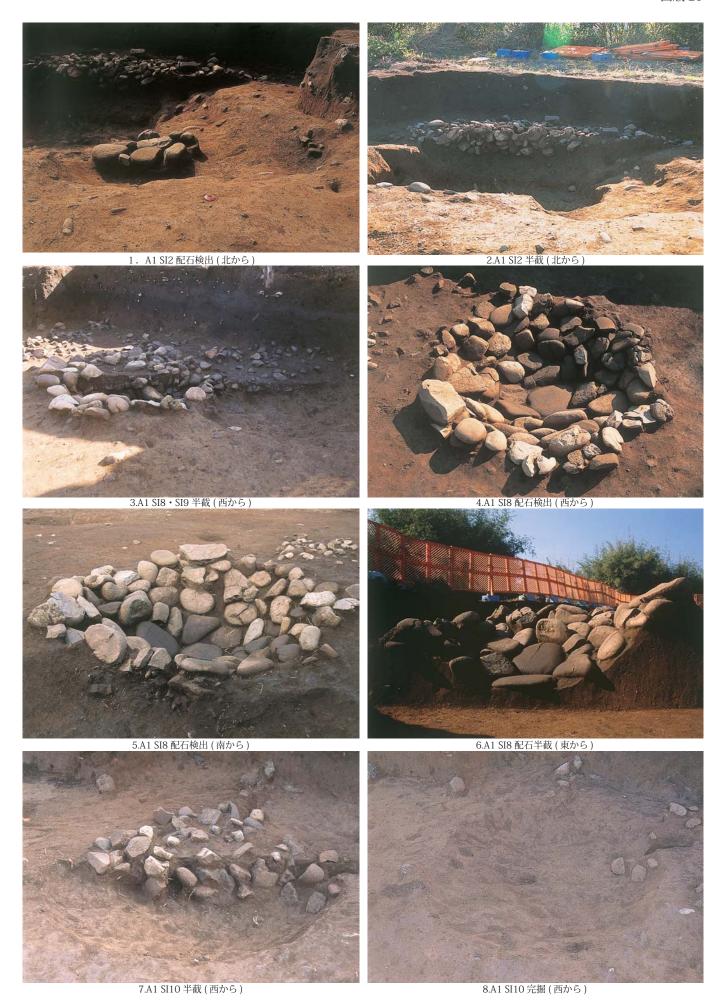


7.A1 SI27 完掘 (南東から) 縄文時代早期 集石遺構 (24)

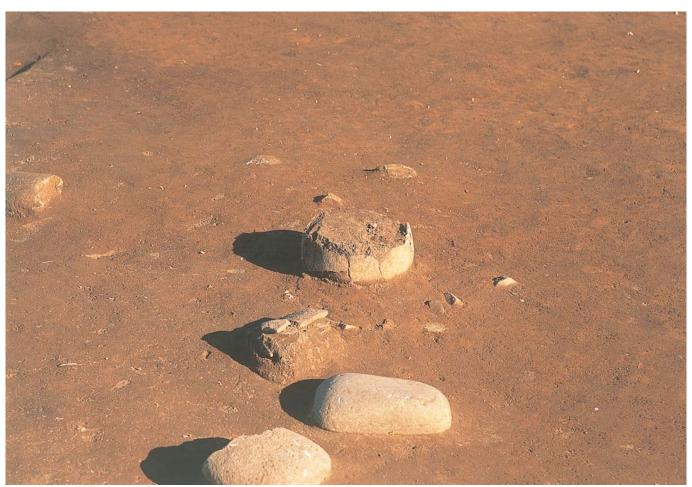




2.A1 SI7~SI10 検出(西から) 縄文時代早期 集石遺構(25) -252-



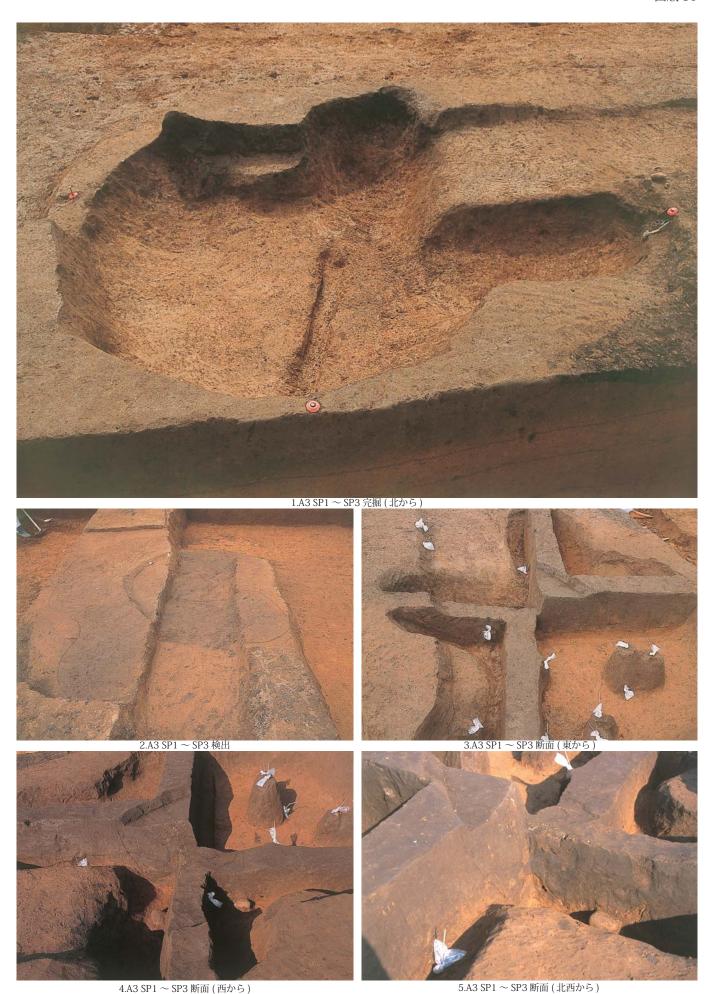
縄文時代早期 集石遺構 (26)



1.A1 SC210 検出 (南から)

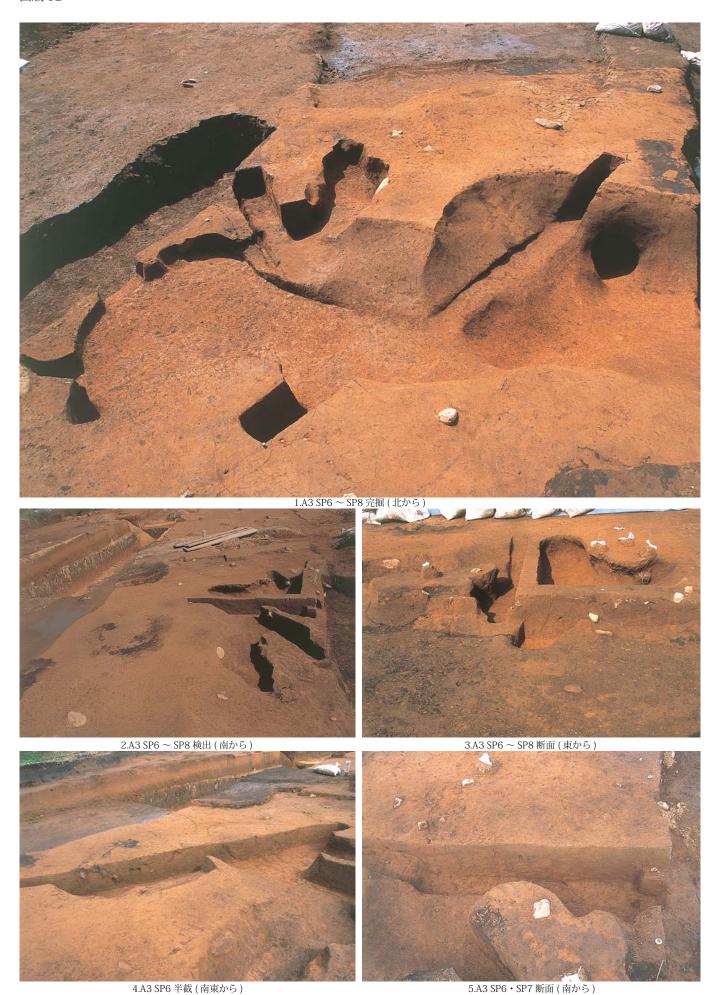


2.A1 SC210 半截 (西から) 縄文時代早期 土器埋設遺構 -254-

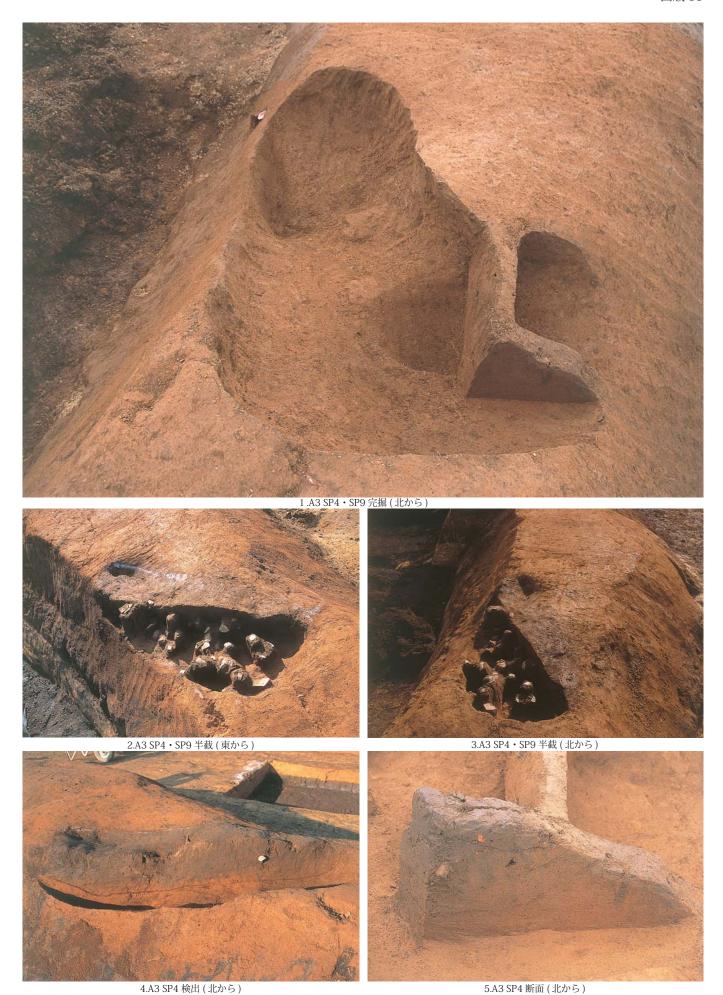


縄文時代早期 炉穴(1)

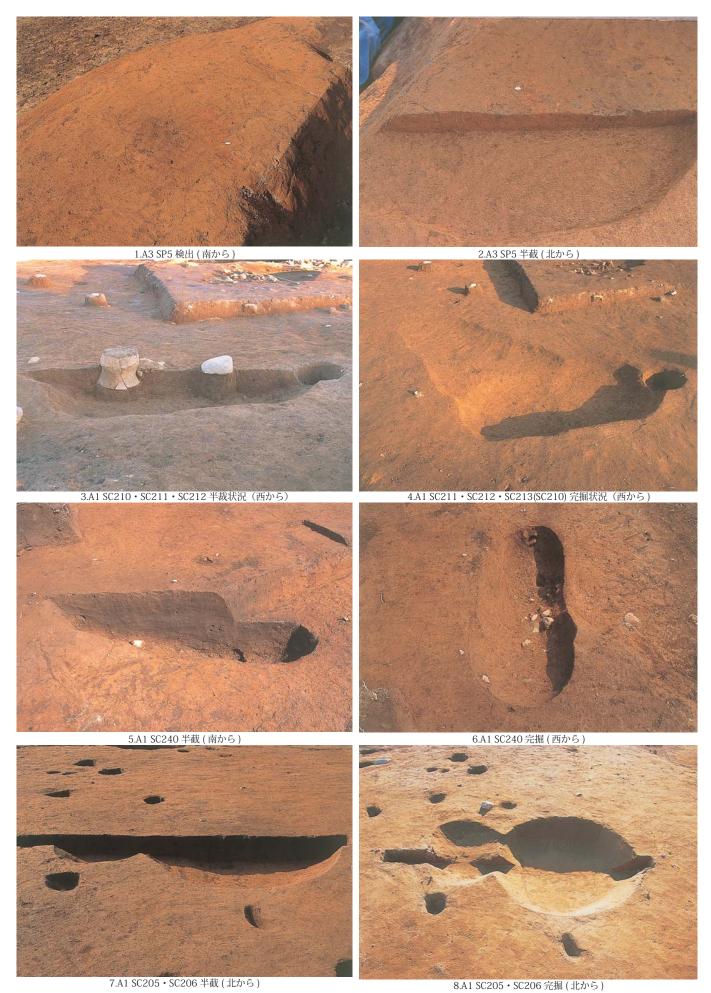
4.A3 SP1 ~ SP3 断面 (西から)



縄文時代早期 炉穴 (2) -256-



縄文時代早期 炉穴 (3) -257-

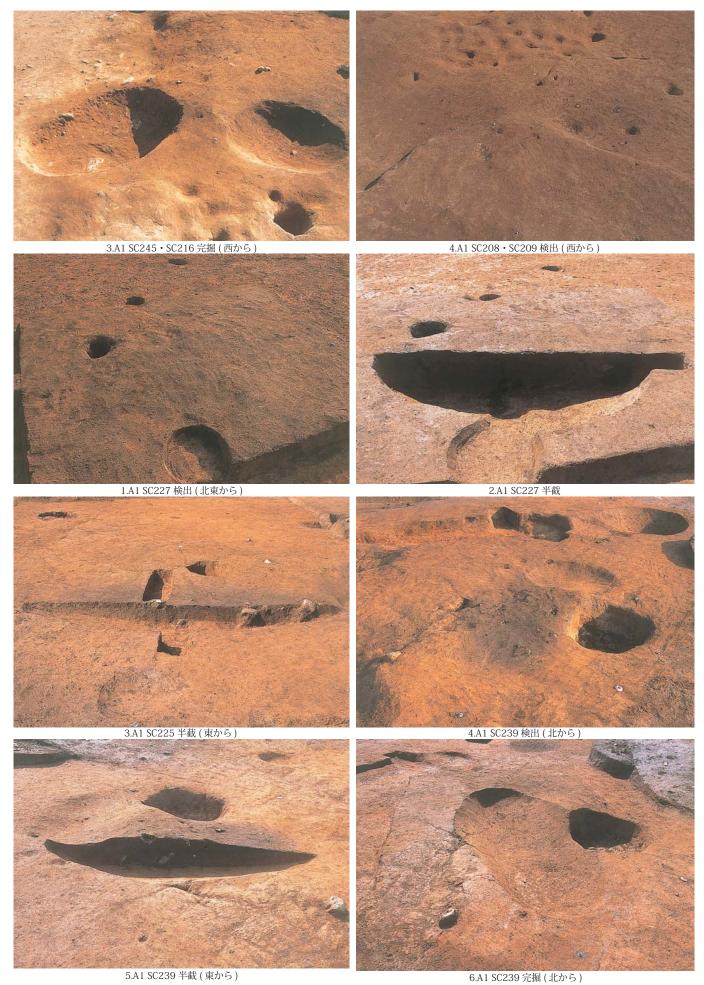


縄文時代早期 炉穴 (4)・土坑 (1) -258-



5.A1 SC249 ~ SC255・SC263 完掘 (北東から)

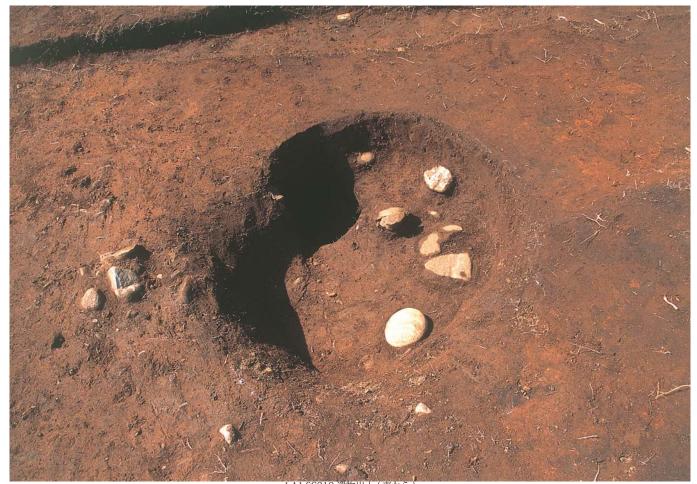
縄文時代早期 土坑 (2) -259-



縄文時代早期 土坑 (3) -260-



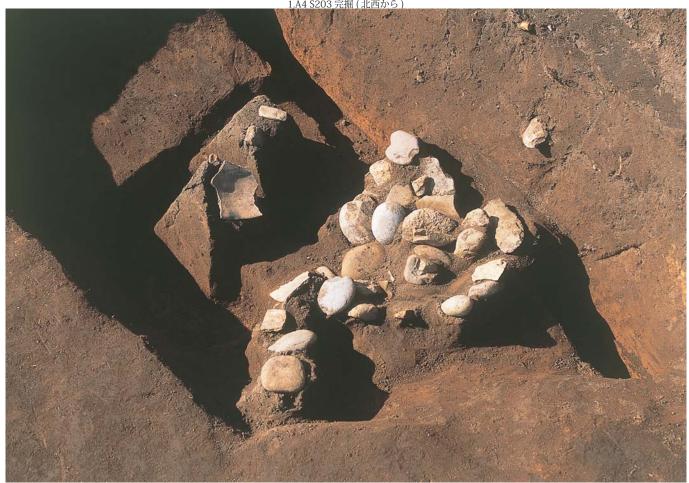
縄文時代前期~後期 土坑



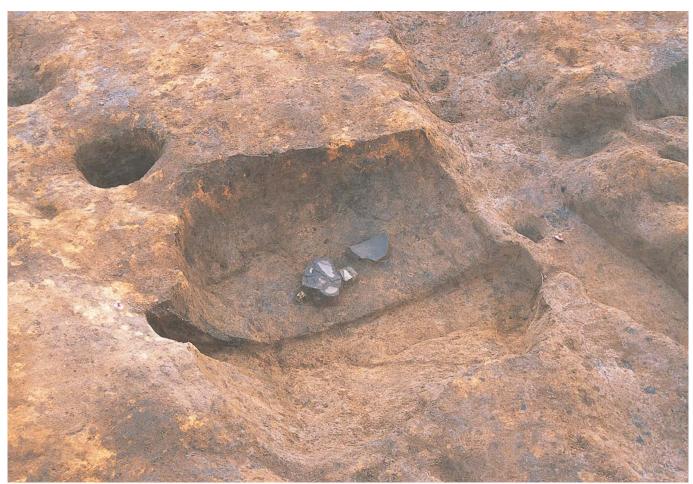


2.A4 \$104 遺物出土 縄文時代晩期 土坑 (1) -262-





2.A2 S226 遺物出土 (南から) 縄文時代晩期 土坑 (2) -263-



1.A4 S222 遺物出土 (北西から)

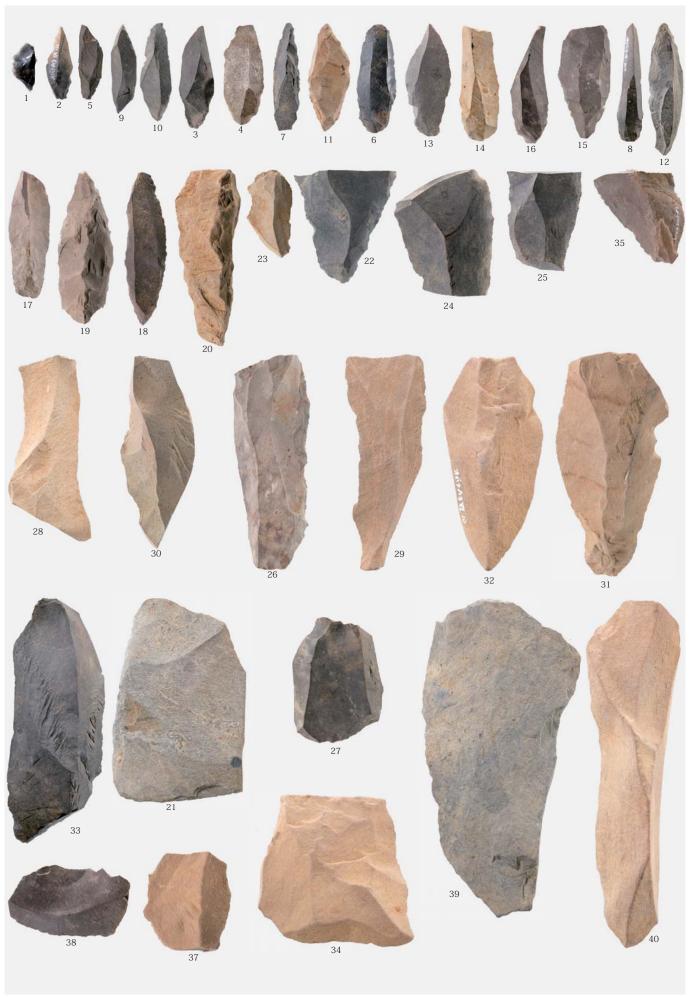


2.A5 S118 遺物出土

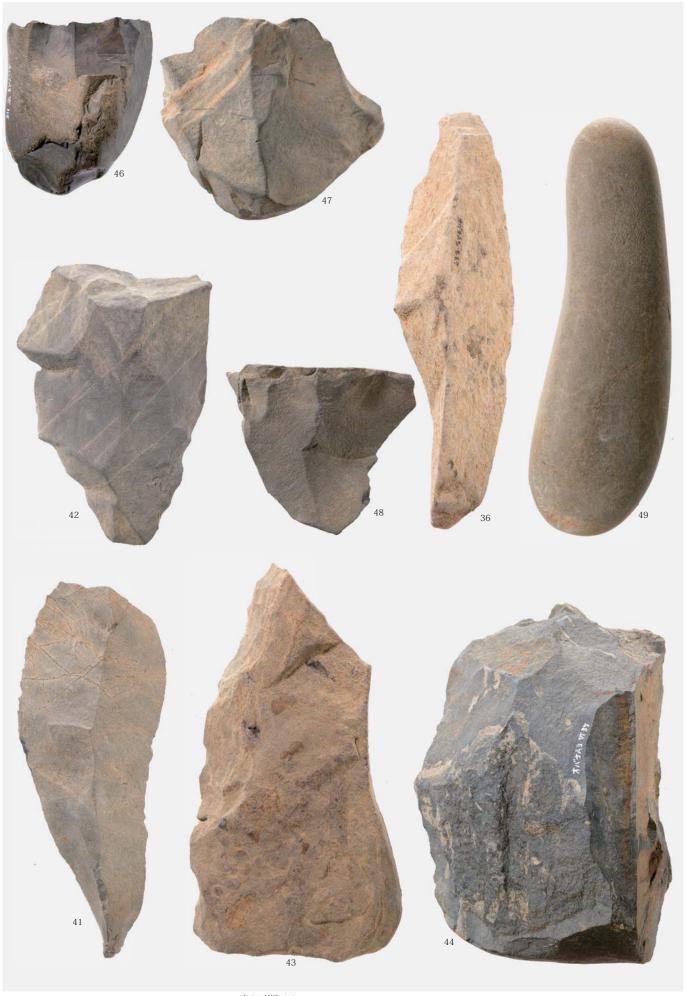
縄文時代晚期 土坑 (3) -264-



1.A2 S2501 遺物出土 (北から・画面左の土坑) 縄文時代晩期 土坑 (4)



旧石器 (1) 1 ~ 35、37 ~ 40 - 266 -



旧石器 (2) 36、41 \sim 44、46 \sim 49 - 267 -



旧石器 (3) 45、50 ~ 71 - 268 -



縄文時代草創期 (1) 整穴状遺構 (A1 SC256) 72 \sim 97 - 269 -